

2025 年 5 月

食料安全保障月報

(第 47 号)



令和 7 年 5 月 30 日

農林水産省

食料安全保障月報について

1 意義

我が国は食料の大半を海外に依存していることから、主食や飼料原料となる主要穀物(コメ、小麦、とうもろこし)及び大豆を中心に、その安定供給に向けて、世界の需給や価格動向を把握し、情報提供する目的で作成しています。

2 対象者

本月報は、2021 年 6 月まで発行していた海外食料需給レポートに食料安全保障の観点から注目している事項を適宜追加する形で、国民のみなさま、特に、原料の大半を海外に依存する食品加工業者及び飼料製造業者等の方々に対し、安定的に原料調達を行う上での判断材料を提供する観点で作成しています。

3 重点記載事項

我が国が主に輸入している国や代替供給が可能な国、それに加えて我が国と輸入が競合する国に関し、国際相場や需給に影響を与える情報（生育状況や国内需要、貿易動向、価格、関連政策等）について重点的に記載しています。

4 公表頻度

月 1 回、月末を目処に公表します。

2025 年 5 月食料安全保障月報（第 47 号）

目 次

概要編

I	2025 年 5 月の主な動き	1
II	2025 年 5 月の穀物等の国際価格の動向	4
III	2025/26 年度の穀物需給（予測）のポイント	4
IV	2025/26 年度の油糧種子需給（予測）のポイント	4
V	今月の注目情報「南米の穀物等の生産・輸出動向」	5

（資料）

1－1～3	穀物等の主要輸出国の生産量（過去 10 年平均との増減比較）	1 1
1－4	穀物等の国際価格の動向	1 4
2	穀物の生産量、消費量、期末在庫率の推移	1 5
3	穀物等の期末在庫率の推移（穀物全体、品目別）	1 6
4	加工食品の主な輸入原材料（穀物等を除く）の状況	1 8
5	食品小売価格の動向	2 2
6	海外の畜産物の需給動向（ALIC 提供）	2 3
7	FAO 食料価格指数	2 5

今月のコラム

「インドネシアの食事情③：インドネシアにおける食料安全保障政策」	2 6
----------------------------------	-----

品目別需給編

I	穀物	
1	小麦	1
	＜米国＞	2025/26 年度の生産量は前年度から 2.6%減の見込み
	＜カナダ＞	2025/26 年度の生産量は前年度から 0.7%減の見込み（AAFC）
	＜豪州＞	2025/26 年度の生産量は前年度から 9.1%減の見込み
	＜EU27＞	2025/26 年度の生産量は 134.3 百万トンに回復する見込み（EC）
	＜ロシア＞	2025/26 年度の生産量は前年度から 1.7%増の見込み
	＜ウクライナ＞	2025/26 年度の生産量は前年度から 1.7%減の見込み
	＜中国＞	2025/26 年度の生産量は前年度から 1.4%増の見込み

2	とうもろこし・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	9
	＜米国＞ 2025/26年度の生産量は、前年度から6.4%増加する見込み	
	＜ブラジル＞ 2025/26年度の生産量は、前年度から0.8%増加する見込み	
	＜アルゼンチン＞ 2025/26年度の生産量は、前年度から6.0%増加する見込み	
	＜ウクライナ＞ 2025/26年度の生産量は、前年度から13.8%増加する見込み	
	＜中国＞ 2025/26年度の生産量は、前年度から0.03%増加する見込み	
3	コメ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	15
	＜タイ＞ 2025/26年度の生産量は、前年度に比べ0.7%減の見込み	
	＜米国＞ 2025/26年度の生産量は、前年度に比べ1.3%減となる見込み	
	＜中国＞ 2025/26年度の生産量は、前年度に比べ0.5%増加する見込み	
	＜インド＞ 2025/26年度の生産量は、前年度に比べ0.7%増加する見込み	
	＜ベトナム＞ 2025/26年度の生産量は、前年度に比べ2.4%減少する見込み	
II	油糧種子	
	大豆・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	21
	＜米国＞ 2025/26年度の生産量は前年度から0.6%減の見込み	
	＜ブラジル＞ 2025/26年度の生産量は前年度比3.6%増の見込み	
	＜カナダ＞ 2025/26年度の生産量は前年度比4.2%減の見込み（AAFC）	
	＜中国＞ 2025/26年度の生産量は前年度比1.7%増の見込み	
	＜アルゼンチン＞ 2025/26年度の生産量は前年度比1.0%減の見込み	
	（参考1）本レポートに使用されている各国の穀物年度について（2025/26年度）・・・	27
	（参考2）単位換算表・・・・・・・・・・・・・・・・	27
	（参考3）各国のクロップカレンダー一覧（主要品目毎）・・・・・・・・	28

【利用上の注意】

表紙写真：インド西ベンガル州フーグリ県アクナ村の収穫期を迎えたコメ。当地では冬季米（Bodo と呼ばれる）が収穫期終盤に差ししかかっており、作柄は良好となっている。（西ベンガル州フーグリ県アクナ村 2025年5月3日）

(概要編)

I 2025 年 5 月の主な動き

主要穀物等の需給・相場等について

主要穀物等の 2025/26 年度の作況について、北半球では冬小麦が分げつ期から登熟期、とうもろこし等その他の作物は作付期から出芽期を迎えている。なお、南半球では、2024/25 年産の作物が収穫期を迎えている。

2025/26 年度の状況について、品目別にみると、5 月の米国農務省（USDA）の需給報告によれば、小麦については、米国で収穫面積が減少し生産量が減少するものの、中国、EU、インド、カナダで単収・収穫面積ともに前年度より増加、ロシアで単収が増加し生産量が増加すること等から、世界全体の生産量は史上最高となる見通し。ロシアのウクライナ侵攻に関連し、2022 年 3 月に史上最高を更新した小麦の国際相場は侵攻時の水準を下回ったものの、ウクライナ産穀物の輸出再開に関する 4 者合意（黒海穀物イニシアティブ）については 2023 年 7 月にロシアが離脱し停止。現在、黒海の臨時回廊からの輸出が順調に機能しているものの、EU 向け輸出の動向も含め注視が必要。

とうもろこしについては、米国で単収・収穫面積ともに前年度より増加、中国、EU で単収が増加、ブラジル、アルゼンチン、インドで収穫面積が増加し生産量が増加すること等から、世界全体の生産量は史上最高となる見通し。

大豆については、米国、アルゼンチン、インドで収穫面積が減少し生産量が減少するものの、ブラジルで単収・収穫面積ともに増加、中国で収穫面積が増加し生産量が増加すること等から、世界全体の生産量は史上最高となる見通し。

いずれの品目も、旺盛な消費需要により期末在庫は依然としてタイトな状況であり、引き続き注視が必要。

FAO（国連食糧農業機関）が公表している食料価格指数については、主に穀物、乳製品、肉類の上昇が、砂糖と植物油の下落を上回ったこと等により、3 月の 127.1 から、4 月（最新値）は 128.3 と上昇（参考：2024 年 4 月 119.2、2023 年 4 月 128.4、2022 年 4 月 158.8、2021 年 4 月 122.1、2020 年 4 月 92.4）。海上運賃については、バルチック海運指数（穀物輸送等に使用される外航ばら積み船の運賃指数）が、直近 5 カ年の平均値の約 7 割の水準で推移。

早期注意段階の継続について

緊急事態食料安全保障指針に基づく「早期注意段階」については、2021 年 7 月に、主要輸入農産物の国際価格や海上運賃の上昇、国際的な物流の遅れ等の当時の状況を踏まえて適用。2025 年 5 月も引き続き適用した一方で、主要穀物等の国際相場や海上運賃についてはここ最近下落傾向で推移しており、引き続きその動向に留意。

【参考】早期注意段階について（農林水産省 HP）

<https://www.maff.go.jp/j/zyukyu/anpo/soukichuui.html>



ウクライナの生産・輸出動向

USDA の 5 月需給報告によれば、2025/26 年度の小麦の生産量は、単収が増加するものの収穫面積は減少することから、前年度より 2 % 減少し 2,300 万トンとなる見込み。また、とうもろこしの生産量は、収穫面積・単収ともに増加することから、前年度より 14 % 増加し 3,050 万トンとなる見込み。2025/26 年度の小麦の輸出量は、期首在庫の増加等を受け、前年度より 3 % 増加し 1,650 万トンとなる見込み。とうもろこしの輸出量も前年度より 9 % 増加し 2,400 万トンとなる見込み。

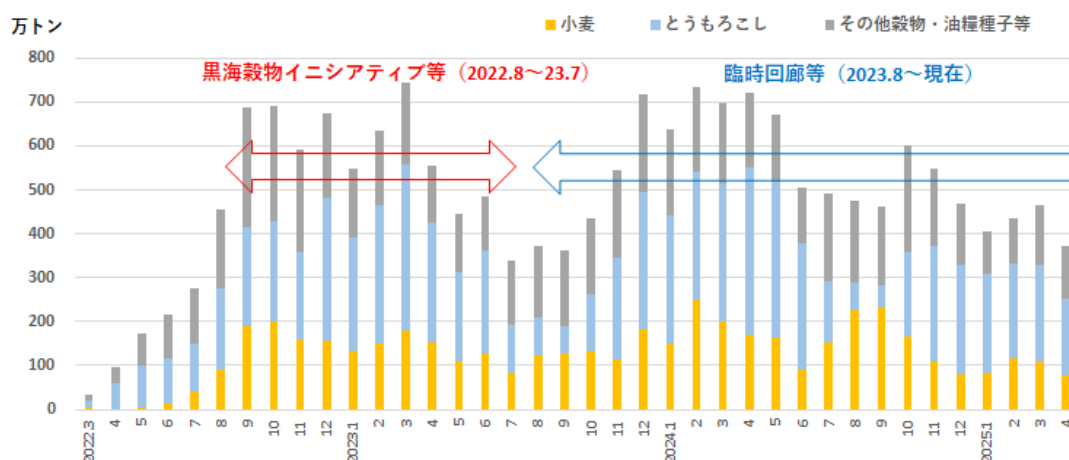
現地情報会社によれば、2025 年 4 月末現在、2025/26 年度の秋播き作物は平年より 7 ~ 10 日早いペースで生長が進んでおり、このうち冬小麦は茎立期を迎えている。春小麦及びとうもろこしは作付作業が進んでおり、一部の圃場では出芽がみられる。ウクライナ農業政策食料省によれば、5 月 8 日現在の春小麦の作付進捗率は 93 %。とうもろこしの作付進捗率は 73 %。

臨時回廊からの輸出状況

2022 年 7 月 22 日の国連、ウクライナ、ロシア及びトルコの 4 者によるウクライナ産穀物の黒海経由での輸出再開に関する合意（黒海穀物イニシアティブ）により、同年 8 月以降、オデーサ港等 3 港（オデーサ港、チョルノモルスク港、ピウデンヌィ港）からの輸出が再開したが、2023 年 7 月 17 日にロシアが同イニシアティブからの離脱を表明し、輸出が停止した。ウクライナ農業政策食料省によれば、同イニシアティブ履行期間中の輸出実績（2022 年 8 月 ~ 23 年 7 月）は、穀物・油糧種子等 6,846 万トン（うち、小麦 1,728 万トン、とうもろこし 2,949 万トン）。

ウクライナは、ルーマニア・ブルガリアの黒海沿岸を通過する新ルート「臨時回廊」を国際海事機関（IMO）に通報し、2023 年 8 月以降、運用が開始された。現在、臨時回廊や、運河等を利用し、ルーマニアのコンスタンツァ港などを経由した輸出が行われている。輸出ルートのうち、EU 域内を経由した輸出（鉄道又はトラック）は減少傾向にある一方、臨時回廊からの輸出量が大半を占めている。

（参考）ウクライナの輸出量の推移（月毎）（2022 年 3 月 ~ 2025 年 4 月）



出典：農業政策食料省のデータをもとに農林水産省で作成

注：データは港湾、鉄道、陸路などすべての輸出の計。

1 EU：小麦の生産量は前年度から回復する見込み

USDA によれば、2025/26 年度の EU の小麦生産量は 1 億 3,600 万トンと、前年度から 11%増加し、過去 5 年平均を 3%上回る見込み。収穫面積は 2,400 万ヘクタールと、前年度から 6%増加し、過去 5 年平均を 1%上回る。単収は 5.67 トン/ヘクタールと、前年度から 5%増加し、過去 5 年平均を 2%上回る。2024 年 9 月、EU の冬小麦は、非常に雨が多い状況で作付けが開始されたが、降雨はその後落ち着き、大部分の地域で作付作業が進展した。冬季は温暖な気候となり大きな冬枯れは報告されていない。EU の主要な小麦生産国であるドイツとフランスでは、過度の降雨により単収が減少した前年度に比べ、生長に適した天候となっているものの、春季にフランス、ドイツ、ポーランド等の国々で乾燥型の天候となり、更なる降雨が望まれる。

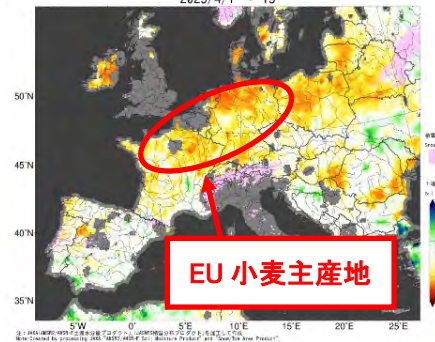
2 ロシア：小麦の生産量は作付面積の減少により平年を下回る見込み

USDA によれば、2025/26 年度のロシアの小麦生産量は 8,300 万トン（うち、冬小麦 5,900 万トン、春小麦 2,400 万トン）と、前年度から 2%増加するものの、過去 5 年平均を 3%下回る見込み。収穫面積は 2,720 万ヘクタールと、前年度から 2%減少し、過去 5 年平均を 4%下回る。単収は 3.05 トン/ヘクタールと、前年度から 4%増加し、過去 5 年平均を 2%上回る。冬小麦の大部分が栽培される欧州部では、秋季に降水量が平年を下回り土壌水分量が著しく減少したため、冬小麦が休眠状態に入る 11 月下旬、冬小麦を含む秋播き作物の作柄は約 37%が「不良」となった。その後、温暖な冬と平年並みの春先の天候に恵まれ、3 月中～下旬には「不良」の割合は 5%まで減少した。冬小麦の単収は 5 月から 6 月の天候に大きく左右されるため、この 2 ヶ月間に、より良好で安定した天候が望まれる。

3 インド：小麦の生産量は史上最高を記録する見込み

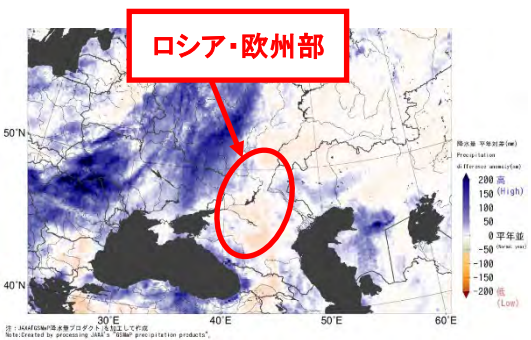
USDA によれば、2025/26 年度のインドの小麦生産量は 1 億 1,700 万トンと史上最高を記録する見込み。前年度から 3%増加し、過去 5 年平均を 7%上回る。収穫面積は 3,250 万ヘクタールと、前年度から 2%増加し、過去 5 年平均を 4%上回る。単収は 3.60 トン/ヘクタールと、前年度から 1%増加し、過去 5 年平均を 3%上回る。今期はモンスーンの降水量が平年を上回っており、生育期間を通じて良好な天候に恵まれた。また、インドの小麦の市場価格が安定していることから、インド政府は 2025/26 年産小麦の最低支持価格（MSP）を約 7%引き上げることを決定した。これにより農家は、菜種、マスタード、ソルガム、豆類などの競合する作物よりも小麦の作付けを行ったため、史上最高の作付面積を記録した。

図：EUの土壌水分量（平年対比）
（2025 年 4 月 1～15 日）



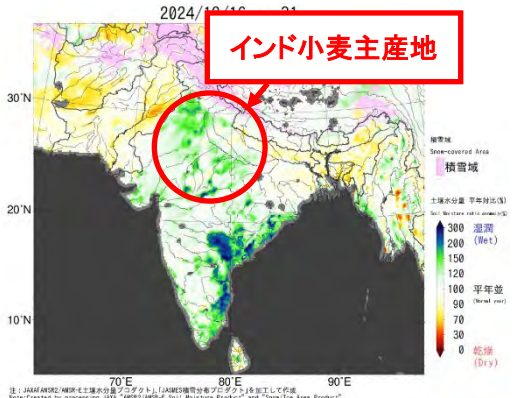
出典：農業気象情報衛星モニタリングシステム（JASMAI）

図：ロシアの降水量（平年対差）
（2024 年 11 月 16～30 日）



出典：農業気象情報衛星モニタリングシステム（JASMAI）

図：インドの土壌水分量（平年対比）
（2024 年 12 月 16～31 日）



出典：農業気象情報衛星モニタリングシステム（JASMAI）

II 2025 年 5 月の穀物等の国際価格の動向

小麦は、4 月末、180 ドル/トン台後半で推移。5 月に入り、欧州及び黒海地域の乾燥予報等を受けて 190 ドル/トン台半ばまで上昇したものの、米国及び黒海地域の天候改善予報や米国農務省需給報告で米国産の期末在庫量が市場予想を上回ったこと等を受けて下落し、5 月中旬現在、180 ドル/トン台後半で推移。

とうもろこしは、4 月末、180 ドル/トン台前半で推移。5 月に入り、米国の良好な天候による順調な作付進捗やブラジルの増産見通しを受けて下落し、5 月中旬現在、170 ドル/トン前半で推移。

コメは、4 月末、440 ドル/トン台前半で推移。5 月に入り、米国等からのタイ、インド、パキスタン産米の販売が好調であったこと等を受け、450 ドル/トン台前半まで上昇したものの、引き続きアジアからの需要低迷、インド産米等との競合を受けて下落し、5 月中旬現在、440 ドル/トン台半ばで推移。

大豆は、4 月末、380 ドル/トン台半ばで推移。5 月に入り、米国の良好な天候による順調な作付進捗や米国産大豆の需要を巡る懸念等を受けて 370 ドル/トン後半まで下落したものの、その後、米国及び中国が一定期間追加関税率を大幅に引き下げることなどで合意したこと等を受け上昇し、5 月中旬現在、390 ドル/トン台前半で推移。

(注) 小麦、とうもろこし、大豆はシカゴ相場（期近物）、コメはタイ国家貿易委員会価格

III 2025/26 年度の穀物需給（予測）のポイント

世界の穀物全体の生産量は、前年度より 2.0% 増の 28.97 億トン。消費量は、前年度より 1.3% 増の 29.07 億トンとなり、生産量が消費量を下回る見込み。

期末在庫量は前年度より減少し、期末在庫率も前年度を下回り 26.0% となる見込み（資料 2 参照）。

生産量は、前年度より、とうもろこし、小麦、コメで増加し、穀物全体で増加となり、28.97 億トンの見込み。

消費量は、前年度より、小麦、とうもろこし、コメで増加し、穀物全体で増加となり、29.07 億トンの見込み。

貿易量は、前年度より、コメで減少も、小麦、とうもろこしで増加し、穀物全体で増加し、5.12 億トンの見込み。

期末在庫量は、7.56 億トンと前年度より減少、期末在庫率も、前年度より減少する見込み。

(注：数値は 5 月の USDA 「PS&D」 による)

IV 2025/26 年度の油糧種子需給（予測）のポイント

油糧種子全体の生産量は前年度を上回り 6.92 億トン。消費量は前年度を上回り 6.88 億トンとなり、前年度に引き続き、生産量が消費量を上回る見込み。

期末在庫量は、前年度より増加するものの、期末在庫率は前年度を下回る 20.8% となる見込み。

(注：数値は 5 月の USDA 「PS&D」 等による)

V 今月の注目情報: 南米の穀物等の生産・輸出動向

南米では、2024/25年度の小麦の収穫は終了し、現在、とうもろこし及び大豆の収穫作業が進展している。ブラジルではとうもろこし、大豆ともに増産となり、アルゼンチンでは、2023/24年度の病害虫のヨコバイによる被害により作付けが大幅に減少したとうもろこしで減産となったものの、小麦、大豆は増産となった。

ブラジル産とうもろこし及び大豆、アルゼンチン産小麦、とうもろこし、大豆について、2024/25年度の生産・輸出動向を振り返るとともに、2025/26年度の見通しについてまとめた。

注：文中の「2024/25年度」等は市場年度で、ブラジル及びアルゼンチンの大豆は2024年10月から2025年9月、とうもろこしは2025年3月から2026年2月。国や作物によって異なる(品目別需給編 P.27 参照)。

1 ブラジルの生産・輸出動向

(1) とうもろこしの生産動向

USDA によれば、2024/25年度のブラジルのとうもろこしの生産量は1億3,000万トンと、2023/24年度から9%増加し、過去5年平均を16%上回る見込み。収穫面積は2,230万ヘクタールと、2023/24年度から3%増加し、過去5年平均を7%上回る。単収は5.83トン/ヘクタールと、2023/24年度から6%増加し、過去5年平均を9%上回る。

ブラジルのとうもろこしは、8月から翌1月頃に作付けされる夏とうもろこしと1月から3月頃に作付けされる冬とうもろこしに大別される。中でも、大豆の収穫後に作付けされる冬とうもろこしが国内生産の約8割を占め、その理想的な作付時期は2月末までとされている。冬とうもろこしの作柄の良否は雨季の期間にかかっている。ブラジルの雨季は、通常9月に始まり翌5月に終わる。2024年は雨季の開始が遅れたため、2024/25年度の大豆の作付けの開始が10月上旬まで遅れた(図1)。このため、大豆の収穫とそれに続く冬とうもろこしの作付けに遅れが生じた。冬とうもろこしの作付けの遅れは、雨季が早く終わった場合、生育期間が短縮され、単収が減少する恐れがある。しかしながら、2025年は5月上旬まで安定した降雨量に恵まれ、冬とうもろこしの単収が増加した(図2)。ブラジル食料供給公社(CONAB)によれば、5月上旬時点で、夏とうもろこしの収穫進捗率は78%、冬とうもろこしは開花期から登熟期を迎えている。

2025/26年度のブラジルのとうもろこしの生産量は1億3,100万トンと、2024/25年度から1%増加し、過去5年平均を11%上回る見通し。これは2022/23年度に次

図1 南米の降水量(平年対差)(2024.9)
ブラジル中西部：雨季の開始が遅れる

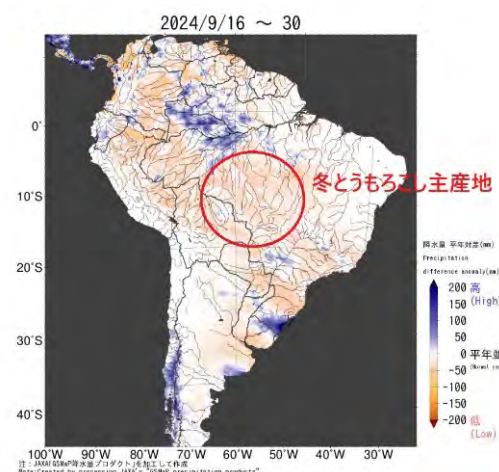
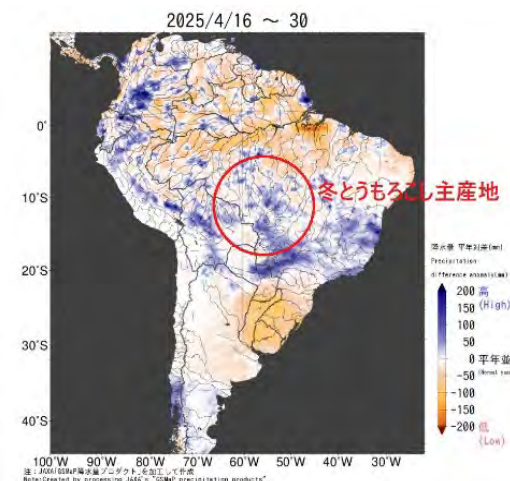


図2 南米の降水量(平年対差)(2025.4)
ブラジル中西部：十分な降雨に恵まれる



ぐ過去2番目の水準。収穫面積は史上最高の2,260万ヘクタールと、2024/25年度から1%増加し、過去5年平均を5%上回る。単収は5.80トン/ヘクタールと、2024/25年度から1%減少するものの、過去5年平均を7%上回る見込み。

(2) 大豆の生産動向

USDAによれば、2024/25年度のブラジル大豆の生産量は1億6,900万トンと、2023/24年度から9%増加し、過去5年平均を18%上回る見込み。収穫面積は4,740万ヘクタールと、2023/24年度から3%増加し、過去5年平均を13%上回る。単収は3.57トン/ヘクタールと、2023/24年度から7%増加し、過去5年平均を5%上回る。

2024/25年度は、通常9月に始まる雨季の開始が遅れ、作付けの開始が遅れた。しかし、10月に入り、雨と晴れの期間が交互に記録されたことにより、作業が進展(図3)、11月までに作業の遅れを取り戻した。11月以降も大半の地域で生育に適した天候に恵まれ、多くの生産州で史上最高の単収を記録した。CONABによれば、5月上旬時点で、大豆の収穫進捗率は98%とほぼ終了した。

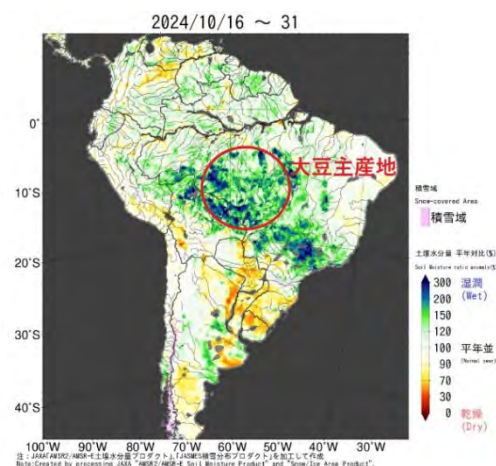
2025/26年度のブラジル大豆の生産量は、史上最高の1億7,500万トンとなる見通し。2024/25年度から4%増加し、過去5年平均を16%上回る。収穫面積も史上最高の4,880万ヘクタールとなり、2024/25年度から3%増加し、過去5年平均を11%上回る。単収は3.59トン/ヘクタールと、2024/25年度から1%増加し、過去5年平均を4%上回る見込み。

(3) 輸出動向

とうもろこしについて、ブラジルの主要輸出先は、ベトナム、韓国、日本、台湾、中国などのアジア諸国、エジプト、アルジェリア、モロッコなどのアフリカ諸国、イラン、サウジアラビアなどの中近東諸国等、多岐にわたっている(図4)。USDAによれば、2024/25年度の輸出量は、生産量の増加に伴い2023/24年度から12%増加し4,300万トンとなる見込み。ただし、ブラジル国内のバイオエタノール生産の増加に伴い、国内消費量が2023/24年度から8%増加しており、とうもろこし輸出量の増加の伸びが鈍化している。2025/26年度の輸出量は、2024/25年度と同水準の4,300万トンとなる見込

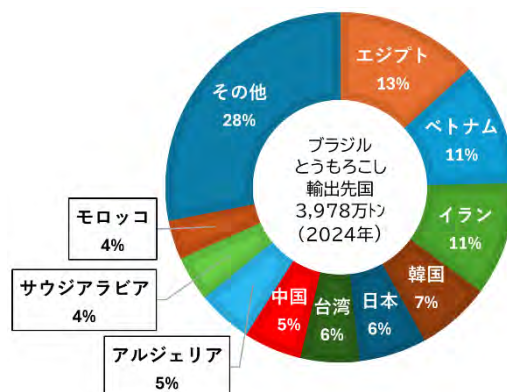
図3 南米の土壌水分量(平年対比)(2024.10)

ブラジル中西部：十分な土壌水分量



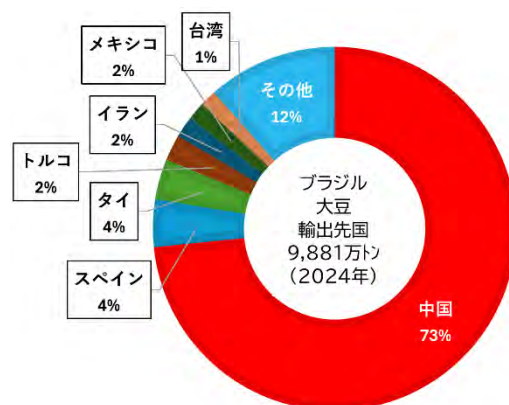
出典：農業気象情報衛星モニタリングシステム (JASMAI)

図4 ブラジルのとうもろこし輸出先国



出典：S&P Global Intelligence をもとに農林水産省で作成

図5 ブラジルの大豆輸出先国



出典：S&P Global Intelligence をもとに農林水産省で作成

み。

大豆について、ブラジルの主要輸出先は、中国向けが大半を占めており、次いでスペイン、タイ、トルコ、イラン、メキシコ、台湾となっている（図5）。USDAによれば、ブラジルは2012/13年度以来、継続して世界第1位の大豆輸出国である。2022/23年度以降は、高い価格競争力と中国向けの輸出増から、毎年過去最高を更新し続けている。2025/26年度の輸出量は過去最高の1億1,200万トンと、生産量の増加に加え、中国からの引き続き堅調な需要により、2024/25年度から7%増加する見込み（図6）。

2 アルゼンチンの生産・輸出動向

（1）小麦の生産動向

USDAによれば、2024/25年度の小麦の生産量は1,854万トンと、2023/24年度から17%増加し、過去5年平均を5%上回る見込み。収穫面積は635万ヘクタールと、2023/24年度から14%増加し、過去5年平均を3%上回る。単収は2.92トン/ヘクタールと、2023/24年度及び過去5年平均を3%上回る。

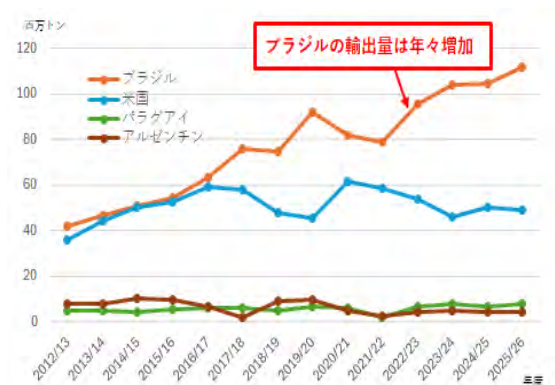
アルゼンチンの小麦の作付作業は、5月から北部地域で始まり、ブエノスアイレス州南部で7～8月に終了する。2024/25年度は、2024年4月の降雨により土壌水分量が良好となり作付けに適した条件が確保された（図7）。また、小麦の国際価格の上昇と窒素肥料の価格低下により、農家は当初の予定より小麦の作付けを増加させた。冬季は産地の大部分で生育に適した降雨に恵まれたが、春季に主産地のブエノスアイレス州中南部で高温乾燥型の天候に見舞われ、単収が悪化した。

2025/26年度の小麦の生産量は史上最高の2,000万トンと、2024/25年度から8%増加し、過去5年平均を15%上回る見込み。収穫面積は650万ヘクタールと、2024/25年度から2%増加し、過去5年平均を7%上回る。単収は3.08トン/ヘクタールと、2024/25年度から5%増加し、過去5年平均を9%上回る。作付けを控えた主産地では2025年4月末現在、概ね良好な土壌水分量となっている（図8）。

（2）とうもろこしの生産動向

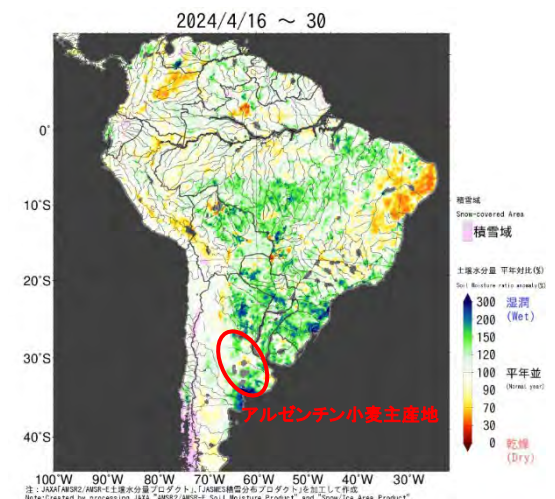
USDAによれば、2024/25年度のとうもろこしの生産量は5,000万トンと、2023/24年度から2%減少するものの、過去5年平均とほぼ同水準の見込み。収穫面積は

図6 大豆輸出量の国別推移



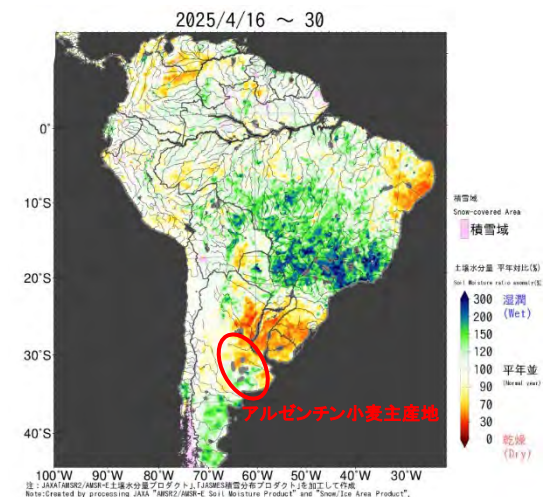
出典：USDA「PS&D」をもとに農林水産省で作成

図7 南米の土壌水分量(平年対比)(2024. 4)
小麦作付期の土壌水分量は良好



出典：農業気象情報衛星モニタリングシステム（JASMAI）

図8 南米の土壌水分量(平年対比)(2025. 4)
小麦作付期の土壌水分量は概ね良好



出典：農業気象情報衛星モニタリングシステム（JASMAI）

640 万ヘクタールと、2023/24 年度から 18%減少し、過去 5 年平均を 11%下回る。これは、2024 年 2 月以降、病害虫のヨコバイによる被害が発生し、2023/24 年度の遅植えとうもろこしの作柄が大幅に悪化、アルゼンチン北部で深刻な被害が発生したことから、2024/25 年度のとうもろこしの作付けが大幅に減少したことによる。また、作付け当時のとうもろこし価格の下落により収益が見込める大豆に作付けがシフトしたことも一因。単収は 7.81 トン/ヘクタールと、2023/24 年度から 19%増加し、過去 5 年平均を 12%上回る。

早植えとうもろこしは開花期を迎える 2024 年 12 月下旬から 1 月中旬にかけて高温乾燥型の天候に見舞われ（図 9）、作柄が悪化した。一方、遅植えとうもろこしは開花期と登熟期の 2025 年 2 月から 3 月にかけて豊富な降雨に恵まれ、作物の生長に良好な条件となった（図 10）。アルゼンチン農牧漁業庁（SAGyP）によれば、5 月 15 日現在、とうもろこしの収穫進捗率は 37%となっており、前年同期（34%）を上回っている。

2025/26 年度のとうもろこしの生産量は 5,300 万トンと、2024/25 年度から 6 %増加し、過去 5 年平均を 8 %上回る見込み。収穫面積は 750 万ヘクタールと、2024/25 年度から 17%増加し、過去 5 年平均を 5 %上回る。単収は 7.07 トン/ヘクタールと、2024/25 年度から 9 %減少するものの、過去 5 年平均を 3 %上回る。現在の国際市況は、大豆に比べとうもろこしの方が収益が見込まれることから、とうもろこしの作付面積が増加すると予測されている。なお、2025/26 年度の作付けは 2025 年 9 月以降に開始される見込み。

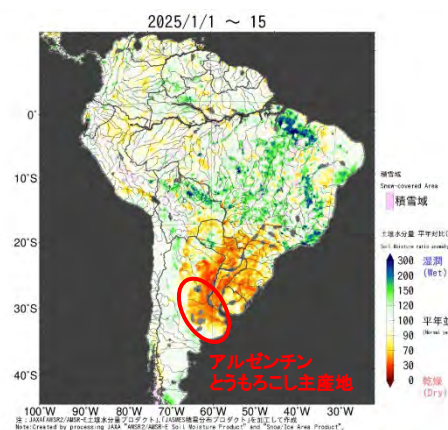
（3）大豆の生産動向

USDA によれば、2024/25 年度の大豆の生産量は 4,900 万トンと、2023/24 年度から 2 %増加し、過去 5 年平均を 16%上回る見込み。収穫面積は 1,730 万ヘクタールと、2023/24 年度から 6 %増加し、過去 5 年平均を 8 %上回る。これは、作付け当時のとうもろこし価格の下落により収益が見込める大豆に作付けがシフトしたことによる。単収は 2.83 トン/ヘクタールと、2023/24 年度から 4 %減少するものの、過去 5 年平均を 7 %上回る。

2024 年 12 月下旬から 1 月中旬にかけて高温乾燥型の天候が作物の生長に悪影響を与えたが、その後の降雨により作柄が回復し、単収の大幅な低下を防いだ。SAGyP によれば、3 月以降の多雨により収穫作業が遅れ、4 月 16 日時点で大豆の収穫進捗率は 6 %と、前年同期の 14%を下回っていたものの、その後作業が進展し、5 月 15 日現在、収穫進捗率は 66%と、前年同期の 61%を上回っている。

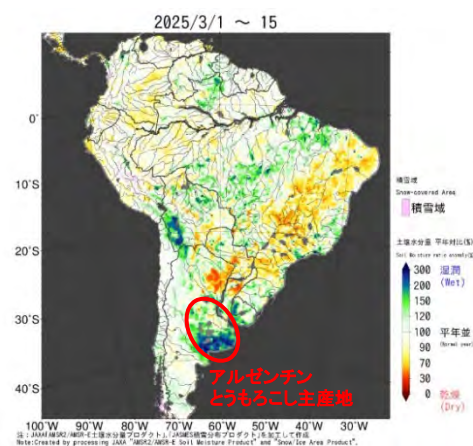
2025/26 年度の大豆の生産量は 4,850 万トンと、2024/25 年度から 1 %減少するものの、過去 5 年平均を 14%上回る見込み。収穫面積は 1,650 万ヘクタールと、2024/25 年度から 5 %

図 9 南米の土壤水分量(平年対比) (2024. 1)
アルゼンチンコーンベルト：土壤水分量不足



出典：農業気象情報衛星モニタリングシステム（JASMAI）

図 10 南米の土壤水分量(平年対比) (2024. 3)
アルゼンチンコーンベルト：土壤水分量は十分



出典：農業気象情報衛星モニタリングシステム（JASMAI）

減少するものの、過去5年平均を3%上回る。現在の国際市況は、大豆に比べとうもろこしの方が収益が見込まれることから、大豆の作付面積が減少すると予測されている。単収は2.94 トン/ヘクタールと、2024/25 年度から4%増加し、過去5年平均を12%上回る。なお、2025/26 年度の作付けは2025 年10 月以降に開始される。

(4) 輸出動向

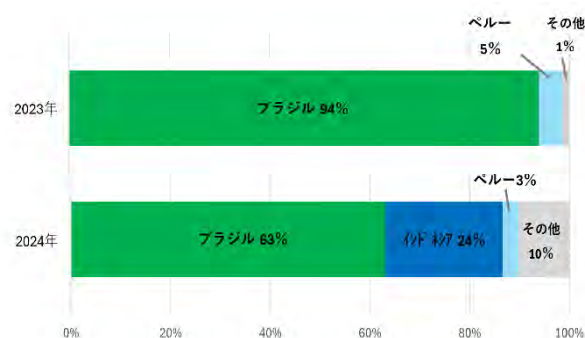
小麦について、アルゼンチンの主要輸出先は、ブラジル向けが大半を占めているが、2024 年はインドネシア向け輸出が大幅に増加した（図 11）。USDA によれば、2024/25 年度の輸出量は、期首在庫量と生産量の増加により供給量の増加が見込まれるため、2023/24 年度から34%増加し1,100 万トンとなる見込み。2025/26 年度の輸出量についても、期首在庫量と生産量の増加により供給量の増加が見込まれるため、2024/25 年度から18%増加し1,300 万トンとなる見込み。

とうもろこしについて、アルゼンチンの主要輸出先は、ベトナム、マレーシア、韓国、インドネシアなどのアジア諸国を中心に、ペルー、チリなどの中南米諸国、アルジェリアなどのアフリカ諸国、サウジアラビアなどの中近東諸国等、多岐にわたっている（図 12）。USDA によれば、2024/25 年度の輸出量は、2023/24 年度のヨコバイの影響による作付けの減少に伴う生産量の減少により2023/24 年度から2%減少し3,550 万トンとなる見込み。2025/26 年度の輸出量は、生産量の回復が見込まれるため、2024/25 年度から4%増加し3,700 万トンとなる見込み。

大豆について、アルゼンチンの大豆輸出先国は中国が9割以上を占める（図 13）。アルゼンチンは、付加価値のついた大豆油や大豆粕の輸出が主流となっており、丸大豆の輸出量は少ない。USDA によれば、2024/25 年度の輸出量は、大豆油と大豆粕の大幅な輸出増に伴い、2023/24 年度から18%減少し420 万トンとなる見込み。2025/26 年度の輸出量は、期首在庫量の増加により2024/25 年度から7%増加し450 万トンとなる見込み。

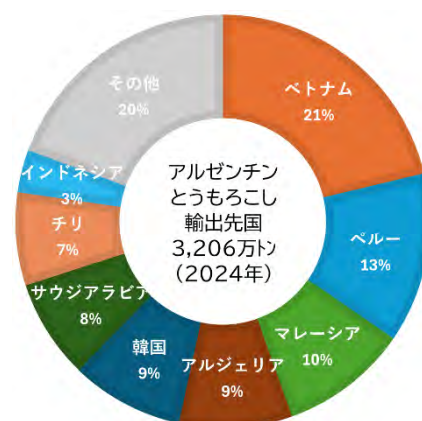
アルゼンチン政府は、従来から財政不足を補うため、小麦、とうもろこしに対して12%、大豆に対して33%の輸出税を課していたが、2025 年1 月27 日から6 月30 日まで、小麦、とうもろこしの輸出税を9.5%に、大豆の輸出税を26%に引き下げた。業界関係者によれば、2025 年10 月に中間選挙が予定されているため、当該措置が延長されるとの見方がある。

図 11 アルゼンチンの小麦輸出先国



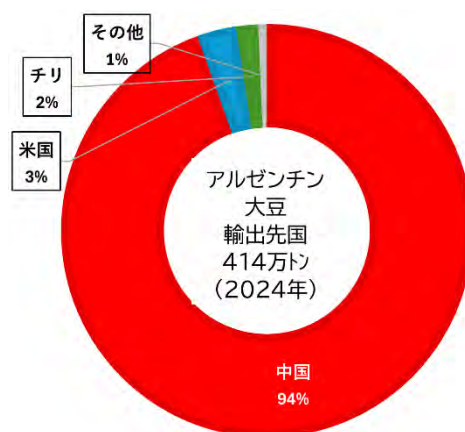
出典：S&P Global Intelligence をもとに農林水産省で作成

図 12 アルゼンチンのとうもろこし輸出先国



出典：S&P Global Intelligence をもとに農林水産省で作成

図 13 アルゼンチンの大豆輸出先国



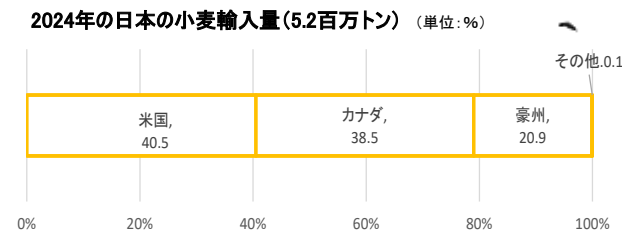
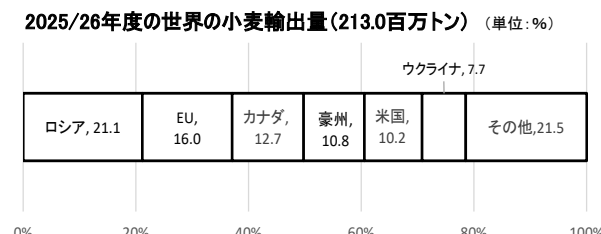
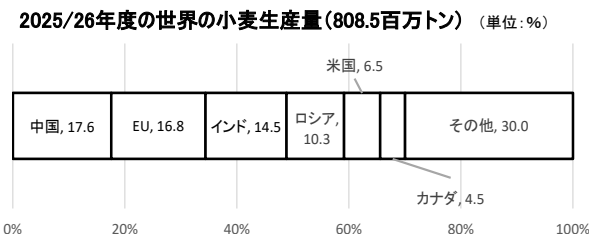
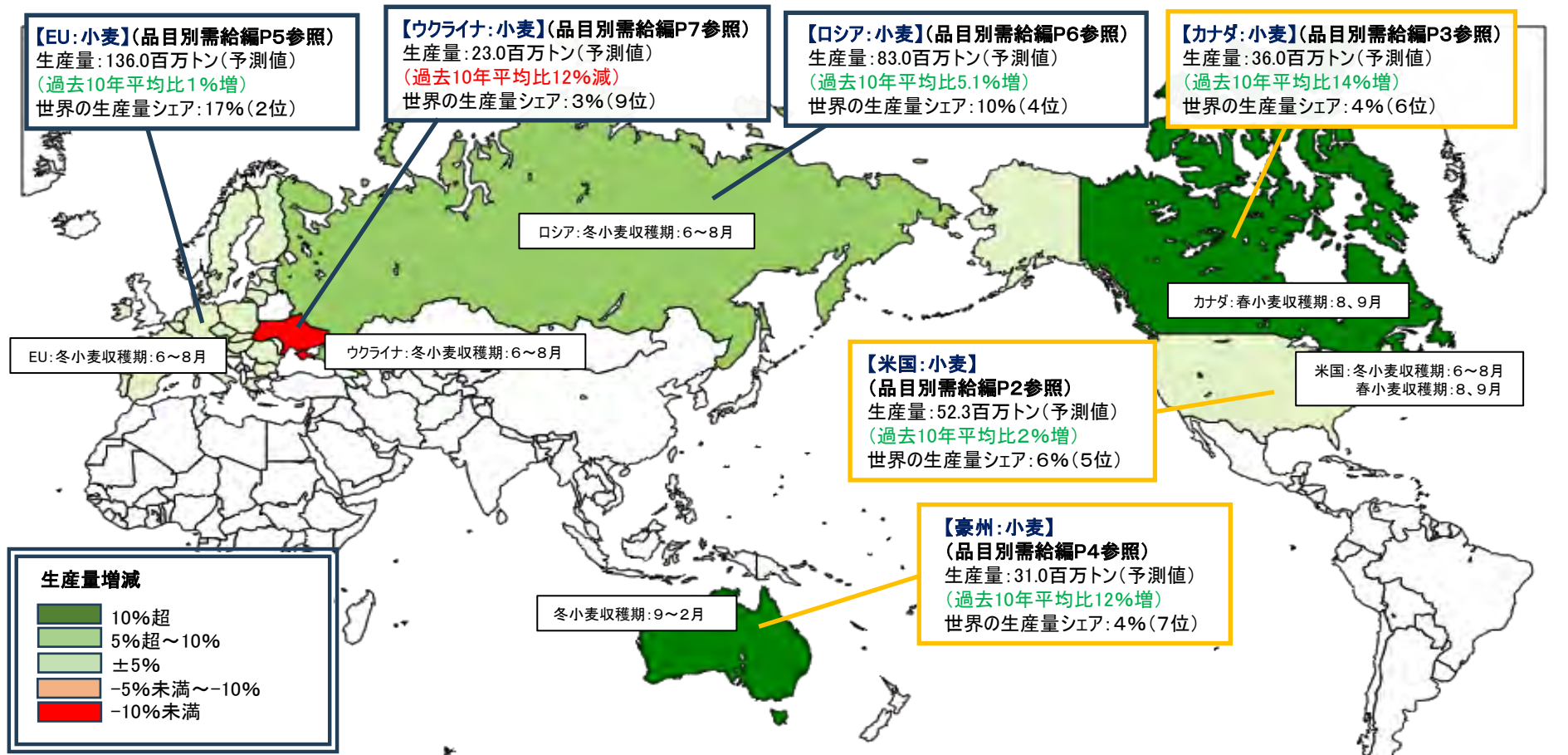
出典：S&P Global Intelligence をもとに農林水産省で作成

3 まとめ

ブラジルでは、現在、2024/25 年度の大豆の収穫が終了し、とうもろこしの収穫作業が進捗している。2024/25 年度は大豆、とうもろこし共に天候に恵まれ、とうもろこしの生産量は、2022/23 年度に次ぐ史上 2 番目の水準に、大豆の生産量は史上最高を記録する見込みである。アルゼンチンでは、現在、2024/25 年度の小麦の収穫が終了しており、とうもろこし、大豆の収穫作業が進捗している。小麦、とうもろこし、大豆ともに概ね天候に恵まれ、とうもろこしについては、2023/24 年度のヨコバイ被害により作付面積が減少することから生産量が減少するものの、小麦、大豆の生産量は 2023/24 年度より増加する見込みとなっている。2025/26 年度については、ブラジル、アルゼンチン共にまだ作付けが始まっていないため、単収や作付面積の予測をするには時期尚早であるものの、USDA によれば、アルゼンチンの大豆生産量が若干減少、ブラジルのとうもろこし輸出量が前年度同水準である以外は生産量、輸出量ともに増加の見通しとなっている。

最近の世界の穀物市場については、米国のトランプ大統領が 2025 年 1 月 20 日の就任以来、次々と新たな関税措置を発表しており、これらの関税政策が今後どのように展開されるか不透明な状況と言われている。また、米国気象予測センターは、2025 年 11 月から 2026 年 1 月にかけてラニーニャ現象が発生する確率を 41%と予測している。ブラジル、アルゼンチンはラニーニャ現象の影響を強く受ける傾向があり、ラニーニャ現象が到来した 2022/23 年度には、ブラジルでは概ね生育に適した天候に恵まれ、とうもろこし、大豆ともに史上最高を記録した一方、アルゼンチンでは 60 年に一度とも言われる干ばつに見舞われ、穀物は軒並み大幅な減産となった。今後の気象の変化に注意を払う必要がある。さらに、ウクライナ情勢や中東情勢などの地政学リスクも継続しており、引き続き南米における生産・輸出動向を含め、世界の穀物需給の動向を注視していきたい。

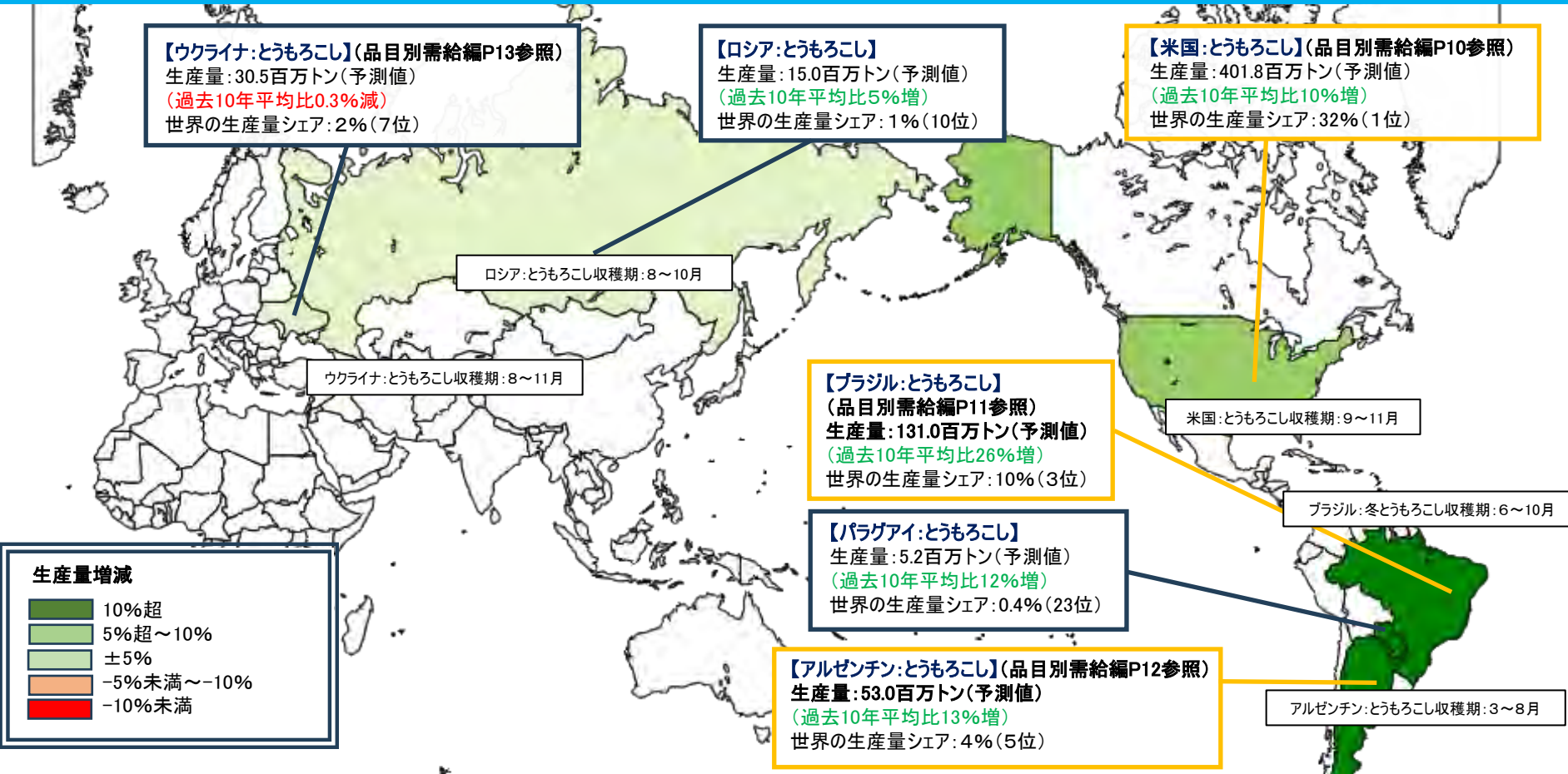
資料1-1 小麦の主要輸出国の生産量(過去10年平均との増減比較) 2025/26年度(5月版)



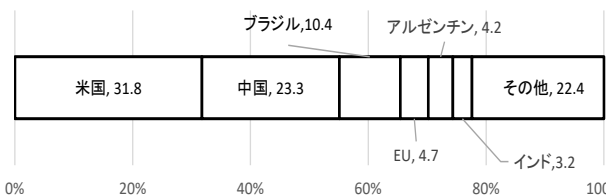
- 2023年度の日本の小麦輸入量は510万トンであり、日本の小麦国内消費仕向量(631万トン、うち食用は494万トン)の80.9%を占める。
- 輸入小麦の1人1日当たり供給熱量は238kcalと、1人1日当たり総供給熱量(2,203kcal)の10.8%を占める。

出典:USDA「PS&D」(2025.5)、財務省「貿易統計」(2024年輸入量)、農林水産省「令和5年度食料需給表」(破線枠内)、AMIS「Supply and demand balances manual」(収穫期)をもとに農林水産省で作成。

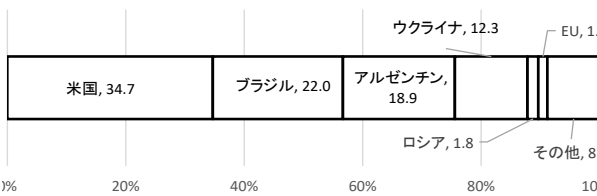
資料1-2 とうもろこしの主要輸出国の生産量(過去10年平均との増減比較) 2025/26年度(5月版)



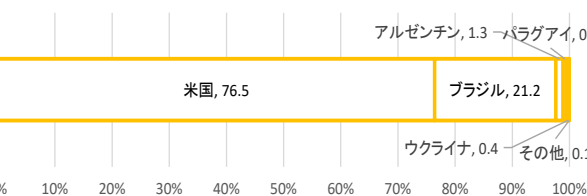
2025/26年度の世界のとうもろこし生産量(1,265.0百万トン) (単位: %)



2025/26年度の世界のとうもろこし輸出量(195.8百万トン) (単位: %)



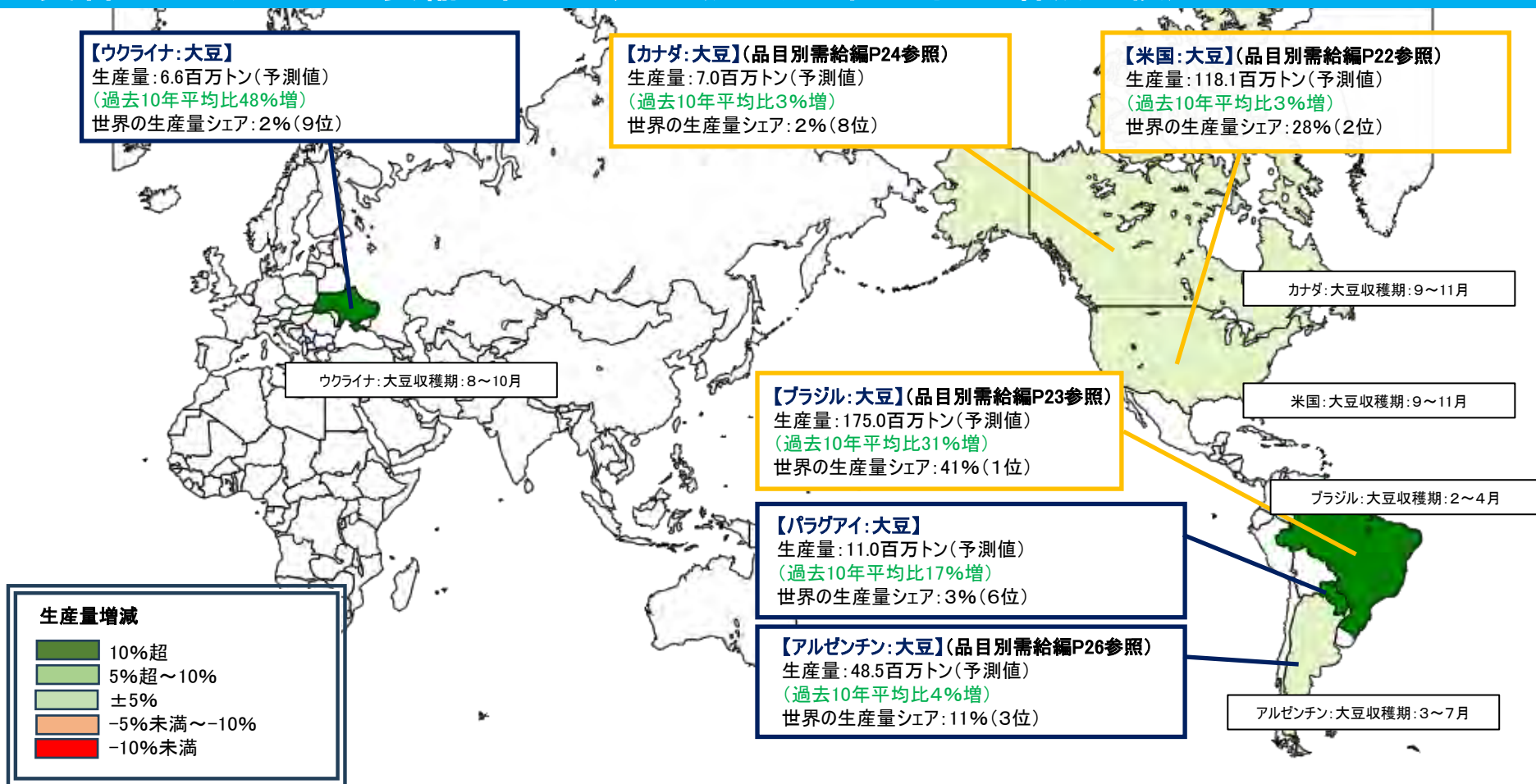
2024年の日本のとうもろこし輸入量(15.3百万トン) (単位: %)



○ 2023年度の日本のとうもろこし輸入量は1,499万トンと、日本のとうもろこし国内消費仕向量(1,486万トン、うち飼料用は1,159万トン)のほぼ全量を占める。

出典: USDA「PS&D」(2025.5)、財務省「貿易統計」(2024年輸入量)、農林水産省「令和5年度食料需給表」(破線枠内)、AMIS「Supply and demand balances manual」(収穫期)をもとに農林水産省で作成。

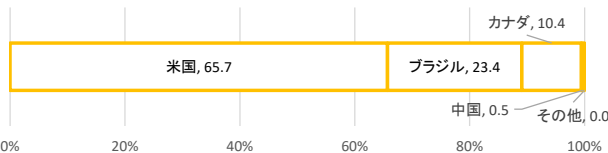
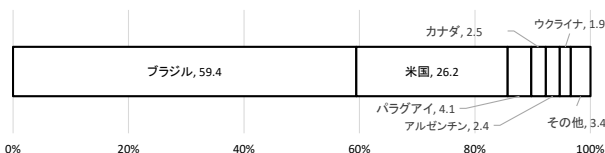
資料1-3 大豆の主要輸出国の生産量(過去10年平均との増減比較) 2025/26年度(5月版)



2025/26年度の世界の大豆生産量(426.8百万トン) (単位:%)

2025/26年度の世界の大豆輸出量(188.4百万トン) (単位:%)

2024年の日本の大豆輸入量(3.17百万トン) (単位:%)



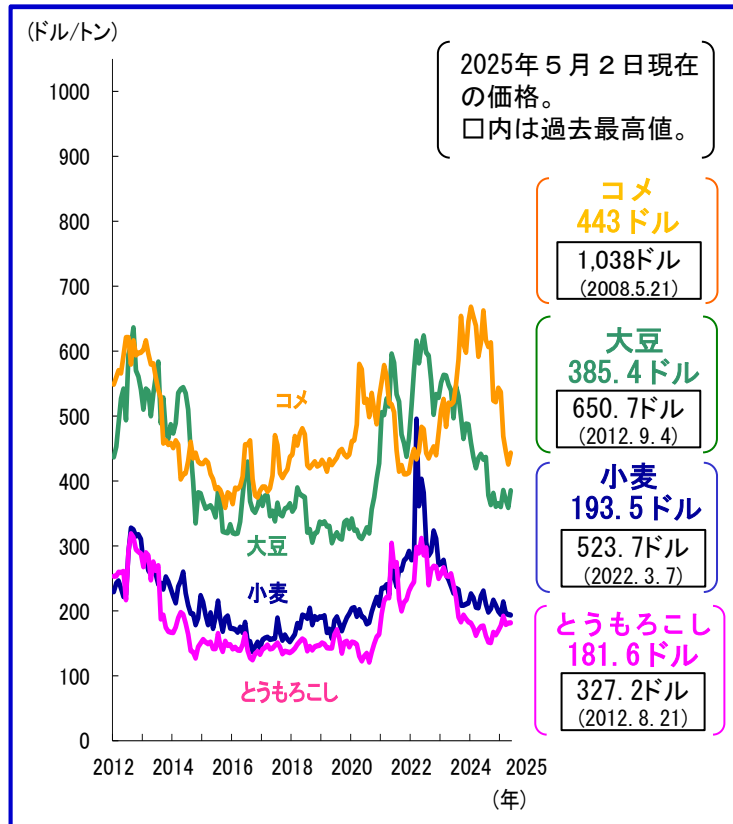
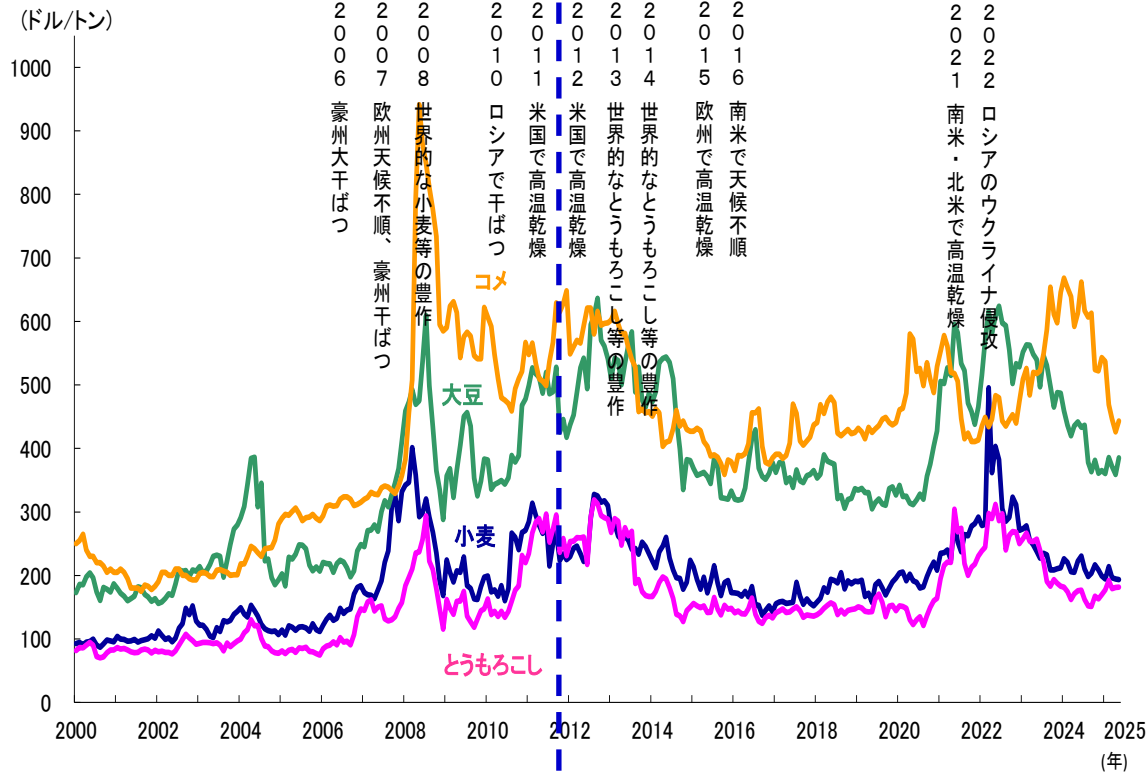
- 2023年度の日本の大豆輸入量は307万トンであり、日本の大豆国内消費仕向量(356万トン、うち大豆油などの加工用は255万トン、食用は87万トン)の86.2%を占める。
- 輸入大豆の1人1日当たり供給熱量は55kcalと、1人1日当たり総供給熱量(2,203kcal)の2.5%を占める。

出典:USDA「PS&D」(2025.5)、財務省「貿易統計」(2024年輸入量)、農林水産省「令和5年度食料需給表」(破線枠内)、AMIS「Supply and demand balances manual」(収穫期)をもとに農林水産省で作成。

資料 1－4 穀物等の国際価格の動向（ドル/トン）

- とうもろこし、大豆が史上最高値を記録した2012年以降、世界的な豊作等から穀物等価格は低下。2020年後半から南米の乾燥、中国の輸入需要の増加、2021年の北米の北部の高温乾燥等により上昇。2022年、ロシアのウクライナ侵攻により、小麦は史上最高値を更新も、ウクライナからの臨時回廊等による輸出再開などもあり侵攻前の水準まで低下。とうもろこし、大豆はウクライナ侵攻時に高騰も、ブラジル等の豊作から侵攻前の水準まで低下。コメは、2022年9月以降、インドの輸出規制強化、インドネシアの需要増等から上昇も、インドの輸出規制解除等を受け低下。
- 穀物等価格は、新興国の畜産物消費の増加を背景とした堅調な需要やエネルギー向け需要等により、2008年以前を上回る水準で推移。

□ 穀物等の国際価格の動向



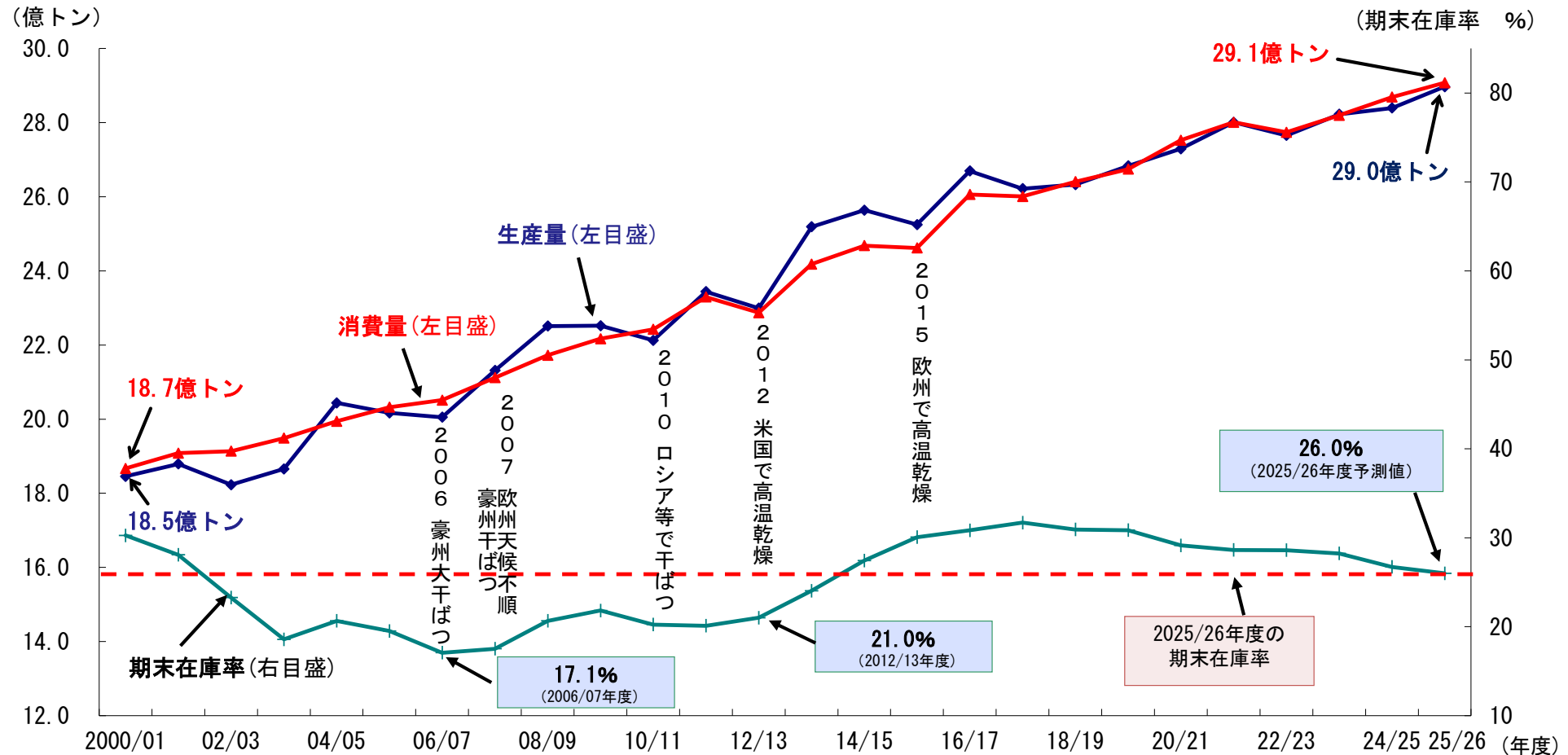
注1：小麦、とうもろこし、大豆は、シカゴ商品取引所の各月第1金曜日の期近終値の価格（セツルメント）である。コメは、タイ国家貿易取引委員会公表による各月第1水曜日のタイうるち精米100%2等のFOB価格である。なお、コメは4月30日の価格。

注2：過去最高価格については、コメはタイ国家貿易取引委員会の公表する価格の最高価格、コメ以外はシカゴ商品取引所の全ての取引日における期近終値の最高価格。

資料2 穀物の生産量、消費量、期末在庫率の推移

- 世界の穀物消費量は、途上国の人口増、所得水準の向上等に伴い増加傾向で推移。2025/26年度は、2000/01年度に比べ1.6倍の水準に増加。一方、生産量は、主に単収の伸びにより消費量の増加に対応している。
- 2025/26年度の期末在庫率は、消費量が生産量を上回り、前年度より減少し、26.0%。過去の価格高騰年の2012/13年度(21.0%)を上回る見込み。

□ 穀物(コメ、とうもろこし、小麦、大麦等)の需給の推移

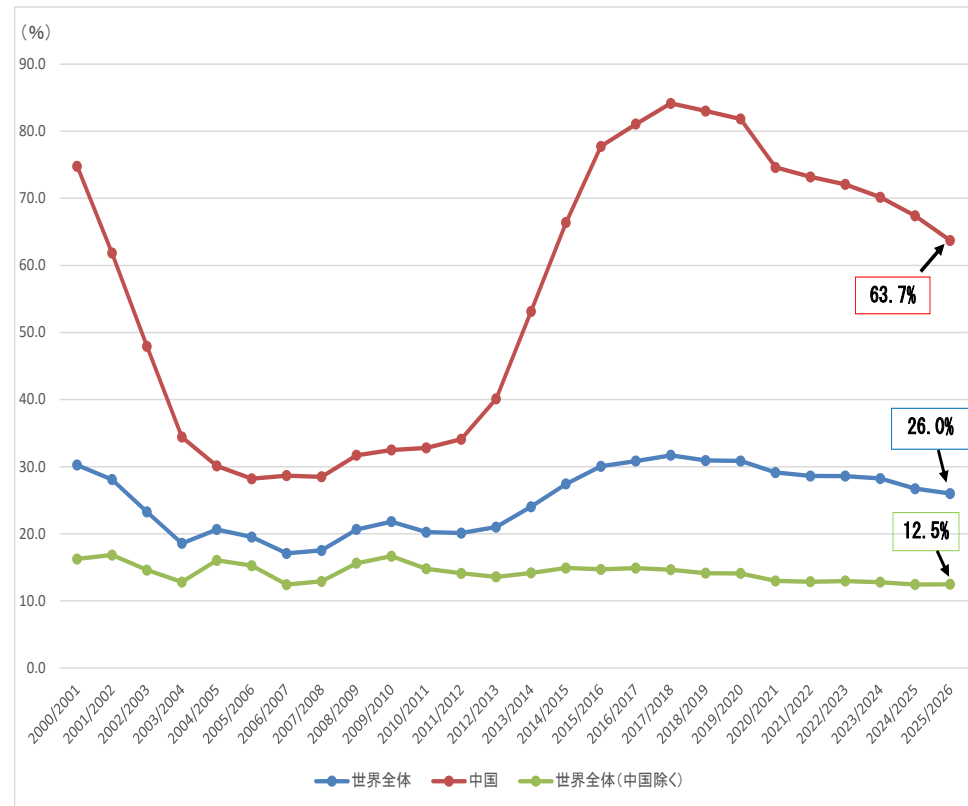


資料：USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」(May 2025)、「PS&D」

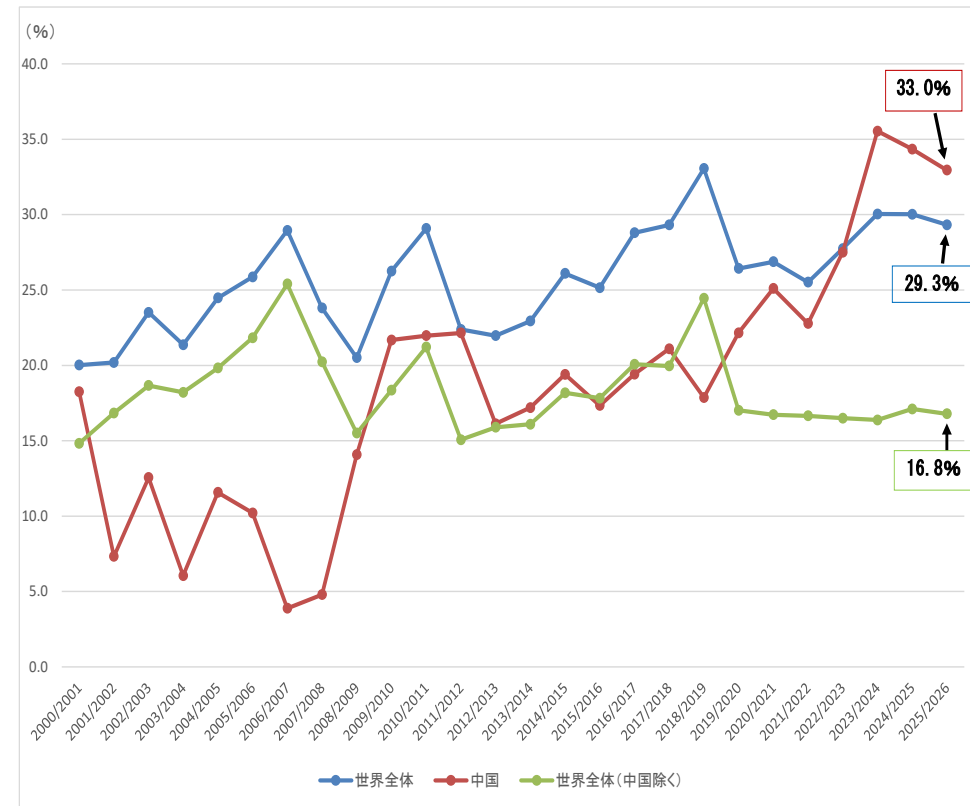
(注) なお、「PS&D」については、最新の公表データを使用している。

資料 3-1 穀物等の期末在庫率の推移（穀物全体、大豆）

○ 穀物全体の期末在庫率の推移



○ 大豆の期末在庫率の推移



資料：米国農務省「PS&D」(May 12, 2025)

注：1)穀物はとうもろこし、小麦、コメ等(大豆除く)。

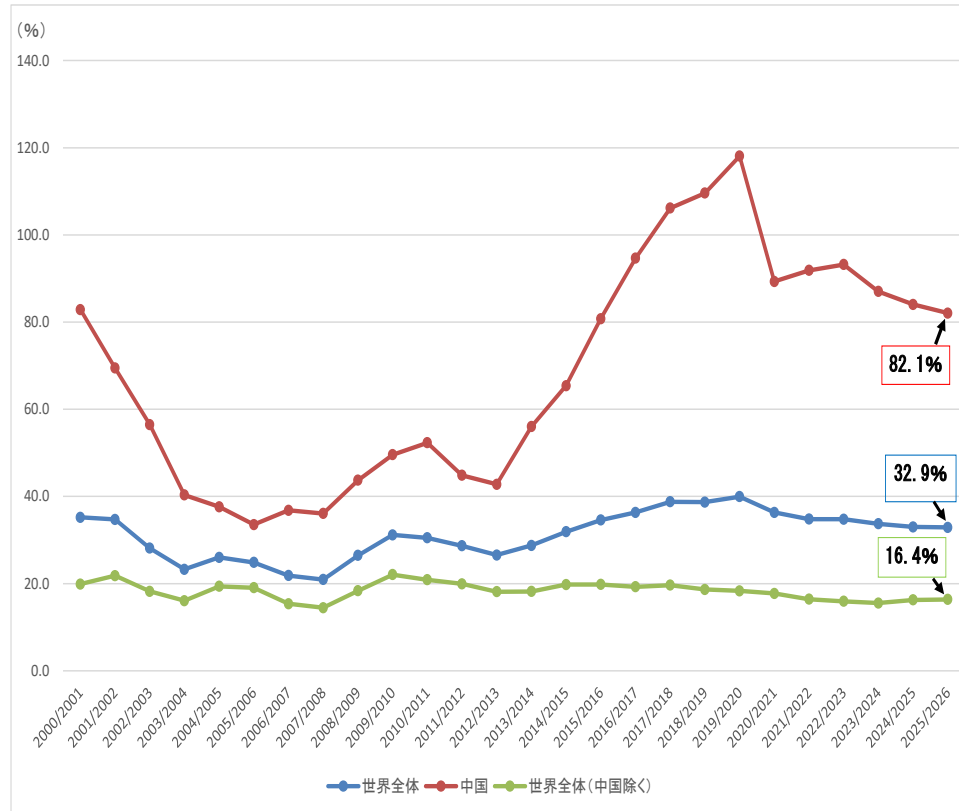
2)世界の期末在庫率(%)=期末在庫量/(消費量+輸出量-輸入量)×100 ※ただし大豆については、世界の期末在庫率(%)=期末在庫量/消費量×100

3)中国の期末在庫率(%)=中国の期末在庫量/(中国の消費量+中国の輸出量)×100

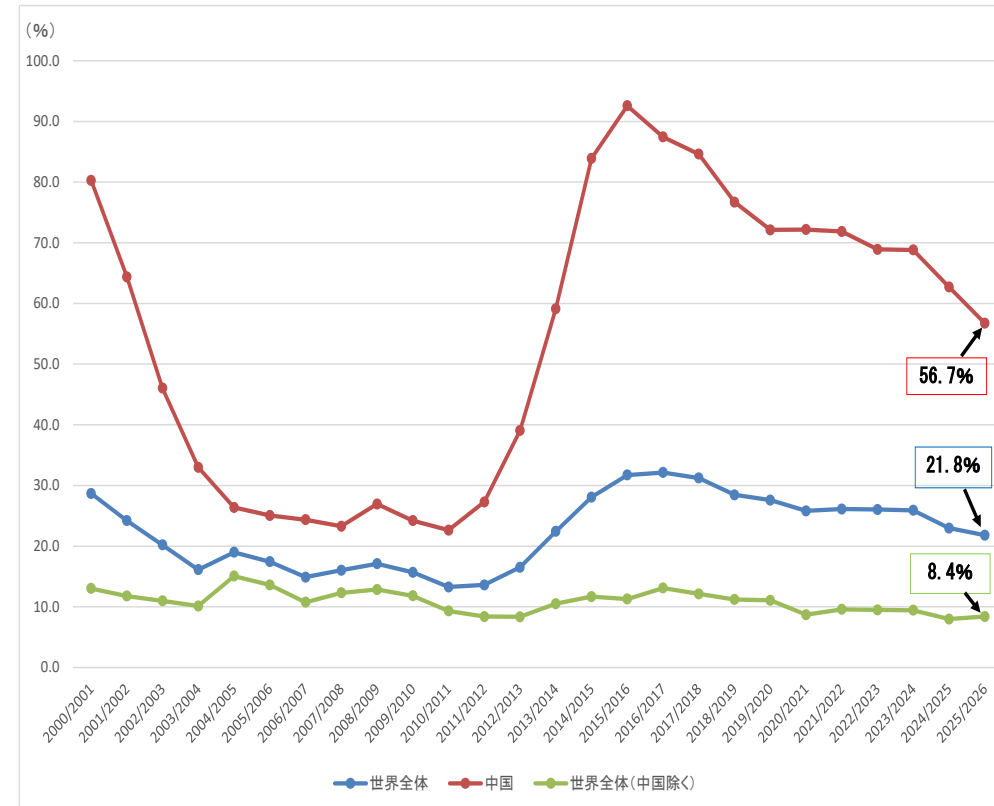
4)中国除く期末在庫率(%)=中国除く期末在庫量/(中国除く消費量+中国除く輸出量)×100

資料 3-2 穀物等の期末在庫率の推移（小麦、とうもろこし）

○ 小麦の期末在庫率の推移



○ とうもろこしの期末在庫率の推移



資料: 米国農務省「PS&D」(May 12, 2025)

注: 1)小麦は、小麦及び小麦粉(小麦換算)の計。

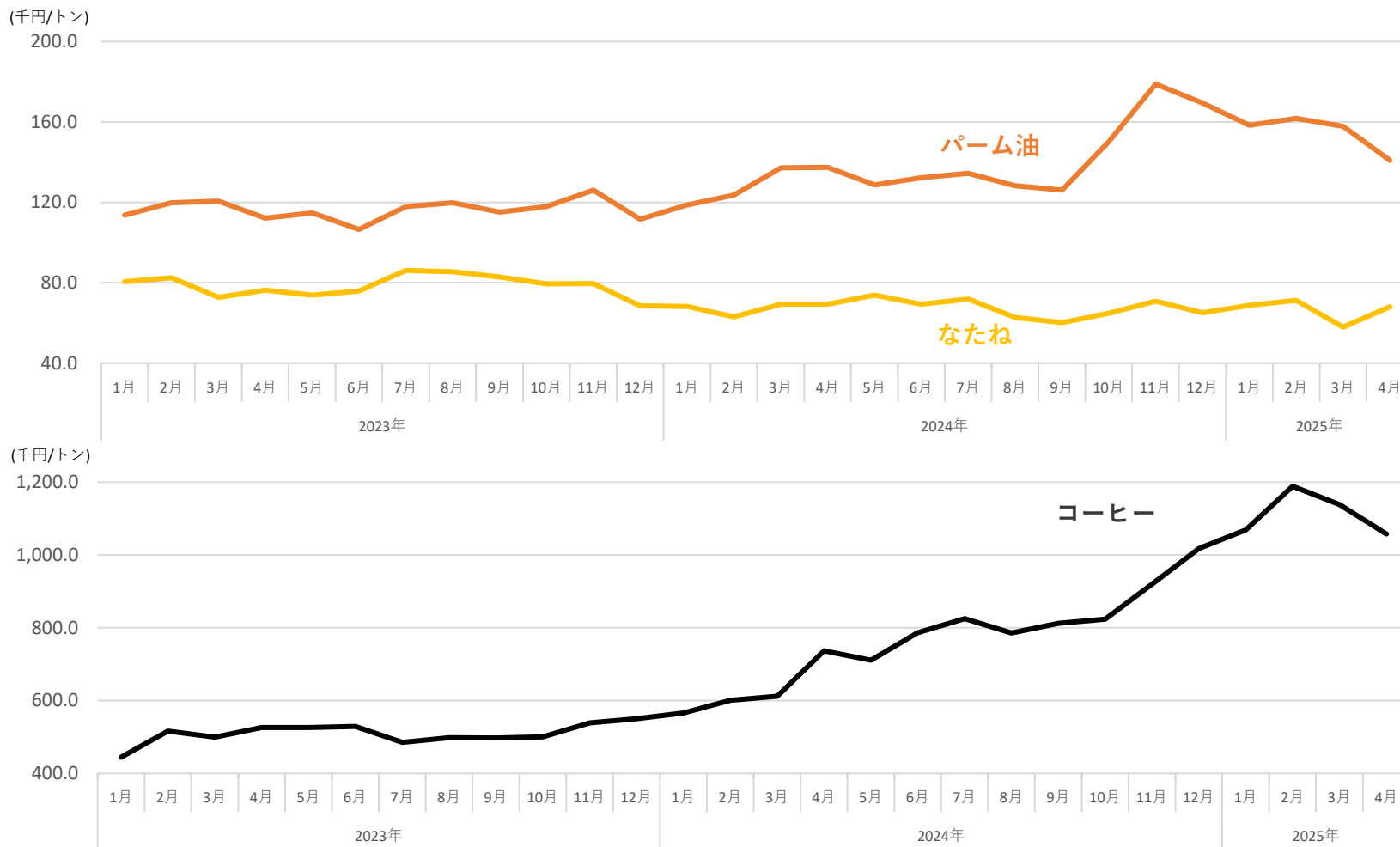
2)世界の期末在庫率(%)=期末在庫量/(消費量+輸出量-輸入量)×100

3)中国の期末在庫率(%)=中国の期末在庫量/(中国の消費量+中国の輸出量)×100

4)中国除く期末在庫率(%)=中国除く期末在庫量/(中国除く消費量+中国除く輸出量)×100

資料 4－1 加工食品の主な輸入原材料（穀物等を除く）の国際価格の動向

- パーム油については、インドネシアのバイオ燃料政策等の影響で2024年10月以降上昇している。
- なたねについては、安定している。
- コーヒーについては、ブラジルにおける天候不順やベトナムにおける干ばつによる収穫量減少等により、2024年以降上昇している。



2025年5月22日現在
□内は2023年1月以降
の最高値。

パーム油
140.9千円/トン

178.8千円/トン
(2024.11)

なたね
68.2千円/トン

86.2千円/トン
(2023.7)

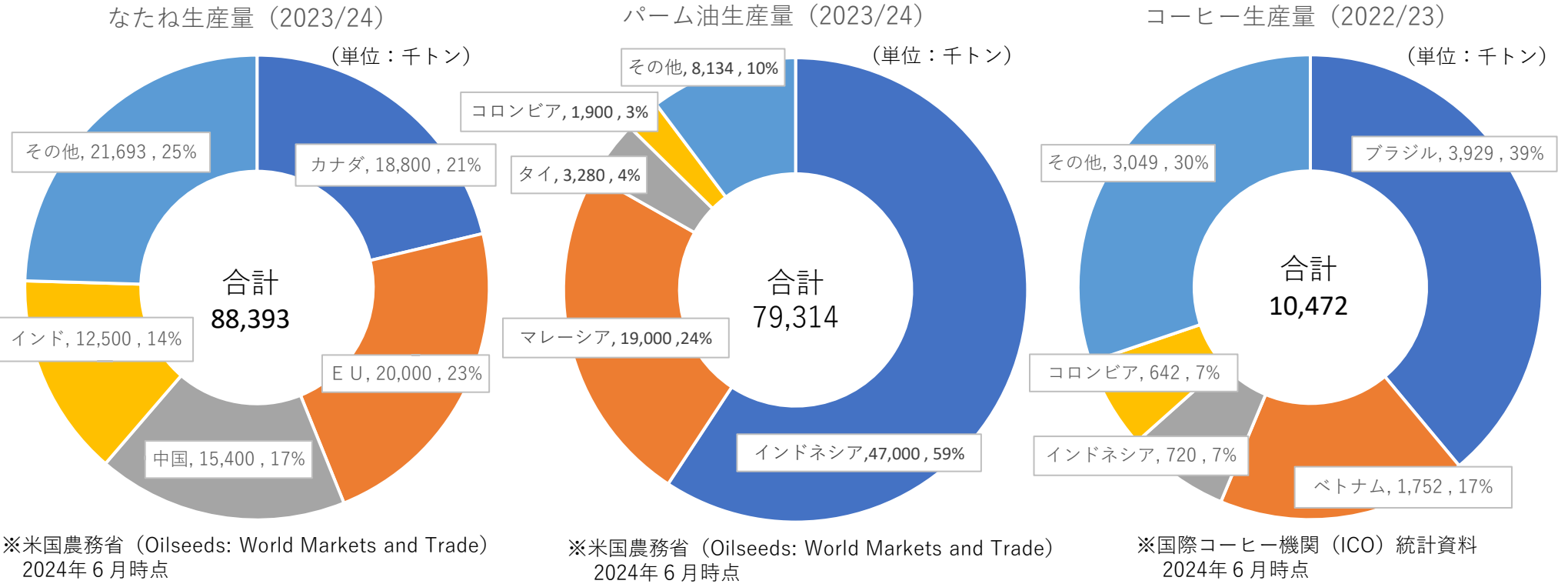
コーヒー
1057.4千円/トン

1188.8千円/トン
(2025.2)

※ なたねの国際価格についてはカナダウィニベグなたね市場の先物価格（期近物）を、パーム油の国際価格についてはマレーシアパーム油市場の先物価格（期近物）を、コーヒーの国際価格については国際コーヒー機関（ICO）の複合指標価格月次平均を用い、為替レートから円に換算して算出。

資料 4－2 加工食品の主な輸入原材料（穀物等を除く）の生産量及び輸入先

○主要生産国の生産状況



○我が国の主な輸入先の状況（単位：千トン（2023年））

なたね	輸入量	割合	パーム油	輸入量	割合	コーヒー	輸入量	割合
カナダ	1,039	51.4%	マレーシア	574	85.6%	ブラジル	124	35.0%
オーストラリア	983	48.6%	インドネシア	96	14.4%	ベトナム	99	27.9%
その他	0	0.0%	その他	0	0.1%	コロンビア	34	9.6%
合計	2.022	100.0%	合計	671	100.0%	その他	98	27.6%

※財務省「貿易統計」（HSコード：1205）

※財務省「貿易統計」（HSコード：1511）

※財務省「貿易統計」（HSコード：0901.11～0901.12）

資料４－３ 加工食品の主な輸入原材料（穀物等を除く）の国際価格の推移①

①なたね

単位（千円/トン）

	2023年												2024年												2025年											
	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
なたね	80.6	82.4	72.8	76.4	73.8	75.9	86.2	85.5	82.8	79.4	79.6	68.6	68.2	63.1	69.4	69.3	73.9	69.4	71.9	62.8	60.2	64.8	70.8	65.1	68.7	71.2	58.0	68.2								
前月比	93.1	102.2	88.3	105.0	96.7	102.7	113.6	99.2	96.9	95.9	100.2	86.1	99.5	92.5	109.9	99.9	106.6	93.8	103.7	87.3	126.1	107.7	109.3	91.9	105.7	103.7	81.4	117.6								
前年同月比	90.2	90.4	70.1	66.0	61.4	70.5	96.1	100.6	96.9	85.3	84.8	79.2	84.6	76.6	95.4	90.8	100.1	91.4	83.5	73.5	812.1	81.5	89.0	94.9	100.7	112.9	83.5	98.3								

大臣官房新事業・食品産業部食品製造課調べ

注1 カナダウィニペグなたね定期相場の各月の月央値（期近物）から算出

②パーム油

単位（千円/トン）

	2023年												2024年												2025年											
	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
パーム油	113.7	119.9	120.6	112.1	114.7	106.5	117.9	119.8	115.1	118.0	126.1	111.6	118.7	123.7	137.2	137.4	128.7	132.2	134.4	128.3	126.1	150.1	178.8	169.4	158.4	161.8	157.8	140.9								
前月比	109.1	105.4	100.7	93.0	102.3	92.9	110.7	101.6	96.1	102.4	106.9	88.5	106.4	104.2	110.9	100.2	93.7	102.7	101.7	95.4	98.2	119.1	119.1	94.7	93.5	102.2	97.6	89.2								
前年同月比	78.8	73.9	64.2	56.2	61.1	61.7	96.3	96.1	97.7	98.0	114.2	107.1	104.4	103.2	113.7	122.6	112.2	124.1	114.0	107.1	109.5	127.3	141.8	151.8	133.4	130.8	115.0	102.5								

大臣官房新事業・食品産業部食品製造課調べ

注1 マレーシアパーム油定期相場の各月の月央値（期近物）から算出

資料 4－4 加工食品の主な輸入原材料（穀物等を除く）の国際価格の推移②

③コーヒー

単位（千円/トン）

	2023年												2024年												2025年											
	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
コーヒー	444.4	516.3	499.6	526.2	526.1	529.1	485.5	498.1	497.4	500.3	538.5	550.2	566.3	601.1	611.7	737.0	710.8	786.3	825.0	785.5	812.1	823.4	920.3	1017.3	1068.8	1188.8	1138.7	1057.4								
前月比	93.2	116.2	96.8	105.3	100.0	100.6	91.8	102.6	99.9	100.6	107.6	102.2	102.9	106.2	101.8	120.5	96.5	110.6	104.9	95.2	103.4	101.4	111.8	110.5	105.1	111.2	95.8	92.9								
前年同月比	85.8	96.7	98.5	95.3	95.4	88.7	83.4	84.2	78.8	85.5	112.0	115.4	127.4	116.4	122.4	140.1	135.1	148.6	169.9	157.7	163.3	164.6	170.9	184.9	188.8	197.8	186.2	143.5								

大臣官房新事業・食品産業部食品製造課調べ
注1 国際コーヒー機関（ICO）の複合指標価格月次平均から算出
2 ICO複合指標価格は、米国、ドイツ、フランスの3大市場の現物の成約価格を収集しICOの定める方法で4品種ごとの加重平均値を算出したもの。

資料5 食品小売価格の動向

○ 令和7年4月の国内の加工食品の消費者物価指数は116.1～151.9（前年同月比で-3.6%～7.0%）の範囲内。

消費者物価指数（総務省） （令和6年11月～令和7年4月）

【参考】 食品価格動向調査（農林水産省） （令和6年11月～令和7年5月）

	R3	R4	R5	R6		R7						R3	R4	R5	R6		R7						
品目	平均	平均	平均	11月	12月	1月	2月	3月	4月	上昇率 (前年 同月比)	品目	平均	平均	平均	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	上昇率 (前月比)	上昇率 (前年 同月比)
食パン	99.2	110.3	118.7	121.5	121.9	124.6	126.8	127.5	127.1	4.2%	食パン	98.6	107.8	114.5	117.4	118.2	122.5	124.0	124.5	124.7	124.0	-0.6%	5.3%
即席めん	100.1	107.6	119.7	122.0	120.1	118.0	121.2	120.8	119.1	-3.6%	即席めん	99.2	105.6	117.5	118.5	117.3	115.5	116.7	116.7	117.3	117.3	0.0%	-2.1%
豆腐	101.3	105.3	114.6	119.7	119.1	119.4	119.3	120.1	120.4	2.1%	豆腐	100.6	103.7	113.0	119.3	118.0	118.5	118.0	117.6	120.7	119.8	-0.7%	2.7%
食用油 (キャノーラ油)	106.9	144.4	160.2	149.8	149.9	149.0	147.6	149.2	147.5	-0.3%	食用油 (キャノーラ油)	104.1	140.7	159.4	142.9	140.0	140.3	139.7	141.3	142.2	140.3	-1.3%	-3.3%
みそ	99.3	101.3	108.1	114.4	114.0	114.5	114.8	115.3	116.1	2.4%	みそ	99.2	100.1	105.9	110.6	108.8	109.8	110.0	110.4	110.2	110.4	0.2%	2.1%
マヨネーズ	105.6	125.6	149.5	153.1	153.1	153.9	152.8	152.0	151.9	-1.2%	マヨネーズ	102.2	117.7	139.8	138.6	140.6	140.6	139.9	138.9	138.9	140.3	1.0%	1.2%
チーズ	98.7	107.5	131.1	133.4	128.2	132.9	133.9	139.3	141.8	4.8%	チーズ	98.1	105.7	126.5	128.3	122.3	127.8	126.3	133.7	136.7	134.7	-1.5%	11.0%
バター	99.9	99.2	108.6	120.1	119.5	120.0	119.6	123.1	124.4	3.5%	バター	99.8	99.1	108.0	119.7	119.2	120.1	119.4	124.8	127.1	127.1	0.0%	6.4%
生鮮食品を 除く食料	100.2	104.1	112.6	119.9	120.1	121.0	121.6	122.5	123.6	7.0%	注1: 令和2年の平均値を100とした指数で表記。 注2: 調査は原則、各都道府県10店舗で実施。												

注1: 令和2年の平均値を100とした指数で表記。

資料: 総務省消費者物価指数

○独立行政法人農畜産業振興機構（ALIC）は毎月25日頃に海外の畜産物の需給動向を公表（月報 畜産の情報）

○2025年6月号（5月26日に公表）の各品目の主な動きは以下の通り

『月報 畜産の情報』

◆牛肉

（米国）25年2月の牛肉輸出量、国内生産量の減少などから前年同月比6.9%減

https://www.alic.go.jp/joho-c/joho05_003746.html

（EU）枝肉価格が続伸、3月は25.6%高

https://www.alic.go.jp/joho-c/joho05_003747.html

（豪州）25年第1四半期の牛肉輸出量は歴史的な高水準を記録

https://www.alic.go.jp/joho-c/joho05_003748.html

（ブラジル）24年の牛肉輸出量は前年を大幅に上回る

https://www.alic.go.jp/joho-c/joho05_003749.html

◆豚肉

（米国）25年2月の豚肉輸出量、前年同月比4.8%減

https://www.alic.go.jp/joho-c/joho05_003750.html

（カナダ）25年1～2月の豚肉輸出量、前年同期比13.4%増

https://www.alic.go.jp/joho-c/joho05_003751.html

（中国）豚肉価格は下落傾向も前年比で高値を維持、豚肉輸入量は増加

https://www.alic.go.jp/joho-c/joho05_003752.html

◆牛乳・乳製品

（EU）25年3月の生乳取引価格、乳製品価格はいずれも堅調に推移

https://www.alic.go.jp/joho-c/joho05_003753.html

（豪州）24/25年度の生乳生産量は前年度を下回る見込み

https://www.alic.go.jp/joho-c/joho05_003754.html

（NZ）25年3月の生乳生産量は堅調を維持

https://www.alic.go.jp/joho-c/joho05_003755.html

◆飼料穀物

（世界・トウモロコシ）消費量および輸出量の上方修正から期末在庫は下方修正されかなりの程度減少

https://www.alic.go.jp/joho-c/joho05_003756.html

（世界・大豆）消費量増加も、前年度生産量の上方修正から大豆期末在庫は高水準を維持

https://www.alic.go.jp/joho-c/joho05_003757.html

（米国）米国は輸出量の増加などから期末在庫は大幅に減少

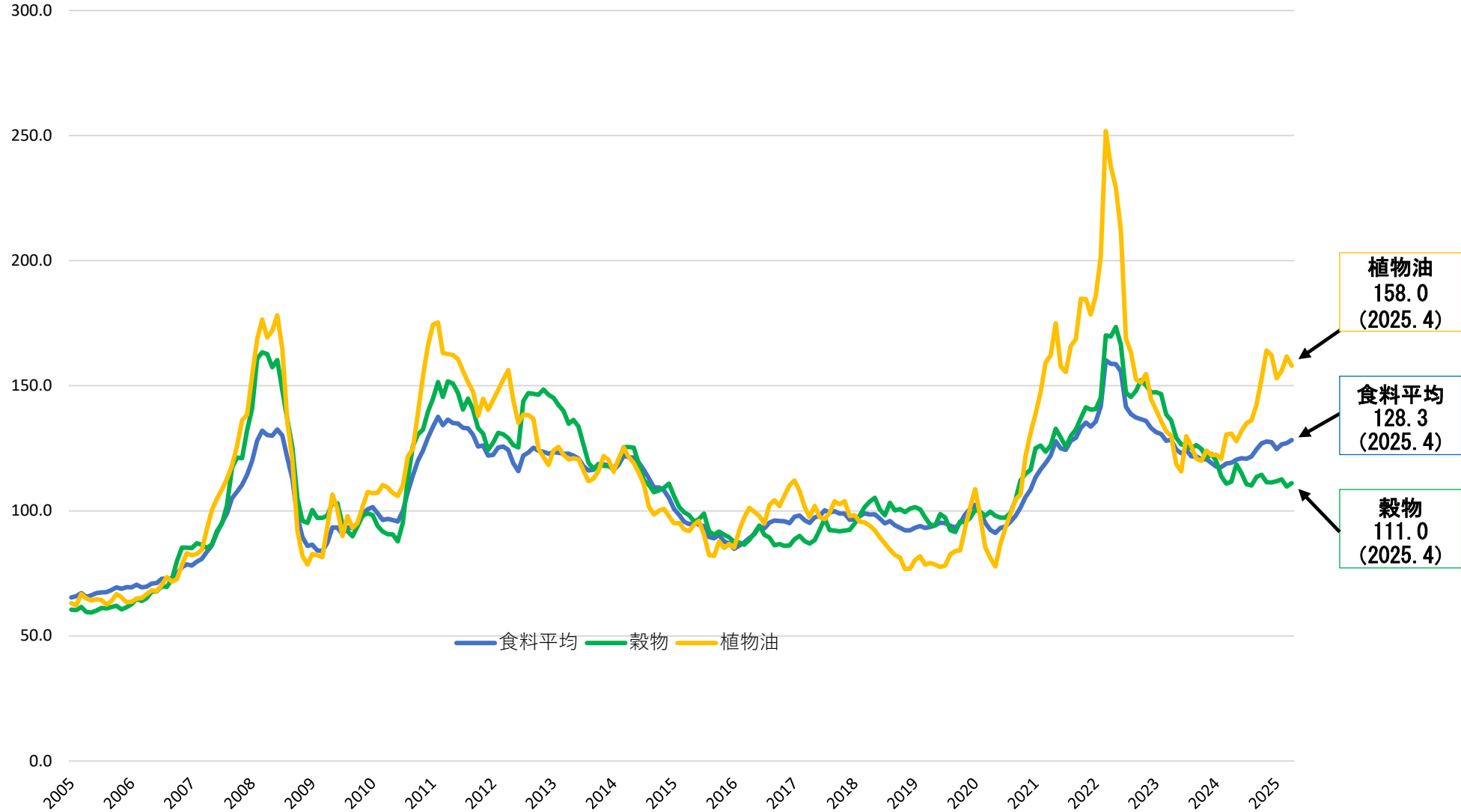
https://www.alic.go.jp/joho-c/joho05_003758.html

（中国）トウモロコシおよび大豆の価格動向

https://www.alic.go.jp/joho-c/joho05_003759.html

資料 7 FAO食料価格指数

(2014-16平均=100)



資料: FAO「Food Price Index」(2025.4)より作成

注: 穀物はとうもろこし、小麦、コメ等、植物油は大豆油、菜種油、ひまわり油、パーム油等

インドネシアの食事情③：インドネシアにおける食料安全保障政策

1. はじめに

インドネシアは、豊富な資源（石炭など）やパーム油などによる輸出の恩恵を受け、近年は GDP 成長率が比較的安定して約 5 % を維持しています。一方で、都市と地方の所得格差は依然として大きく、富裕層は首都圏の特定エリアにある高級住宅街、中間層はジャカルタ特別州やジャワ島などの都市部に集中するなど、地方との二極化が進行しています。

こうした状況の中、インドネシアでは 2024 年の総選挙により、10 年ぶりに大統領が交代し、軍人出身のプラボウォ・スビアント氏が 2024 年 10 月に大統領に就任しました。プラボウォ大統領は、食料とエネルギーの自給達成を最優先事項に掲げ、インフラ開発を重視してきた前政権から大きく政策の方向転換を図りました。プラボウォ政権は、2045 年までに先進国入りを目指すという前政権からのビジョンを引継ぎつつ、主要政策として、①食料自給、エネルギー自給、②産業下流化、高付加価値化、③フリーミール（学校などにおける給食の無償化）、④手頃な価格の住宅の提供、⑤無償医療診療、病院の新設、医師・看護師の育成、を掲げています。また、5 年間の任期中に実質 GDP 成長率を年 8 % にまで引き上げる目標も掲げており、非常に野心的な政策方針を打ち出しています。

その実効性と財源確保には依然として不透明感が残るものの、プラボウォ大統領は、食料安全保障は国の主権と独立の維持において非常に重要な役割を果たすことを指摘し、先進国入りを果たすためにも、食料安全保障の確保は不可欠と強調しています。

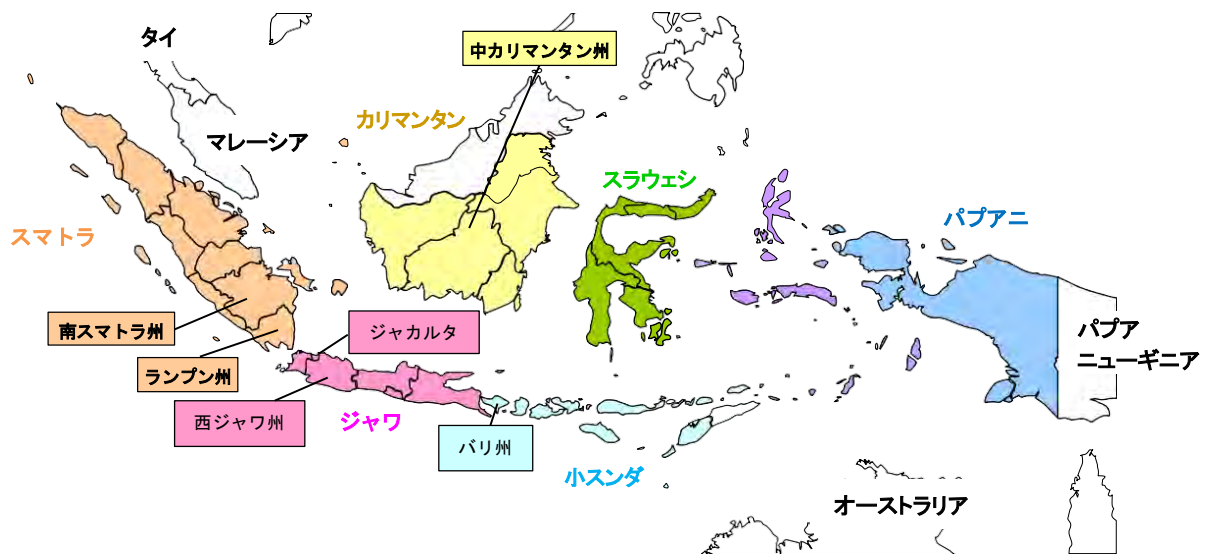
この食料安全保障におけるキーワードは、「フリーミール」、「コメの自給」、「牛乳の自給」の 3 点です。今回は、日本の約 5 倍の国土面積を持ち、人口約 2.8 億人、平均年齢 29 歳の東南アジア地域の大国であるインドネシアのダイナミックな食料安全保障政策の強化の現状について紹介します。

2. インドネシアにおける食料安全保障政策について

食料安全保障政策を最優先課題だととらえているプラボウォ政権は、当初より、今後 4 ～ 5 年以内に食料の自給自足（麺やパンなどの原料である小麦などを除く）を達成すると宣言しています。具体的には、農地面積を 300 万ヘクタール拡大し、主にコメやトウモロコシ、大豆の生産を計画しており、南スマトラ州、中カリマンタン州、パプア州の湿地を水田に転換することなどが検討されています（図 1 参照）。

また、食料自給を最優先事項に挙げたことを端的に示す動きとして、政府は新たに「食料担当調整府」を設置しました。この機関が、農業省、林業省、環境省、海洋・水産省を一括して管轄することになります。さらに、新政権では、これまで国営企業省傘下だった食料調達公社（Bulog）を大統領直轄とすることで、コメを中心とする食料の需給調整機能を強化する動きを見せています。

図1 インドネシアの地域分類



出典：国際協力銀行「インドネシアの投資環境」より作成

(1) フリーミール（学校などにおける給食の無償化）

プラボウォ政権が力を入れる政策の一つであり、食料自給とも関係の深い「フリーミール」プログラムは、早くも 2025 年 1 月より開始され、既にスマトラ島、ジャワ島、バリ島、パプア島など全国 38 州以上に拡大しており、調理場は合計 1,102 か所以上に設置されています。今年中には全国で 5,000 か所超の調理場の設置が見込まれ、2027 年までには 3 万か所へ拡大することが計画されています。

主食は、地域によってコメ、キャッサバ、トウモロコシなど多様ですが、調理場 1 か所あたり、1 日でコメ 200 キログラム、鶏肉 350 キログラム又は鶏卵 3,000 個、牛乳 600 リットル、野菜 350 キロを使用し、約 3,000 人分の給食を調理する計画です。対象となる児童・生徒は約 300 万人に達するなど、2025 年 9 月までに 1,500 万人へ提供することを目指して、急ピッチで事業が進められています。

このプログラムの背景には、インドネシアは経済成長を続けている一方で、子どもの発育阻害の割合が依然として東南アジア諸国の中でも高水準にあるという課題があり、プラボウォ大統領の就任演説でも貧困問題解決に向けた決意が示されました。こうした国民の栄養改善を担うために、新たに「国家栄養庁」が設立され、2025 年の国家栄養庁の予算は 71 兆ルピア（約 6,390 億円）を計上し、まずは 2,000 万人に対して、フリーミールを提供する計画となっています。さらに対象者の拡大を見据え、国家予算の効率化によって財源を確保し、100 兆ルピアを追加して予算総額を 171 兆ルピア（約 1 兆 5,390 億円）とする方向で調整が進められています。

フリーミールプログラムは、最終的に幼児から高校生、妊婦を含む約 8,300 万人（総人口の約 30%）を対象に、1 人あたり 1 日 1 万ルピア（約 90 円）相当の食事を無料で提供する

【今月のコラム】

という壮大な構想です。子どもの栄養改善を目指す国家プロジェクトとして期待が寄せられる一方で、当初から懸念されていた財政面及び運営面での課題も指摘されています。財政面では、対象者を全員に拡大した場合、必要予算は国家予算の約 1 割である約 450 兆ルピア（約 4 兆円）に達するとの試算もあります。運営面では、大規模な調理体制に関する経験不足から、各地で集団食中毒や異物混入の事例が報告されており、衛生管理の徹底や調理技術に関する事業者への研修強化が急務となっています。

（２）コメの自給

インドネシアにとって最も重要な農産物といえば、日本と同様に主食であるコメです。インドネシアでは、2023 年 6 月からのエルニーニョ現象の影響による干ばつにより、コメの生産量が減少したことから、それまでほぼ自給できていたコメの自給率は約 90%程度に低下しました。この結果、約 300 万トンのコメを近隣諸国から輸入する事態となり、国内ではちょっとした騒ぎにもなりました。

具体的には、2024 年のコメ生産量は約 3,000 万トンで、需要量の 3,100 万トンを下回る結果となりました。さらに近年では、農地が住宅地や工業用地に転用されるケースが増加しており、農地面積が減少傾向にあります。また、農業従事者数も減少しています。

プラボウォ政権の発足後、インドネシア農業省は当初、2027 年にコメの自給自足を達成し、2028 年からは輸出が可能になるとの見通しを示していました。この目標を実現するためには、水田面積を 100 万ヘクタール拡大し、灌漑（かんがい）設備を整備することで、2027 年までにコメの年間生産量を 1,000 万トン増加させる必要があるとされています。

その後、インドネシア農業省は、コメ生産に関する国家予算が増額されたことを受けて、2025 年にコメ生産量を 3,200 万トンまで引き上げ、自給自足を實現し、輸入依存からの脱却を目指す計画を明らかにしました。あわせて、目標達成には、大規模農業開発プロジェクトである「フードエステート（大規模農園）」プログラムと、近代的農業技術の導入が重要な役割を果たすとの認識を示し、農業用地の拡大の必要性も協調しています。

なお、インドネシア食料担当調整府は、コメ、飼料用トウモロコシ、砂糖、食用塩の 4 品目について、2025 年は輸入を行わない方針であることを発表しています。

（３）牛乳の自給

インドネシア農業省は「フリーミール」プログラムでの牛乳提供に向け、生乳の生産拡大などにも取り組んでおり、2025 年～2028 年の 4 年間で、計 100 万頭の乳牛を輸入する計画を立てています。

現在、インドネシアにおける食用の生乳需要量は約 500 万トンとなっている一方、国内生産量は約 150 万トンとなっています。インドネシア農業省によると、2029 年のフリーミールで必要とされている生乳は 360 万トンに達し、国内全体で年間 850 万トンの供給が必要になる見通しのため、乳牛 100 万頭を輸入した後、2029 年までに国内の生乳生産量を 800

【今月のコラム】

万トン以上に拡大する計画であり、すでに、オーストラリア、ニュージーランド、米国、ブラジル、メキシコなどから乳牛の輸入が進められています。

輸入された乳牛は、全国の畜産協同組合を通じて、大小さまざまな規模の生産者に分配される予定であり、これらの牛の飼育するために、例えばカリマンタン島、スラウェシ島、パプア島の各地域において、合計約 100 万ヘクタールの土地が確保されています。

インドネシア農業省自体が直接輸入を行うことはありませんが、企業に対して、成牛を輸入する機会を開放しており、ベトナム、カタール、ブラジル、米国などの企業が酪農場への投資に関心を示しています。インドネシア農業省はこれらの企業に対し、輸入手続きの簡素化措置などを適用しており、さらに日本も含めた国内外の企業にも同様の措置を提示する考えを示すなど、酪農分野への積極的な投資を呼び込んでいます。

3. おわりに

プラボウォ政権の政策に対し、日本政府は食料自給政策の支援として、例えば、コメの増産に向けて、西ジャワ州ルンタンおよび南スマトラ州、ランプン州コメリンに約 4.5 万ヘクタールの水田用灌漑施設整備（2027 年完了予定）を有償資金により協力しており、インドネシアのコメ増産に貢献しています。

また、フリーミールプログラムに関連して、インドネシアの行政官等を対象に、日本の学校給食に関する研修を実施しています。これは、日本の学校における食育や給食制度を学んでもらうことで、インドネシアにおける学校給食の導入と子どもたちの栄養改善に寄与することを目的としております。

こうした新政権の政策に対しては、今後、日本政府のみならず日本企業も、官民連携のもと、国際協力とビジネスの両面から参画していくことが期待されています。交通渋滞が有名なインドネシアでは、街を歩けば、走っている自動車の約 9 割が日本車であり、日本食料理店も 4,000 店舗も超えるなど、日本企業にとって今なおビジネスチャンスが広がっています。さらに、急速な高齢化が進む日本の農業現場においては、インドネシアから特定技能実習生として農業人材を受け入れるなど、両国の友好関係をより深化させることは、非常に重要であると感じています。

最後になりますが、今回紹介したインドネシアの食料安全保障政策の強化の背景には、昨今の複数の地域における大規模な他国への侵攻といった、国際情勢の混乱も影響していると考えられます。インドネシアが、「自国で生産できるものは自国で」と生産体制の強化に取り組むダイナミックな動きを目の当たりにし、日本とは置かれている状況こそ異なるものの、改めて日本の食料安全保障政策の重要性について考えさせられました。

【今月のコラム】



参考：西ジャワ州ブカシ
周辺における4月末の水
田の様子。熱帯に位置す
るインドネシアでは2～
3期作が可能で、同じ時
期に田植え前～収穫後の
状態まで様々な水田を見
ることができます。この
地域の田植えでは、稲を
手で植えています。

文責：小宮 元晃（在インドネシア日本国大使館 一等書記官）

【データ・出典】

国際協力銀行「インドネシアの投資環境／2023年2月」

<https://www.jbic.go.jp/ja/information/investment/inv-indonesia202302.html>

JETRO「ビジネス短信（2024.10.24）」

<https://www.jetro.go.jp/biznews/2024/10/4d7f5f142f1707d6.html>

インドネシア中央統計局

[https://www.bps.go.id/id/statistics-](https://www.bps.go.id/id/statistics-table/3/ZDNaak0y0DBUVTIGYW5sa2REUkVUVVY1YVZkbmR6MDkjMyMwMDAw/produksi-padi-sup-1---sup---dan-beras-menurut-provinsi.html?year=2024)

[table/3/ZDNaak0y0DBUVTIGYW5sa2REUkVUVVY1YVZkbmR6MDkjMyMwMDAw/produksi-padi-sup-1---sup---dan-beras-menurut-provinsi.html?year=2024](https://www.bps.go.id/id/statistics-table/3/ZDNaak0y0DBUVTIGYW5sa2REUkVUVVY1YVZkbmR6MDkjMyMwMDAw/produksi-padi-sup-1---sup---dan-beras-menurut-provinsi.html?year=2024)

本稿は、世界各国・地域の駐在員の方々にご協力をいただき、最新の現地情報をご紹介しますものです。日本とは異なる文化や経済、国土条件等を背景として、それぞれの国や地域における食料の生産、流通、消費の特徴などについてご紹介したいと思います。

(品目別需給編)

I 穀物

1 小麦

(1) 国際的な小麦需給の概要（詳細は右表を参照）

<USDA の見通し> 2025/26 年度

生産量 前年度比  前月比 —

- ・カザフスタン、豪州、パキスタン、イラン等で減少するも、EU、インド、英国、中国等で増加し、史上最高の見込み。

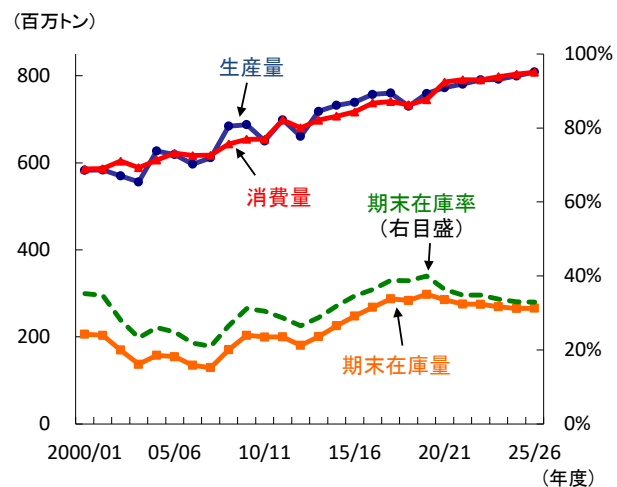
消費量 前年度比  前月比 —

- ・カザフスタン、シリア等で減少するも、インド、EU、英国等で増加し、史上最高の見込み。

輸出量 前年度比  前月比 —

- ・豪州、カザフスタン、米国等で減少するも、EU、アルゼンチン、ロシア、ウクライナ等で増加し、前年度から増加した。

期末在庫量 前年度比  前月比 —



資料:USDA「PS&D」(2025. 5. 12) をもとに農林水産省にて作成

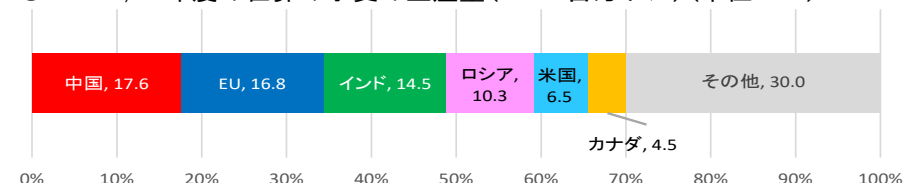
◎世界の小麦需給

(単位: 百万トン)

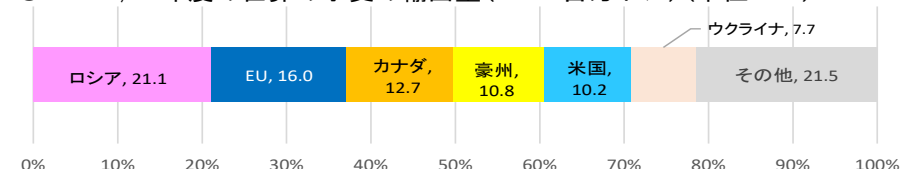
年 度	2023/24	2024/25 (見込み)	2025/26		
			予測値	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	792.0	799.7	808.5	—	1.1
消費量	797.8	803.6	808.0	—	0.5
うち飼料用	159.2	154.3	155.5	—	0.8
輸出量	222.2	206.1	213.0	—	3.3
輸入量	223.1	198.1	209.7	—	5.9
期末在庫量	269.1	265.2	265.7	—	0.2
期末在庫率	33.7%	33.0%	32.9%	—	▲ 0.1

資料: USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」 (12 May 2025)

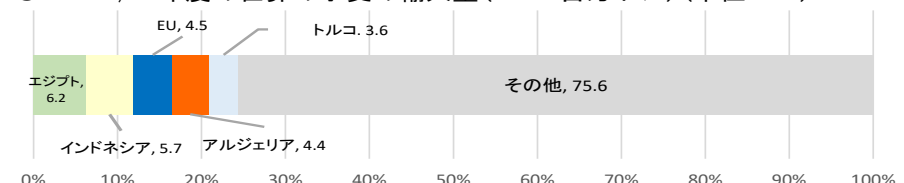
○ 2025/26年度の世界の小麦の生産量(808.5百万トン)(単位: %)



○ 2025/26年度の世界の小麦の輸出量(213.0百万トン)(単位: %)



○ 2025/26年度の世界の小麦の輸入量(209.7百万トン)(単位: %)



（２）国別の小麦の需給動向

＜ 米国 ＞ 2025/26 年度の生産量は前年度から 2.6%減の見込み

【生育・生産状況】USDA によれば、2025/26 年度の実生産量は 52.3 百万トンと、収穫面積が前年度より減少することから前年度と比べ 2.6%減となるものの、過去 5 年平均（48.4 百万トン）と比べ 8.0%増となる見込み。

同「Wheat Outlook」（2025.5.14）によれば、2025/26 年度の冬小麦の実生産量は前年度と比べ収穫面積が減少するものの、単収が増加することから前年度と比べ 2%増の 37.6 百万トンとなる見込み。品種別には、ハード・レッド・ウインターが 21.3 百万トンと前年度と比べ 2%増、ソフト・レッド・ウインターが 9.4 百万トンと同 1%増、ホワイットウインターが 6.9 百万トンと同 7%増となる一方で、春小麦及びデュラム小麦は 14.7 百万トンと前年度と比べ 13%減となる見込み。

同「Crop Progress」（2025.5.12）によれば、5 月 11 日現在、2025/26 年度の冬小麦の 53%が出穂（前年同期 55%、過去 5 年平均 45%）しており、作柄は、「良～優良」の割合が 54%（前年同期 50%）と、乾燥傾向であった前月から降雨により作柄が改善している。また、春小麦の作付進捗率は 66%（前年同期 59%、過去 5 年平均 49%）と、好天に恵まれ順調に進捗している。

なお、2024/25 年度の実生産量は前月予測からの変更はなく 53.7 百万トンと、前年度と比べ 9.3%増、過去 5 年平均（48.2 百万トン）と比べ 11.4%増となる見込み。

【貿易情報・その他】USDA によれば、2025/26 年度の実輸出量は 21.8 百万トンと、他の主要輸出国との競争等が見込まれることから、前年度と比べ 2.5%減、過去 5 年平均（22.2 百万トン）と比べても 1.9%減となる見込み。一方、2024/25 年度の実輸出量は前月予測からの変更はなく 22.3 百万トンと、前年度と比べ 16.0%増となる見込み。2024/25 年度のうち 2024 年 6 月～2025 年 3 月の輸出量は、1,753.8 万トンと前年同期（1,521.6 万トン）と比べ 15.3%増。国別にはメキシコ 324.0 万トン（18.5%）、フィリピン 208.8 万トン（11.9%）、日本 200.5 万トン（11.4%）の順となっている。一方で、中国への輸出は 15.3 万トン（0.9%）と大きく減少している。

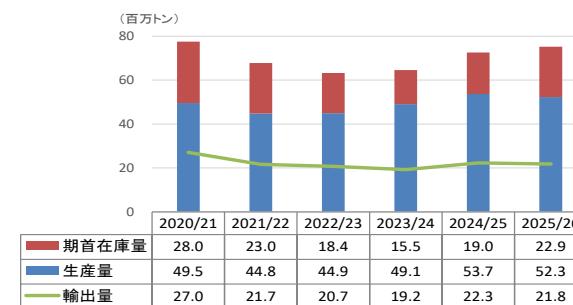
2025/26 年度の期末在庫量は 25.1 百万トンと、期首在庫量が増加するとともに輸出量も減少することから前年度と比べ 9.7%増と 6 年ぶりの高水準となる見込み。

小麦－米国（冬小麦が全体の 7 割、春小麦は 3 割）

年 度	2023/24	2024/25 (見込み)	2025/26 (25年6月～26年5月)		
			予測値	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生 産 量	49.1	53.7	52.3	—	▲ 2.6
消 費 量	30.2	31.5	31.5	—	0.2
うち飼料用	2.3	3.3	3.3	—	—
輸 出 量	19.2	22.3	21.8	—	▲ 2.5
輸 入 量	3.8	4.1	3.3	—	▲ 19.9
期末在庫量	19.0	22.9	25.1	—	9.7
期末在庫率	38.4%	42.6%	47.1%	—	4.6
(参考)					
収穫面積(百万ha)	15.01	15.57	15.07	—	▲ 3.2
単収(t/ha)	3.27	3.45	3.47	—	0.6

資料：USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「World Agricultural Production」(12 May 2025)

図 米国の小麦の期首在庫量・生産量・輸出量の推移



資料：USDA「PS&D」（2025.5.12）をもとに農林水産省で作成

表 米国産小麦の輸出量と輸出先国 (輸出量: 万トン、シェア: %)

2023/24年度 (2023年6月～2024年5月)			2023/24年度 (2023年6月～2024年3月)			2024/25年度 (2024年6月～2025年3月)		
国 名	輸出量	シェア	国 名	輸出量	シェア	国 名	輸出量	シェア
メキシコ	325.8	17.4	メキシコ	263.5	17.3	メキシコ	324.0	18.5
フィリピン	274.5	14.7	フィリピン	209.2	13.8	フィリピン	208.8	11.9
中国	216.9	11.6	中国	166.5	10.9	日本	200.5	11.4
日本	197.1	10.5	日本	164.0	10.8	韓国	188.7	10.8
韓国	130.1	6.9	韓国	107.8	7.1	台湾	86.7	4.9
台湾	110.5	5.9	台湾	87.2	5.7	タイ	68.1	3.9
その他	618.1	33.0	その他	523.3	34.4	その他	677.0	38.6
計	1,873.0	100.0	計	1,521.6	100.0	計	1,753.8	100.0

資料：USDA「Global Agricultural Trade System」をもとに農林水産省
で作成

＜ カナダ ＞ 2025/26 年度の生産量は前年度から 0.7%減の見込み（AAFC）

【生育・生産状況】カナダ農務農産食品省（AAFC）「Outlook for Principal Field Crops」（2025.5.21）によれば、2025/26 年度の実産量は、単収の引上げを受け前月予測から 0.2 百万トン上方修正され 34.7 百万トンと、史上 3 番目の生産量となった前年度（35.0 百万トン）と比べ 0.7%減となるものの、過去 5 年平均（32.1 百万トン）と比べ 8.1%増となる見込み。種類別には、普通小麦が 29.3 百万トンと、前年度（29.1 百万トン）と比べ 0.7%増となり、史上最高の生産量となった 2013/14 年度に次ぐ史上 2 番目の生産量となる見込み。デュラム小麦は 5.4 百万トンと、前年度（5.9 百万トン）と比べ 7.5%減となるものの、過去 5 年平均（5.1 百万トン）と比べ 7.1%増となる見込み。USDA「World Agricultural Production」（2025.5.12）によれば、2025/26 年度の実産量は、36.0 百万トンと収穫面積及び単収が増加することから前年度（35.0 百万トン）と比べ 3.0%増、過去 5 年平均（32.1 百万トン）と比べ 12.1%増となる見込み。生産量の大部分を占める春小麦については、本年作付け時の干ばつの状況は前年度と比べ改善していたものの、4 月のカナダ干ばつモニターでは依然として農地の 37%が干ばつに分類されている。

【貿易情報・その他】AAFC によれば、2025/26 年度の輸出量は、高品質小麦に対する世界的な需要を受け前月予測から 0.6 百万トン上方修正され 26.1 百万トンとなるものの、デュラム小麦が減産となることから前年度（26.6 百万トン）と比べ 1.7%減となる見込み。種類別には、普通小麦が 21.5 百万トンと前年度と同水準、デュラム小麦が 4.6 百万トンと前年度と比べ 8.9%減となる見込み。2024/25 年度の輸出量は、好調な輸出を受け前月予測から 0.3 百万トン上方修正され 26.6 百万トンと、前年度（25.3 百万トン）と比べ 4.9%増となる見込み。種類別には、普通小麦が 21.5 百万トンと前年度と比べ 1.2%減となる見込み。これは 2024/25 年度の実産量は増加するものの、低品質な小麦が増加し飼料用消費量が増加したこと等による。デュラム小麦は 5.1 百万トンと生産量の回復による輸出余力の増大等を受け、前年度（3.5 百万トン）と比べ 42.3%増となる見込み。

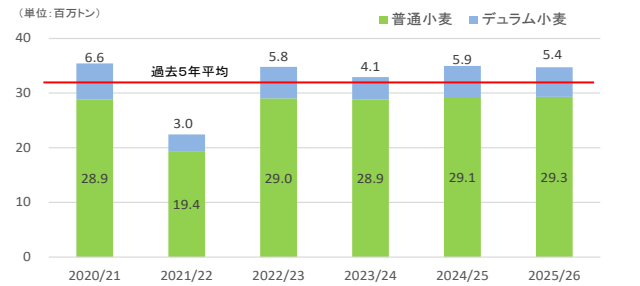
カナダ穀物委員会（CGC）によれば、2024/25 年度のうち 2024 年 8 月～2025 年 3 月の輸出量は、1,692.8 万トンと、前年同期（1,660.0 万トン）と比べ 2.0%増。種類別には、普通小麦が 1,335.1 万トンと前年同期（1,426.4 万トン）と比べ 6.4%減で国別にはインドネシア 146.7 万トン（11.0%）、日本 118.1 万トン（8.8%）、ペルー 97.8 万トン（7.3%）の順。デュラム小麦は 357.7 万トンと前年同期（233.6 万トン）と比べ 53.1%増で国別にはアルジェリア 73.7 万トン（20.6%）、イタリア 73.5 万トン（20.5%）、モロッコ 73.2 万トン（20.5%）の順。

小麦－カナダ（春小麦を主に栽培）

年 度	2023/24	2024/25 (見込み)	2025/26 (25年8月～26年7月)		
			予測値、() はAAFC	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生 産 量	33.0	35.0	36.0 (34.7)	—	3.0
消 費 量	9.1	9.0	9.3 (8.7)	—	2.8
うち飼料用	4.0	3.8	4.0 (4.2)	—	5.3
輸 出 量	25.4	27.0	27.0 (26.1)	—	—
輸 入 量	0.6	0.6	0.6 (0.1)	—	—
期末在庫量	4.6	4.1	4.4 (4.3)	—	7.3
期末在庫率	13.3%	11.4%	12.1% (12.4%)	—	0.7

(参考)
収穫面積(百万ha) 10.70 10.65 10.90 (10.92)
単収(t/ha) 3.08 3.28 3.30 (3.18)
資料：USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「World Agricultural Production」(12 May 2025)
AAFC 「Outlook For Principal Field Crops」(21 May 2025)

図 カナダ産小麦の実産量の推移



資料：AAFC「Outlook for Principal Field Crops」（2025.5.21）をもとに農林水産省で作成

表 カナダ産小麦の輸出量と輸出先国

○普通小麦				(輸出量: 万トン、シェア: %)			
2023/24年度 (2023年8月～2024年7月)		2023/24年度 (2023年8月～2024年3月)		2024/25年度 (2024年8月～2025年3月)		2024/25年度 (2024年8月～2025年3月)	
国名	輸出量	国名	輸出量	国名	輸出量	国名	輸出量
中国	110.3	中国	228.2	インドネシア	146.7	インドネシア	146.7
インドネシア	251.9	インドネシア	151.3	日本	118.1	日本	118.1
日本	173.9	インドネシア	131.2	ペルー	97.8	ペルー	97.8
ペルー	172.7	日本	116.8	中国	85.4	中国	85.4
その他	132.3	その他	83.2	その他	84.0	その他	84.0
その他	1,069.2	その他	715.8	その他	803.0	その他	803.0
計	2,115.3	計	1,426.4	計	1,335.1	計	1,335.1

○デュラム小麦				(輸出量: 万トン、シェア: %)			
2023/24年度 (2023年8月～2024年7月)		2023/24年度 (2023年8月～2024年3月)		2024/25年度 (2024年8月～2025年3月)		2024/25年度 (2024年8月～2025年3月)	
国名	輸出量	国名	輸出量	国名	輸出量	国名	輸出量
アルジェリア	89.3	アルジェリア	67.8	アルジェリア	73.7	アルジェリア	73.7
モロッコ	81.7	モロッコ	53.7	イタリア	73.5	イタリア	73.5
モロッコ	46.2	イタリア	31.5	モロッコ	73.2	モロッコ	73.2
イタリア	44.7	モロッコ	29.4	モロッコ	43.2	モロッコ	43.2
日本	21.2	日本	13.5	スペイン	16.9	スペイン	16.9
その他	60.4	その他	37.7	その他	77.3	その他	77.3
計	343.5	計	233.6	計	357.7	計	357.7

資料：CGC のデータをもとに農林水産省で作成

< 豪州 > 2025/26 年度の生産量は前年度から 9.1%減の見込み

【生育・生産状況】USDA によれば、2025/26 年度の実産量は 31.0 百万トンと、前年度から収穫面積及び単収が減少することから史上 3 番目の生産量となった前年度と比べ 9.1%減、過去 5 年平均 (33.8 百万トン) と比べ 8.2%減となる見込み。

同「World Agricultural Production」(2025.5.12) によれば、小麦生産地の大半は冬作物の作付け及び生育に適した土壌水分となっているものの、ウェスタンオーストラリア州 (WA 州)、サウスオーストラリア州 (SA 州) 及びニューサウスウェールズ州 (NSW 州) 南部では 4 月の降水量が平年を下回り、2025/26 年度の実産量の作付け及び生育に悪影響を及ぼす可能性がある。

西豪州穀物産業協会 (GIWA) 「Crop Report」(2025.5.9) によれば、WA 州南部では 4 月にまとまった降雨があったものの、WA 州の北部の一部地域では乾燥により土壌水分が不足している。2025/26 年度の作付面積は、一部の地域で乾燥が続いていることから前月予測から 12 万ヘクタール下方修正され 407 万ヘクタールとなる見込み。

なお、豪州気象局によれば、5 月の降水量は平年を下回ると予測されている。

また、USDA によれば、2024/25 年度の実産量は前月予測からの変更はなく 34.1 百万トンと、前年度と比べ 31.4%増、過去 5 年平均 (29.8 百万トン) と比べ 14.4%増となる見込み。

【貿易情報・その他】USDA によれば、2025/26 年度の輸出量は 23.0 百万トンと、生産量が減少することから、前年度と比べ 8.0%減、過去 5 年平均 (25.6 百万トン) と比べ 10.1%減となる見込み。

2024/25 年度の実産量は中国への輸出減少等を受け前月予測から 0.5 百万トン下方修正され 25.0 百万トンとなるものの、前年度と比べ 26.0%増となる見込み。豪州農業資源経済科学局 (ABARES) によれば、2024/25 年度のうち 2024 年 10 月～2025 年 3 月の輸出量は 997.9 万トンと、前年同期 (1,141.4 万トン) と比べ 12.6%減。国別には、インドネシア 173.1 万トン (17.4%)、フィリピン 165.3 万トン (16.6%)、タイ 101.7 万トン (10.2%) の順で、中国は 54.7 万トン (5.5%) と大きくシェアを減少させている。

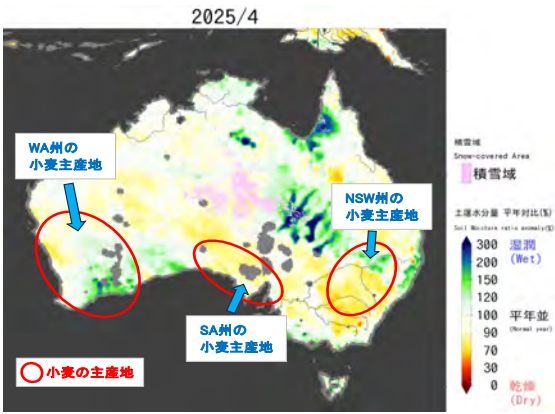
USDA によれば、2025/26 年度の期末在庫量は 4.3 百万トンと、期首在庫量が増加するとともに輸出量も減少することから前年度と比べ 2.4%増となる見込み。

小麦－豪州 (冬小麦を主に栽培)

年 度	2023/24	2024/25 (見込み)	2025/26 (25年10月～26年9月)			
			予測値、() は IGC	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)	
生 産 量	26.0	34.1	31.0 (30.5)	—	▲ 9.1	
消 費 量	7.8	8.0	8.1 (8.2)	—	1.3	
うち飼料用	4.3	4.5	4.6 (4.5)	—	2.2	
輸 出 量	19.8	25.0	23.0 (24.3)	—	▲ 8.0	
輸 入 量	0.2	0.2	0.2 (0.2)	—	—	
期末在庫量	2.9	4.2	4.3 (3.5)	—	2.4	
期末在庫率	10.5%	12.8%	13.9% 10.7%	—	1.1	
(参考)						
収穫面積(百万ha)※	12.37	13.06	12.50 (12.80)	—	▲ 4.3	
単収(t/ha)	2.10	2.61	2.48 (2.39)	—	▲ 5.0	

資料: USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「World Agricultural Production」(12 May 2025)
IGC 「Grain Market Report」(17 April 2025)

図 豪州の土壌水分量年対比 (2025 年 4 月)



資料: 農業気象情報衛星モニタリングシステム (JASMAI)

表 豪州産小麦の輸出量と輸出先国

2023/24年度 (2023年10月～2024年9月)			2023/24年度 (2023年10月～2024年3月)			2024/25年度 (2024年10月～2025年3月)		
国 名	輸出量	シェア	国 名	輸出量	シェア	国 名	輸出量	シェア
中国	375.6	19.0	中国	291.7	25.6	インドネシア	173.1	17.4
インドネシア	323.5	16.3	インドネシア	205.7	18.0	フィリピン	165.3	16.6
フィリピン	233.7	11.8	フィリピン	99.8	8.7	タイ	101.7	10.2
イエメン	152.2	7.7	イエメン	80.5	7.1	ベトナム	77.1	7.7
韓国	123.5	6.2	ベトナム	73.1	6.4	イエメン	68.7	6.9
日本	120.6	6.1	日本	64.5	5.6	韓国	58.6	5.9
その他	651.8	32.9	その他	326.2	28.6	その他	353.3	35.4
計	1,980.8	100.0	計	1,141.4	100.0	計	997.9	100.0

資料: ABARES 「Trade dashboard」をもとに農林水産省で作成

< EU27 > 2025/26 年度の生産量は 134.3 百万トンに回復する見込み（EC）

【生育・生産状況】欧州委員会（EC）「EU Cereals Balance Sheets」（2025.4.24）によれば、2025/26 年度の生産量は 134.3 百万トンと、生育期間を通じた降雨過多等により減産となった前年度から生産量が回復することから、前年度と比べ 12.9%増、過去 5 年平均（129.5 百万トン）と比べ 3.7%増となる見込み。このうち、普通小麦は 126.3 百万トンと、フランス、ドイツ等で生産量が回復することから前年度と比べ 13.1%増、過去 5 年平均と比べ 3.6%増となる見込み。デュラム小麦もイタリア等で増産となることから 7.9 百万トンと、前年度と比べ 10.0%増、過去 5 年平均と比べ 5.7%増となる見込み。

同「JRC MARS Bulletin - Crop monitoring in Europe」（2025.4.22）によれば、4 月 22 日現在、南欧州は豊富な降雨に恵まれ作物の作柄が改善した。一方、中央・北部欧州、特にフランス、ドイツ、ポーランドは、降雨量が少なく乾燥しており、秋播き作物の生長と春播き作物の出芽・初期生育に懸念が生じている。

2024/25 年度の実生産量は、前月予測から 0.1 百万トン下方修正され 118.9 百万トンと、生育期間を通じた降雨過多等により前年度と比べ 10.3%減、過去 5 年平均（133.4 百万トン）と比べ 10.9%減となる見込み。このうち、普通小麦は前月予測から 0.1 百万トン下方修正され 111.7 百万トンと、前年度と比べ 10.8%減、過去 5 年平均と比べ 11.3%減。デュラム小麦は前月予測からわずかに上方修正され 7.2 百万トンとなるものの、前年度と比べ 2.7%減、過去 5 年平均と比べ 4.3%減となる見込み。

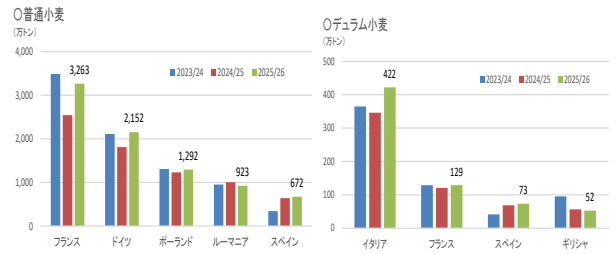
【貿易情報・その他】EC によれば、2025/26 年度の輸出量は 30.7 百万トンと、減産となった前年度から生産量が回復することから前年度（24.7 百万トン）と比べ 24.2%増となる見込み。一方で 2024/25 年度のうち 2024 年 7 月～2025 年 2 月の輸出量は、1,763.9 万トンと、前年同期（2,545.0 万トン）と比べ 30.7%減。種類別には、普通小麦が 1,706.3 万トンと、前年度と比べ 31.7%減となる一方、デュラム小麦は 57.7 万トンと、ルーマニアやギリシャ等の輸出量が増加したことから同 24.8%増。2025/26 年度の輸入量は 5.4 百万トンと、ウクライナからの輸入が減少することから前年度（10.0 百万トン）と比べ 46.5%減となる見込み。2024/25 年度のうち 2024 年 7 月～2025 年 2 月の輸入量は、732.1 万トンと、ウクライナからの輸入が減少したこと等から前年同期（846.5 万トン）と比べ 13.5%減。種類別には、普通小麦が 602.0 万トンと、前年度と比べ 8.9%減。デュラム小麦も 130.1 万トンと、同 30.0%減。2025/26 年度の期末在庫量は 9.6 百万トンと、増産となるものの、輸出量が増加し輸入量も減少すること等から前年度（11.5 百万トン）と比べ 16.4%減となる見込み。

小麦－EU27（冬小麦を主に栽培）

年 度	2023/24	2024/25 (見込み)	2025/26 (25年7月～26年6月)		
			予測値、() はEC		
			前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)	
生 産 量	135.4	122.1	136.0 (134.3)	—	11.4
消 費 量	110.5	109.8	111.0 (110.8)	—	1.1
うち飼料用	46.5	45.5	46.5 (45.8)	—	2.2
輸 出 量	38.0	26.5	34.0 (30.7)	—	28.3
輸 入 量	12.7	10.7	9.5 (5.4)	—	▲ 11.2
期末在庫量	15.8	12.4	12.9 (9.6)	—	4.0
期末在庫率	10.6%	9.1%	8.9% (6.8%)	—	▲ 0.2
(参考)					
収穫面積(百万ha)	24.32	22.70	24.00 (23.34)	—	5.7
単収(t/ha)	5.57	5.38	5.67 (5.75)	—	5.4

資料：USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「World Agricultural Production」(12 May 2025)
EC 「EU Cereals Balance Sheets」(24 April 2025)

図 主要小麦生産国の小麦生産量の推移



資料：EC 「EU cereals production, area and yield」(2025.4.24)
をもとに農林水産省で作成

表 EU27 の小麦の輸出量及び輸入量

O輸出量					O輸入量						
2023/24年度 (2023年7月～2024年6月)			2024/25年度 (2024年7月～2025年2月)		2023/24年度 (2023年7月～2024年6月)			2024/25年度 (2024年7月～2025年2月)			
国名	輸出量 (万トン)	シェア (%)	国名	輸出量 (万トン)	シェア (%)	国名	輸入量 (万トン)	シェア (%)	国名	輸入量 (万トン)	シェア (%)
モロッコ	489.1	13.5	アルジェリア	221.4	12.5	ウクライナ	648.7	53.6	ウクライナ	373.4	51.0
アルジェリア	396.7	10.9	ナイジェリア	203.8	11.6	カナダ	138.5	11.4	カナダ	167.3	22.9
ナイジェリア	348.9	9.6	モロッコ	182.0	10.3	ロシア	82.1	6.8	モルドバ	45.2	6.2
中国	237.6	6.5	エジプト	138.5	7.9	トルコ	76.8	6.3	米国	43.6	6.0
エジプト	178.3	4.9	英国	136.3	7.7	モルドバ	73.6	6.1	セルビア	34.0	4.6
サウジアラビア	154.1	4.2	サウジアラビア	79.5	4.5	カザフスタン	56.8	4.7	英国	28.7	3.9
その他	1,830.4	50.4	その他	802.4	45.5	その他	134.0	11.1	その他	40.0	5.5
合計	3,635.1	100.0	合計	1,763.9	100.0	合計	1,210.5	100.0	合計	732.1	100.0

資料：EC 「EU trade for cereals」(2025.4.24)をもとに農林水産省で作成

< ロシア > 2025/26 年度の生産量は前年度から 1.7%増の見込み

【生育・生産状況】USDA によれば、2025/26 年度の実産量（クリミア地域分を含まず）は 83.0 百万トンと、霜害と高温乾燥により生産量が減少した前年度から単収が増加することから前年度と比べ 1.7%増となるものの、過去 5 年平均（85.1 百万トン）と比べ 2.5%減となる見込み。種類別には、冬小麦が 59.0 百万トンと、前年度（55.8 百万トン）に比べ 5.7%増となる一方、春小麦は 24.0 百万トンと、前年度（25.8 百万トン）と比べ 7.0%減となる見込み。

同「World Agricultural Production」（2025.5.12）によれば、ロシア欧州部では、2025/26 年度の冬小麦を含む秋播き作物の作柄は、2024 年 11 月下旬時点では約 37%が不良な状態であったものの、越冬後の 3 月中～下旬には 5 %まで改善した。現地情報会社によれば、2025/26 年度春小麦の作付予定面積 1,227.1 万ヘクタールのうち、5 月 6 日現在、287.2 万ヘクタールに作付けされ作付進捗率は 23.4%となっている。

なお、USDA によれば 2024/25 年度の実産量は前月予測からの変更はなく 81.6 百万トンと、前年度と比べ 10.8%減、過去 5 年平均（83.5 百万トン）と比べ 2.3%減となる見込み。

【貿易情報・その他】USDA によれば、2025/26 年度の輸出量は 45.0 百万トンと、生産量が増加することから前年度と比べ 3.4%増、過去 5 年平均（44.2 百万トン）と比べ 1.8%増と史上 3 番目の輸出量となる見込み。一方、2024/25 年度の輸出量は低調な輸出を受け前月予測から 0.5 百万トン下方修正され 43.5 百万トンと、史上最高の輸出量となった前年度と比べ 21.6%減となるものの、過去 5 年平均（42.4 百万トン）と比べ 2.6%増となる見込み。

ロシア連邦政府は、2024 年 12 月 20 日、2024/25 年度後半（2025 年 2 月 15 日～6 月 30 日）に小麦及びメスリンに設定される輸出枠を 1,060 万トン（前年度 2,900 万トン）とすることを発表した。現地情報会社（2025.4.30）によれば、ドル安・ルーブル高の傾向から輸出の収益率が下がり輸出が低調となっており、輸出枠の全量消化は難しい見込み。

2024/25 年度のうち 2024 年 7 月～2025 年 4 月の輸出量は 3,756.2 万トンと、前年同期（4,492.1 万トン）と比べ 16.4%減となっており、国別には、エジプト 756.1 万トン（20.1%）、トルコ 267.9 万トン（7.1%）、バングラデシュ 254.6 万トン（6.8%）の順。

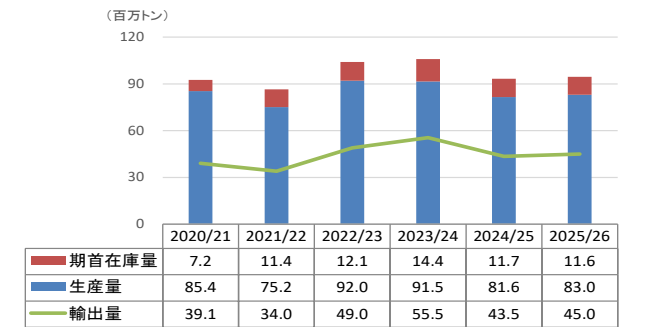
USDA によれば、2025/26 年度の期末在庫量は 11.4 百万トンと、輸出量が増加すること等から前年度と比べ 1.7%減となる見込み。

小麦－ロシア（主産地の欧州部で冬小麦、シベリアで春小麦を栽培）

年 度	2023/24	2024/25 (見込み)	2025/26 (25年7月～26年6月)		
			(単位:百万トン)		
			予測値、() はIGC	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生 産 量	91.5	81.6	83.0 (80.6)	—	1.7
消 費 量	39.0	38.5	38.5 (38.9)	—	—
うち飼料用	16.0	15.5	15.5 (16.0)	—	—
輸 出 量	55.5	43.5	45.0 (42.5)	—	3.4
輸 入 量	0.3	0.3	0.3 (0.5)	—	—
期末在庫量	11.7	11.6	11.4 (10.0)	—	▲ 1.7
期末在庫率	12.4%	14.1%	13.6% (12.3%)	—	▲ 0.5
(参考)					
収穫面積(百万ha)	28.83	27.80	27.20 (27.22)	—	▲ 2.2
単収(t/ha)	3.17	2.94	3.05 (2.96)	—	3.7

資料：USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「World Agricultural Production」(12 May 2025)
IGC 「Grain Market Report」(17 April 2025)

図 ロシアの小麦の期首在庫量・生産量・輸出量の推移



資料：USDA 「PS&D」（2025. 5. 12）をもとに農林水産省で作成

表 ロシア産小麦の輸出量と輸出先国

2023/24年度 (2023年7月～2024年6月)						2024/25年度 (2024年7月～2025年4月)						(輸出量:万トン、シェア:%)	
国 名	輸出量	シェア	国 名	輸出量	シェア	国 名	輸出量	シェア	国 名	輸出量	シェア		
エジプト	868.3	16.0	エジプト	703.4	15.7	エジプト	756.1	20.1					
トルコ	691.9	12.8	トルコ	601.2	13.4	トルコ	267.9	7.1					
バングラデシュ	350.2	6.5	バングラデシュ	339.2	7.6	バングラデシュ	254.6	6.8					
アルジェリア	236.8	4.4	パキスタン	213.0	4.7	アルジェリア	166.3	4.4					
サウジアラビア	224.8	4.2	アルジェリア	193.6	4.3	リビア	148.1	3.9					
その他	3,044.0	56.2	その他	2,441.7	54.4	その他	2,163.2	57.6					
合計	5,416.0	100.0	合計	4,492.1	100.0	合計	3,756.2	100.0					

資料：現地情報会社のデータをもとに農林水産省で作成

＜ウクライナ＞ 2025/26 年度の生産量は前年度から 1.7%減の見込み

【生育・生産状況】USDA によれば、2025/26年度の生産量（クリミア地域分を含む）は23.0百万トンと、前年度から収穫面積が減少することから前年度と比べ1.7%減、ロシアの侵攻前の過去5年平均（2017/18～2021/22年度、27.9百万トン）と比べ17.6%減となる見込み。

現地情報会社によれば、2025/26年度の冬小麦を含む秋播き作物の生育は、4月末現在、春の生長再開が早かったことから平年より7～10日生育が進んでいる。このうち、冬小麦については、おおむね茎立期を迎えている。ウクライナ農業政策食料省（2025.5.9）によれば、2025/26年度の春小麦の作付面積は前年度から増加し22.75万ヘクタールとなる見込み。5月8日現在の春小麦の作付面積は21.25万ヘクタールと作付進捗率は93.4%となっている。

なお、USDA によれば 2024/25 年度の実生産量は、前月予測からの変更はなく 23.4 百万トンと、前年度と比べ 1.7%増となるものの、ロシアの侵攻前の過去5年平均と比べ 16.2%減となる見込み。

【貿易情報・その他】USDA によれば、2025/26年度の輸出量は16.5百万トンと、期首在庫量の増加と消費量の減少による供給量の増加等から前年度と比べ3.1%増となるものの、ロシアの侵攻前の過去5年平均（18.1百万トン）と比べ8.8%減となる見込み。

現地情報会社によれば、2024年9月3日、ウクライナ農業政策食料省は穀物市場関係者と覚書の附属書を締結し、2024/25年度の小麦の輸出上限は1,620万トンに設定された。

ウクライナ税関庁によれば、2024/25年度のうち2024年7月～2025年4月の輸出量は1,383.7万トンと、前年同期（1,577.8万トン）と比べ12.3%減となっており、2024/25年度の輸出上限1,620万トンに対し85.4%を輸出している。国別には、スペイン324.4万トン（23.4%）、エジプト167.7万トン（12.1%）、アルジェリア159.2万トン（11.5%）の順となっており、前年度同様スペインが首位である一方、アルジェリアに加え、インドネシア、ベトナムといったアジア諸国のシェアが増加している。現地情報会社によれば、シェア増加の要因は、アルジェリアは同国市場で大きなシェアを占めていたフランスの小麦生産量が大きく減少したこと、アジア諸国は飼料穀物の需要が増加していることやルーマニア・ブルガリアの黒海沿岸を通過する臨時回廊により遠方への輸出が安定してきたことが挙げられる。

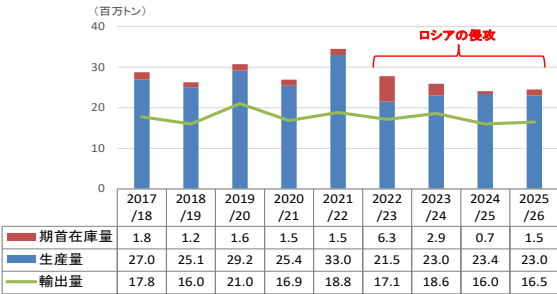
USDAによれば、2025/26年度の期末在庫量は1.5百万トンと、前年度と同水準となる見込み。

小麦－ウクライナ（主に冬小麦を栽培）

年 度	2023/24	2024/25 (見込み)	2025/26 (25年7月～26年6月)			
			予測値、() は IGC		前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
			予測値、()	は IGC		
生 産 量	23.0	23.4	23.0	(25.1)	—	▲ 1.7
消 費 量	6.7	6.7	6.6	(8.9)	—	▲ 1.5
うち飼料用	2.0	2.0	2.0	(1.4)	—	—
輸 出 量	18.6	16.0	16.5	(16.3)	—	3.1
輸 入 量	0.1	0.1	0.1	(0.1)	—	25.0
期末在庫量	0.7	1.5	1.5	(0.6)	—	—
期末在庫率	2.8%	6.6%	6.5%	(2.4%)	—	▲ 0.1
(参考)						
収穫面積(百万ha)	5.01	5.20	5.00	(6.10)	—	▲ 3.8
単収(t/ha)	4.59	4.50	4.60	(4.12)	—	2.2

資料：USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「World Agricultural Production」(12 May 2025)
IGC 「Grain Market Report」(17 April 2025)

図 ウクライナの小麦の期首在庫量・生産量・輸出量の推移



資料：USDA「PS&D」（2025.5.12）をもとに農林水産省で作成

表 ウクライナ産小麦の輸出量と輸出先国

2023/24年度 (2023年7月～2024年6月)		2023/24年度 (2023年7月～2024年4月)		2024/25年度 (2024年7月～2025年4月)	
国名	輸出量	国名	輸出量	国名	輸出量
スペイン	589.9	スペイン	511.8	スペイン	324.4
エジプト	172.1	エジプト	131.2	エジプト	167.7
インドネシア	151.5	トルコ	106.3	アルジェリア	159.2
トルコ	107.8	インドネシア	106.1	インドネシア	156.1
ルーマニア	100.1	ルーマニア	100.1	ベトナム	88.6
その他	719.2	その他	622.2	その他	487.7
合計	1,840.6	合計	1,577.8	合計	1,383.7

資料：APK-Inform Agency のデータをもとに農林水産省で作成

＜ 中国 ＞ 2025/26 年度の生産量は前年度から 1.4%増の見込み

【生育・生産状況】USDA によれば、2025/26 年度の実産量は 142.0 百万トンと、前年度から収穫面積及び単収が増加することから史上最高の生産量となった前年度と比べ 1.4%増、過去 5 年平均（137.1 百万トン）と比べ 3.6%増となり史上最高を更新する見込み。

中国中央气象台「作物生育期観測」（2025.5.11～17）によれば、2025/26 年度の冬小麦の生育状況は主要生産地の大部分で開花及び乳熟期を迎えている。春小麦の主要生産地では作付期及び分けつ期を迎えている。同「全国農業気象月報」（2025.5.3）によれば、2025/26 年度の冬小麦のうち、主要生産地の河北省及び河南省の一部地域において、降雨量が少なく乾燥による生育への影響が懸念されている。

【貿易情報・その他】USDA によれば、2025/26 年度の消費量は 150.0 百万トンと、前年度と同水準となるものの、過去 5 年平均（150.9 百万トン）と比べ 0.6%減となる見込み。2025/26 年度の輸入量は 6.0 百万トンと、期首在庫量の減少等から前年度と比べ 81.8%増となる見込み。

中国国務院関税税則委員会は、3 月 4 日、米国政府が中国産品の輸入に関し追加関税を 10%から 20%に引き上げると発表したことを受け、3 月 10 日から米国産農水産物の輸入に関し追加関税を賦課すると発表した。小麦及びとうもろこしについては 15%、大豆については 10%の追加関税が賦課された。更に 4 月 4 日、米国政府が相互関税を賦課すると発表したことを受け、全ての米国産品の輸入に関し 4 月 10 日から 34%の追加関税を賦課すると発表（税委会公告 2025 年第 4 号）。4 月 9 日には追加関税の 84%への引き上げを発表（同第 5 号）し、4 月 11 日には追加関税を 125%に引き上げ 4 月 12 日から適用すると発表（同第 6 号）した。これにより小麦及びとうもろこしは計 140%（大豆は 135%）の追加関税を課すこととなった。その後、米中共同声明を受け、5 月 14 日から税委会公告 2025 第 4 号の追加関税 34%のうち 24%の適用を 90 日間停止するとともに、同第 5 号及び第 6 号の追加関税を停止すると発表（同第 7 号）した。これにより小麦及びとうもろこしは計 25%（大豆は 20%）の追加関税を課すこととなった。

中国海関統計によれば、2024/25 年度のうち 2024 年 7 月～2025 年 3 月までの輸入量は 220.1 万トンと、増産等を受け前年同期（837.1 万トン）と比べ 73.7%減となっている。国別には、カナダ 87.4 万トン（39.7%）、米国 46.2 万トン（21.0%）、カザフスタン 28.8 万トン（13.1%）の順となっている。

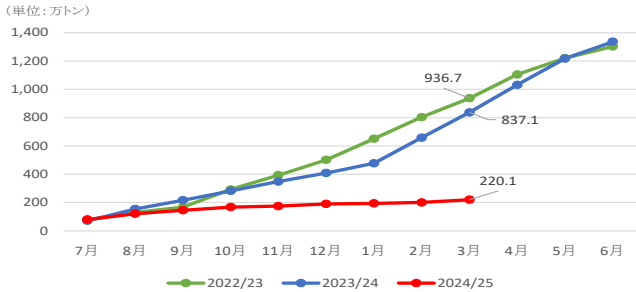
USDA によれば、2025/26 年度の期末在庫量は 123.9 百万トンと、期首在庫量が減少したこと等から前年度と比べ 2.4%減となる見込み。

小麦－中国（冬小麦を主に栽培）

年 度	2023/24	2024/25 (見込み)	2025/26 (25年7月～26年6月)		
			予測値、() はIGC	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生 産 量	136.6	140.1	142.0 (141.5)	—	1.4
消 費 量	153.5	150.0	150.0 (147.4)	—	—
うち飼料用	37.0	33.0	33.0 (28.0)	—	—
輸 出 量	1.0	1.0	1.0 (1.2)	—	—
輸 入 量	13.6	3.3	6.0 (5.2)	—	81.8
期末在庫量	134.5	126.9	123.9 (135.1)	—	▲ 2.4
期末在庫率	87.0%	84.0%	82.1% (90.9%)	—	▲ 2.0
(参考)					
収穫面積(百万ha)	23.63	23.59	23.60 (23.65)	—	0.04
単収(t/ha)	5.78	5.94	6.02 (5.98)	—	1.3

資料：USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「World Agricultural Production」(12 May 2025)
IGC 「Grain Market Report」(17 April 2025)

図 中国の小麦輸入量の推移（累計）



資料：中国海関統計をもとに農林水産省で作成

表 中国の小麦輸入量と輸入先国

2023/24年度 (2023年7月～2024年6月)			2023/24年度 (2023年7月～2024年3月)			2024/25年度 (2024年7月～2025年3月)		
国名	輸入量	シェア	国名	輸入量	シェア	国名	輸入量	シェア
豪州	503.5	37.7	豪州	356.2	42.6	カナダ	87.4	39.7
カナダ	307.6	23.0	カナダ	213.8	25.5	米国	46.2	21.0
フランス	230.1	17.2	フランス	106.4	12.7	カザフスタン	28.8	13.1
米国	181.8	13.6	米国	77.1	9.2	ロシア	27.6	12.5
カザフスタン	66.8	5.0	カザフスタン	49.5	5.9	豪州	25.3	11.5
ロシア	42.9	3.2	ロシア	31.1	3.7	日本	3.7	1.7
その他	3.9	0.3	その他	3.0	0.4	その他	1.1	0.5
合計	1,336.5	100.0	合計	837.1	100.0	合計	220.1	100.0

資料：中国海関統計をもとに農林水産省で作成

2 とうもろこし

(1) 国際的なとうもろこし需給の概要（詳細は右表を参照）

<USDA の見通し> 2025/26 年度

生産量 前年度比  前月比 **—**

・タンザニア、カナダ等で減少するも、米国、ウクライナ、アルゼンチン等で増加し、史上最高の見込み。

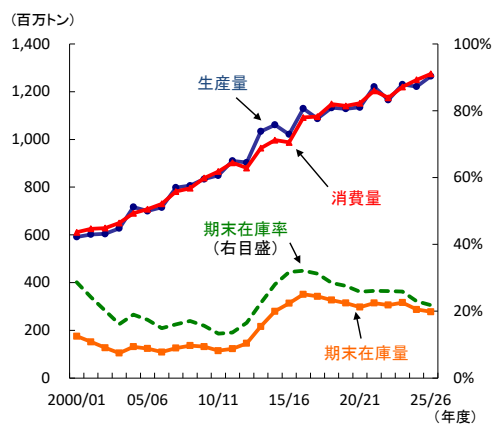
消費量 前年度比  前月比 **—**

・タンザニア等で減少するも、中国、米国、ブラジル等で増加し、史上最高の見込み。

輸出量 前年度比  前月比 **—**

・パラグアイ等で減少するも、ウクライナ、米国、アルゼンチン等で増加し、前年度を上回る見込み。

期末在庫量 前年度比  前月比 **—**



資料：USDA「PS&D」(2025.5.12)をもとに農林水産省にて作成。

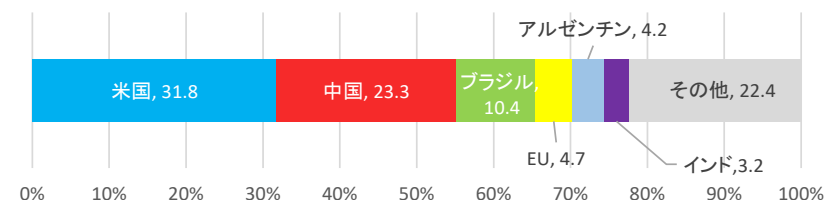
◎世界のとうもろこし需給

(単位：百万トン)

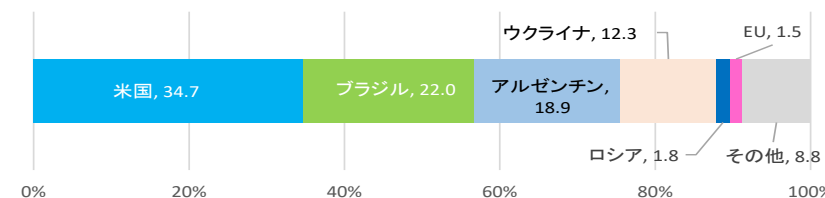
年 度	2023/24	2024/25 (見込み)	2025/26		
			予測値	前月予測から の変更	対前年度 増減率(%)
生 産 量	1,230.5	1,221.3	1,265.0	—	3.6
消 費 量	1,220.1	1,250.1	1,274.4	—	1.9
うち飼料用	769.1	781.9	801.6	—	2.5
輸 出 量	193.6	189.4	195.8	—	3.4
輸 入 量	198.2	183.5	187.5	—	2.2
期末在庫量	316.1	287.3	277.8	—	▲ 3.3
期末在庫率	25.9%	23.0%	21.8%	—	▲ 1.2

資料：USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」(12 May 2025)

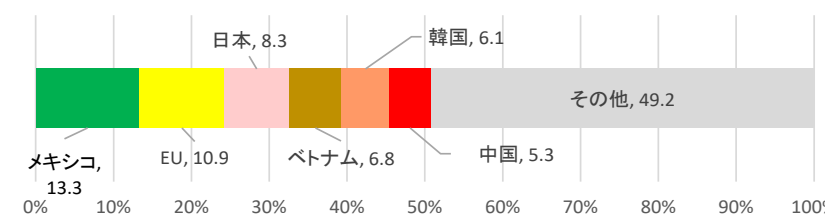
○ 2025/26 年度 世界のとうもろこしの生産量(1,265.0 百万トン) (単位：%)



○ 2025/26 年度 世界のとうもろこしの輸出量(195.8 百万トン) (単位：%)



○ 2025/26 年度 世界のとうもろこしの輸入量(187.5 百万トン) (単位：%)



(2) 国別のとうもろこしの需給動向

< 米国 > 2025/26 年度の生産量は、前年度から 6.4%増加する見込み

【生育・生産状況】USDA によれば、2025/26 年度の生産量は、収穫面積及び単収の増加を受け、前年度より 6.4%増の 401.9 百万トンとなり、史上最高の見込み。作付面積の増加は、とうもろこしの作付けに有利な価格相場により、多くの農家が大豆からとうもろこしに作付けを切り替えるとみられる。

同「Feed Outlook」(2025.5.14)によれば、4 月下旬から 5 月上旬にかけて産地の広範囲にわたり降雨に恵まれ、とうもろこしの生育に適した条件となった。

同「Crop Progress」(2025.5.12)によれば、5 月 11 日現在、とうもろこしの作付進捗率は 62%と、前年同期(47%)、過去 5 年平均(56%)をいずれも上回っている。また、出芽進捗率は 28%と、前年同期、過去 5 年平均(いずれも 21%)を上回っている。

【需要状況】USDA によれば、2025/26 年度の消費量は、生産量の増加に伴う価格低下及び飼料用消費の増加により、前年度比 1.1%増の 324.8 百万トンとなり、史上最高の見込み。

【貿易情報・その他】USDA によれば、2025/26 年度の輸出量は、生産量の増加を受け、前年度より 2.9%増の 68.0 百万トンの見込み。

同「Grain: World Markets and Trade」(2025.5.12)によれば、米国産の輸出価格は、5 月 7 日現在、前月から 6 ドル/トン下落し 208 ドル/トンとなった。米国の価格下落圧力を受け、ブラジル産は前月から 16 ドル/トン、アルゼンチン産は前月から 12 ドル/トンそれぞれ下落し、いずれも 207 ドル/トンとなった。

USDA によれば、2025/26 年度の期末在庫量は、生産量の増加を受けて、前年度から 27.2%増、過去 5 年平均(36.3 百万トン)から 25.9%増の 45.7 百万トンの見込み。期末在庫率は前年度より 2.4 ポイント増の 11.6%となる見込み。

とうもろこしー米国

(概ね 4～5 月に作付けされ、9～11 月に収穫される。)

(単位:百万トン)

年 度	2023/24	2024/25 (見込み)	2025/26 (25年9月～26年8月)		
			予測値	前月予測からの 変更	対前年度 増減率(%)
生産量	389.7	377.6	401.9	-	6.4
消費量	321.9	321.1	324.8	-	1.1
うち飼料用 エタノール用等	147.5	146.1	149.9	-	2.6
輸 出 量	58.2	66.0	68.0	-	2.9
輸 入 量	0.7	0.6	0.6	-	-
期末在庫量	44.8	36.0	45.7	-	27.2
期末在庫率	11.8%	9.3%	11.6%	-	2.4
(参考)					
収穫面積(百万ha)	35.01	33.55	35.37	-	5.4
単収(t/ha)	11.13	11.26	11.36	-	0.9

資料: USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「World Agricultural Production」(12 May 2025)

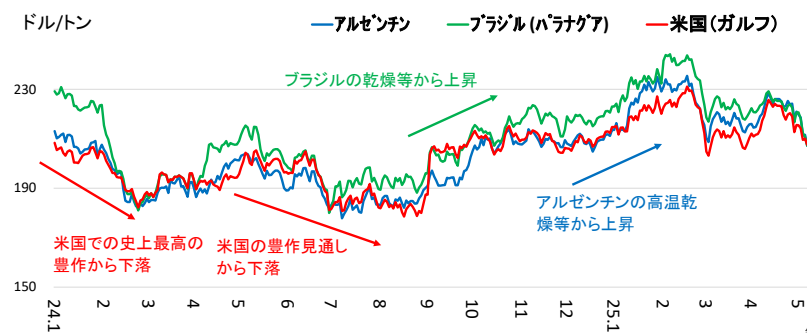
表 米国のとうもろこし輸出量と輸出先国

(輸出量: 万トン、シェア: %)

2023/24年度 (2023年9月～2024年8月)			2023/24年度 (2023年9月～2024年4月)			2024/25年度 (2024年9月～2025年4月)		
国名	輸出量	シェア	国名	輸出量	シェア	国名	輸出量	シェア
メキシコ	2,090.4	39.9	メキシコ	1,367.4	41.9	メキシコ	1418.1	33.5
日本	1,109.2	21.2	日本	631.4	19.4	日本	813.1	19.2
コロンビア	612.1	11.7	コロンビア	421.8	12.9	コロンビア	503.0	11.9
中国	286.0	5.5	中国	211.5	6.5	韓国	339.5	8.0
韓国	234.9	4.5	韓国	148.0	4.5	スペイン	191.5	4.5
その他	910.9	17.4	その他	480.4	14.7	その他	971.5	22.9
合計	5,243.5	100.0	合計	3,260.5	100.0	合計	4,236.7	100.0

資料: USDA 「Federal Grain Inspection Services Yearly Export Grain Totals」をもとに農林水産省作成

図 米国、ブラジル、アルゼンチンのとうもろこし輸出価格 (FOB) の推移



＜ ブラジル ＞ 2025/26 年度の生産量は、前年度から 0.8%増加する見込み

【生育・生産状況】USDA によれば、2025/26 年度の実産量は、収穫面積の増加を受けて前年度より 0.8%増の 131.0 百万トンと、史上 2 番目の生産量となる見通し。なお、2024/25 年度の実産量は、前月予測から上方修正され、2023/24 年度から 9.2%増の 130.0 百万トンの見込み。

ブラジル食料供給公社（CONAB）の月例報告（2025.5.15）によれば、2024/25 年度のとうもろこしの生産量は、前年度比 9.9%増の 126.9 百万トンの見込み。5 月上旬現在、夏とうもろこし（ブラジルのクロップカレンダー（図）参照）の収穫進捗率は、降雨量の減少により作業が順調に進んだ結果、78%に達した。夏とうもろこしの生産量は、生育期間を通して気象条件に恵まれたことによる単収増等を受けて、前年度比 7.5%増の 24.7 百万トンの見込み。また、冬とうもろこしの作付作業はほぼ終了し、現在のステージは主に、開花期、登熟期となっている。一部の地域で 2 月から 3 月上旬の降雨量の減少により初期の生育に影響があったものの、5 月上旬までに安定的な降雨に恵まれたことで良好な作柄が期待されており、冬とうもろこしの生産量は、前年度比 10.4%増の 102.2 万トンの見込み。

【需要状況】USDA によれば、2025/26 年度の消費量は、急速に拡大するエタノール向けとうもろこしの国内需要が堅調に推移し、前年度から 2.2%増の 93.0 百万トンと史上最高の見込み。

【貿易情報・その他】USDA によれば、2025/26 年度の輸出量は、主にエタノール向けとうもろこしの国内需要の高まりにより増加が抑制され、前年度と同水準の 43.0 百万トンの見込み。

ブラジル貿易統計によれば、2025 年 3～4 月の輸出量は 104.8 万トンで、前年同期（49.1 万トン）と比べ 113.6%増。国別には、イラン 44.8 万トン（42.8%）、サウジアラビア 27.5 万トン（26.2%）、ヨルダン 8.1 万トン（7.7%）の順となっている。

とうもろこしーブラジル

（夏とうもろこしは、概ね 8～翌年 1 月に作付けされ、2～4 月に収穫される。冬とうもろこしは、大豆収穫後の概ね 1～3 月に作付けされ、6～10 月に収穫される。）
（単位：百万トン）

年 度	2023/24	2024/25 (見込み)	2025/26（26年3月～27年2月）			
			予測値、() は CONAB	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)	
生 産 量	119.0	130.0	131.0	(-)	-	0.8
消 費 量	84.0	91.0	93.0	(-)	-	2.2
うち飼料用	62.5	64.5	65.5	...	-	1.6
輸 出 量	38.3	43.0	43.0	(-)	-	-
輸 入 量	1.7	1.5	1.6	(-)	-	6.7
期末在庫率	8.5	6.0	2.6	(-)	-	▲ 56.9
（参考）	6.9%	4.5%	1.9%	(-)	-	▲ 2.6
収穫面積(百万ha)	21.65	22.30	22.60	(-)	-	1.3
単収(t/ha)	5.50	5.83	5.80	(-)	-	▲ 0.5

資料：USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「World Agricultural Production」(12 May 2025)
CONAB「Graos」(15 May 2025)

表 ブラジルのとうもろこし輸出量と輸出先国

2023/24年度 (2024年 3 月～2025年 2 月)			2023/24年度 (2024年 3 月～2024年 4 月)			2024/25年度 (2025年 3 月～2025年 4 月)		
国名	輸出量	シェア	国名	輸出量	シェア	国名	輸出量	シェア
エジプト	601.1	15.7	イラン	19.0	38.8	イラン	44.8	42.8
イラン	536.9	14.1	コスタリカ	8.2	16.7	サウジアラビア	27.5	26.2
ベトナム	450.9	11.8	中国	7.3	14.9	ヨルダン	8.1	7.7
韓国	243.3	6.4	インドネシア	3.5	7.1	エジプト	7.6	7.3
日本	214.3	5.6	エルサルバドル	2.1	4.2	アルジェリア	4.4	4.2
その他	1,772.8	46.4	その他	9.0	18.3	その他	12.4	11.8
合計	3,819.4	100.0	合計	49.1	100.0	合計	104.8	100.0

資料：ブラジル貿易統計のデータを基に農林水産省にて作成

図 ブラジルのクロップカレンダー（中部から南部）

2024/25年度の夏とうもろこしの作付けは、2024年9月以降、順次開始。
冬とうもろこしの作付けは、2025年1月以降、大豆の収穫後に開始。

2024/25年度	2024年				2025年								
	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6	7	8	9
夏とうもろこし (リオ・グランデ・ド・スール 州等)	作付 3.8(百万ha)				収穫 24.7(百万t) → 収穫夏冬作計 126.9百万t								
冬とうもろこし (マット・グロッソ州、 パラナ州等)	作付面積夏冬作計 21.4百万ha				作付 17.6(百万ha) 収穫 102.2(百万t)								
大豆 (マット・グロッソ州、 パラナ州等)	作付 47.6(百万ha)				収穫 168.3(百万t)								

資料：CONAB「Graos」（2025.5.15）をもとに農林水産省にて作成

< アルゼンチン > 2025/26 年度の生産量は、前年度から 6.0%増加する見込み

【生育・生産状況】USDA によれば、2025/26 年度の生産量は、前年度と比べ 6.0%増、過去 5 年平均（49.0 百万トン）から 8.2%増の 53.0 百万トンとなる見込み。前年度は病害虫のヨコバイによる被害が生産者の作付け意欲に負の影響を及ぼしたが、同「World Agricultural Production」（2025.5.12）によれば、前年度のヨコバイによる被害は想定を下回り、2025/26 年度は作付面積が回復する見込み。

なお、USDAによれば、2024/25 年度の実生産量は、前月予測からの変更はなく、2023/24 年度より 2.0%減の 50.0 百万トンの見込み。

アルゼンチン農牧漁業庁（SAGyP）の月報（2025.4.16、2025.5.15）によれば、早植えとうもろこしは 1 月の高温と干ばつにより単収が低かったものの、遅植えとうもろこしは開花期の降雨により、作柄が改善した。5 月 15 日現在のとうもろこしの収穫進捗率は 37%で、前年同期（34%）を上回っている。

【需要状況】USDA によれば、2025/26 年度の消費量は、飼料用消費の増加を受け、前年度から 6.8%増の 15.6 百万トンの見込み。

【貿易情報・その他】USDA によれば、2025/26 年度の輸出量は、生産量の増加を受けて、前年度より 4.2%増の 37.0 百万トンの見込み。

アルゼンチン国家統計局によれば、2025 年 3 ～ 4 月の輸出量は 670.5 万トンで、前年同期（797.8 万トン）比べ 16.0%減。国別には、ベトナム 122.0 万トン（18.2%）、ペルー89.3 万トン（13.3%）、アルジェリア 67.8 万トン（10.1%）の順となっている。

アルゼンチン政府は、2024 年 5 月に、市場に対する規制改革の一環として、小麦及びとうもろこしの輸出上限数量の撤廃を決定した。また、アルゼンチン政府は、財政赤字の補填等のため、2019 年 12 月 14 日、輸出税を約 7 %から 12 %へ引き上げ、これを継続していたが、2025 年 1 月 25 日、1 月 27 日～ 6 月 30 日まで一時的にとうもろこしの輸出税を 9.5 %に引き下げると発表した。

とうもろこしーアルゼンチン

（早植えとうもろこしは、概ね 9 月後半～12 月前半に作付けされ、遅植えとうもろこしは、概ね 12 月前半～翌年 2 月前半に作付けされる。概ね 3 ～ 8 月に収穫される。）

(単位：百万トン)						
年 度	2023/24	2024/25 (見込み)	2025/26 (26年3月～27年2月)			
			予測値、() はIGC	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)	
生 産 量	51.0	50.0	53.0 (59.1)	-	6.0	
消 費 量	14.6	14.6	15.6 (20.9)	-	6.8	
うち飼料用	10.4	10.2	11.2 (15.9)	-	9.8	
輸 出 量	36.3	35.5	37.0 (38.0)	-	4.2	
輸 入 量	0.0	0.0	0.0 (0.0)	-	-	
期末在庫量	2.5	2.4	2.8 (1.6)	-	17.2	
期末在庫率	4.9%	4.8%	5.3% (2.7%)	-	0.6	
(参考)						
収穫面積(百万ha)	7.78	6.40	7.50 (8.22)	-	17.2	
単収(t/ha)	6.56	7.81	7.07 (7.20)	-	▲ 9.5	

資料：USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「World Agricultural Production」(12 May 2025)、
IGC「Grain Market Report」(17 April 2025)

図 アルゼンチン産とうもろこしの生産量、単収の推移

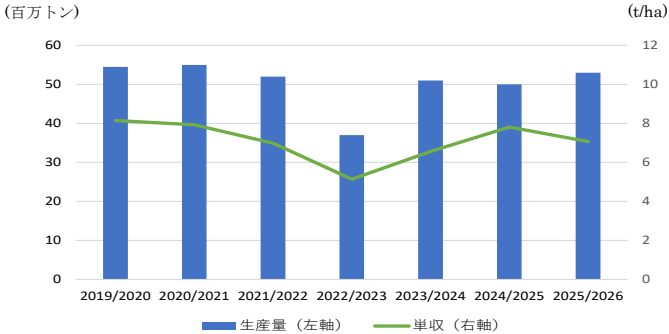


表 アルゼンチンのとうもろこし輸出量と輸出先国

2023/24年度 (2024年 3 月～2025年 2 月)			2023/24年度 (2024年 3 月～2024年 4 月)			2024/25年度 (2025年 3 月～2025年 4 月)		
国名	輸出量	シェア	国名	輸出量	シェア	国名	輸出量	シェア
ベトナム	667.8	18.4	ベトナム	143.7	18.0	ベトナム	122.0	18.2
ペルー	433.1	11.9	韓国	89.5	11.2	ペルー	89.3	13.3
マレーシア	333.6	9.2	マレーシア	75.4	9.5	アルジェリア	67.8	10.1
韓国	282.2	7.8	ペルー	73.9	9.3	マレーシア	65.0	9.7
アルジェリア	280.1	7.7	サウジアラビア	66.1	8.3	サウジアラビア	58.8	8.8
その他	1,628.2	44.9	その他	349.1	43.8	その他	267.7	39.9
合計	3,624.9	100.0	合計	797.8	100.0	合計	670.5	100.0

資料：アルゼンチン国家統計局（INDEC）をもとに農林水産省にて作成

＜ ウクライナ ＞ 2025/26 年度の生産量は、前年度から 13.8%増加する見込み

【生育・生産状況】USDA によれば、2025/26 年度の実産量は、単収の回復と収穫面積の増加を受けて、高温乾燥等の影響により生産量が減少した前年度から 13.8%増となるものの、ロシアの侵攻前の過去 5 年平均（2017/18～2021/22 年度、33.6 百万トン）と比べ 9.4%減の 30.5 百万トンとなる見込み。

ウクライナ農業政策食料省によれば、5 月 8 日現在、とうもろこしの作付進捗率は 73%で、作付けが早かった圃場では出芽がみられる。

【需要状況】USDA によれば、2025/26 年度の消費量は、飼料用消費の増加により、前年度から 21.0%増の 6.2 百万トンの見込み。

【貿易情報・その他】USDA によれば、2025/26 年度の輸出量は、生産量の回復を受けて、前年度から 9.1%増の 24.0 百万トンとなり、同「Grain: World Markets and Trade」（2025.5.12）によれば、EU 向け輸出が緩やかに増加し、引き続き EU 最大の供給国になる見込み。

ウクライナ税関庁によれば、2024/25 年度のうち 2024 年 10 月～2025 年 4 月の輸出量は 1,569.9 万トンと、前年同期（2,022.0 万トン）より 22.4%減。輸出先国は、トルコ 347.9 万トン（22.2%）、スペイン 231.9 万トン（14.8%）、イタリア 228.1 万トン（14.5%）の順。トルコのシェアが大きく増加する一方、中国は輸入量の大幅な減少に伴いシェアが減少している。なお、2024 年 10 月～12 月の輸出量は 708.3 万トンと前年同期比で 2.1%増の一方、2025 年 1 月～4 月の輸出量は 861.7 万トンと前年同期比で 35.1%減となっており、年度当初に比べ輸出のペースは緩やかとなっている。

USDA によれば、2025/26 年度の期末在庫量は、生産量の増加により、前年度から 93.5%増となるものの、ロシアの侵攻前の 5 か年平均（2.5 百万トン）からは 76.3%減の 0.6 百万トンの見込み。2025/26 年度の期末在庫率は、前年度から 0.8 ポイント増の 2.0%となる見込み。

とうもろこしーウクライナ

（概ね 4～5 月に作付けされ、8 月～11 月に収穫される。）

（単位：百万トン）

年 度	2023/24	2024/25 (見込み)	2025/26（25年10月～26年9月）			
			予測値、（ ）は IGC	前月予測 からの変更	対前年度 増減率（%）	
生 産 量	32.5	26.8	30.5 (30.0)	-	13.8	
消 費 量	5.4	5.2	6.2 (4.7)	-	21.0	
うち飼料用	4.5	4.2	5.3 (3.3)	-	26.2	
輸 出 量	29.5	22.0	24.0 (25.2)	-	9.1	
輸 入 量	0.0	0.0	0.0 (0.0)	-	▲ 50.0	
期末在庫量	0.6	0.3	0.6 (1.0)	-	93.5	
期末在庫率	1.8%	1.1%	2.0% (3.2%)	-	0.8	
（参考）						
収穫面積(百万ha)	4.20	4.10	4.20 (4.19)	-	2.4	
単収(t/ha)	7.74	6.54	7.26 (7.16)	-	11.0	

資料：USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「World Agricultural Production」(12 May 2025)
IGC 「Grain Market Report」(17 April 2025)

表 ウクライナのとうもろこし輸出量と輸出先国

（輸出量：万トン、シェア：％）

2023/24年度 (2023年10月～2024年9月)			2023/24年度 (2023年10月～2024年4月)			2024/25年度 (2024年10月～2025年4月)		
国名	輸出量	シェア	国名	輸出量	シェア	国名	輸出量	シェア
スペイン	617.4	21.0	スペイン	465.4	23.0	トルコ	347.9	22.2
中国	461.9	15.7	中国	367.4	18.2	スペイン	231.9	14.8
エジプト	361.9	12.3	エジプト	259.2	12.8	イタリア	228.1	14.5
オランダ	277.7	9.4	イタリア	158.4	7.8	オランダ	166.4	10.6
イタリア	253.0	8.6	トルコ	147.9	7.3	エジプト	152.5	9.7
その他	975.1	33.1	その他	623.7	30.8	その他	443.1	28.2
合計	2,947.0	100.0	合計	2,022.0	100.0	合計	1,569.9	100.0

資料：APK-Inform Agency のデータをもとに農林水産省にて作成

写真 ドニプロペトロウスク州の
とうもろこしの圃場風景
(2025 年 5 月 6 日撮影)

当圃場のとうもろこしは5月上旬に作付けが完了。天候不順により土壌の温度が上がらず、作付けの開始が数週間遅延した。作付面積はほぼ昨年並み。



< 中国 > 2025/26 年度の生産量は、前年度から 0.03%増加する見込み

【生育・生産状況】USDA によれば、2025/26 年度の実産量は、単収の増加を受けて、前年度から 0.03%増、過去 5 年平均（278.8 万トン）から 5.8%増の 295.0 百万トンとなり、史上最高を更新する見込み。

中国中央気象台「全国春耕春播気象サービス報告」（2025.5.16）によれば、5 月中旬現在、春とうもろこしは、80%以上の作付けが完了し、とうもろこしの主産地である東北部においては、作付期から七葉期の段階となっている。

【需要状況】USDA によれば、2025/26 年度の消費量は、飼料用需要の増加を受け、前年度より 1.6%増の 321.0 百万トンと史上最高の見込み。ただし、国内の食肉需要は堅調なものの、伸びが鈍化しており、中国国家統計局（2025.1.17）によれば、2024 年の食肉生産量は 9,663 万トンと、前年比で 0.2%増。

【貿易情報・その他】USDA によれば、2025/26 年度の輸入量は、期首在庫の減少と消費量の増加により大幅に輸入量が減少した前年度から 25.0%増の 10.0 百万トンとなる見込み。

中国海関統計によれば、2024 年 10 月～2025 年 3 月の輸入量は、前年同期比 93.8%減の 114.7 万トンの見込み。国別には、ブラジル 57.6 万トン（50.2%）、ウクライナ 19.4 万トン（16.9%）、ミャンマー17.7 万トン（15.5%）の順となっている。

中国国務院関税税則委員会は、4 月 12 日以降、米国のとうもろこしに対して計 140%の追加関税を課していたが、その後の米中共同声明を受け、5 月 14 日から、計 25%の追加関税を課することとなった（詳細は P.8 小麦－中国を参照）。

中国農業農村部「農産品供需形勢分析月報 2025 年 3 月号」によれば、3 月の国内価格は、飼料用需要の増加等を受けて 2,260 元/トンと、前月（2,240 元/トン）から上昇した。

USDA によれば、2025/26 年度の期末在庫量は、消費量の増加を受け、前年度より 8.1%減の 182.2 百万トンの見込み。

とうもろこし－中国

（春とうもろこしは、概ね 2～4 月に作付けされ、7～9 月に収穫される。
夏とうもろこしは、概ね 4～6 月に作付けされ、9～10 月に収穫される。）

年 度	2023/24	2024/25 (見込み)	2025/26（25年10月～26年9月）			
			予測値、() はIGC	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)	
生 産 量	288.8	294.9	295.0 (299.5)	-	0.03	
消 費 量	307.0	316.0	321.0 (316.2)	-	1.6	
うち飼料用	225.0	234.0	239.0 (214.0)	-	2.1	
輸 出 量	0.0	0.0	0.0 (0.1)	-	-	
輸 入 量	23.4	8.0	10.0 (8.0)	-	25.0	
期末在庫量	211.3	198.2	182.2 (175.4)	-	▲ 8.1	
期末在庫率	68.8%	62.7%	56.7% (55.5%)	-	▲ 6.0	
(参考)						
収穫面積(百万ha)	44.22	44.74	44.30 (44.90)	-	▲ 1.0	
単収(t/ha)	6.53	6.59	6.66 (6.67)	-	1.1	

資料：USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「World Agricultural Production」(12 May 2025)、
IGC 「Grain Market Report」(17 April 2025)

図 中国産とうもろこしの生産量、単収の推移

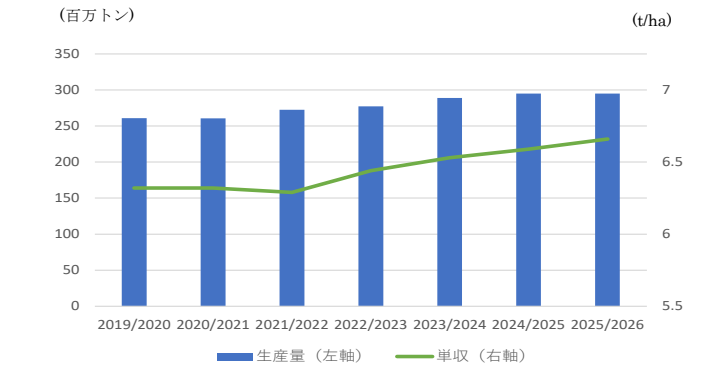


表 中国のとうもろこし輸入量と輸入先国

(輸入量：万トン、シェア：%)								
2023/24 年度 (2023年10月～2024年 9 月)			2023/24年度 (2023年10月～2024年 3 月)			2024/25年度 (2024年10月～2025年 3 月)		
国名	輸入量	シェア	国名	輸入量	シェア	国名	輸入量	シェア
ブラジル	1,502.3	64.4	ブラジル	1,431.6	77.7	ブラジル	57.6	50.2
ウクライナ	456.5	19.6	米国	181.1	9.8	ウクライナ	19.4	16.9
米国	298.8	12.8	ウクライナ	167.9	9.1	ミャンマー	17.7	15.5
ミャンマー	19.8	0.8	ミャンマー	17.3	0.9	ロシア	9.8	8.6
ブルガリア	18.2	0.8	ブルガリア	15.2	0.8	ラオス	6.2	5.4
ロシア	15.6	0.7	南アフリカ	11.2	0.6	米国	2.2	1.9
その他	21.8	0.9	その他	19.1	1.0	その他	1.8	1.6
計	2,332.9	100.0	計	1,843.3	100.0	計	114.7	100.0

資料：中国海関統計をもとに農林水産省にて作成

3 コメ

(1) 国際的なコメ需給の概要（詳細は右表を参照）

<USDA の見通し> 2025/26 年度

生産量 前年度比 ↑ 前月比 —

・インドネシア、ベトナム、ブラジル等で減少するも、インド、中国、バングラデシュ等で増加し、史上最高の見込み。

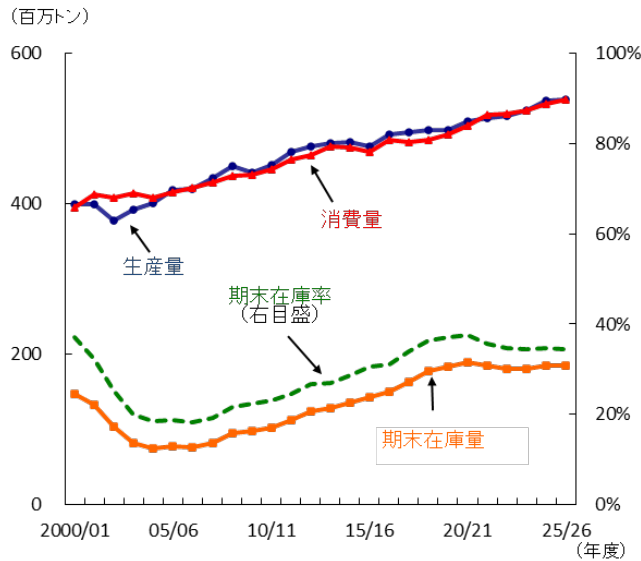
消費量 前年度比 ↑ 前月比 —

・インドネシア等で減少するも、インド、バングラデシュ、フィリピン等で増加し、史上最高の見込み。

輸出量 前年度比 ↓ 前月比 —

・タイ、カンボジア等で増加するも、インド、パキスタン等で減少し、前年度を下回る見込み。

期末在庫量 前年度比 ↓ 前月比 —



資料：USDA「PS&D」(2025. 5. 12)をもとに農林水産省にて作成

◎世界のコメ需給

(単位：百万精米トン)

年 度	2023/24	2024/25 (見込み)	2025/26		
			予測値	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	523.7	537.7	538.7	—	0.2
消費量	524.5	532.6	538.8	—	1.2
輸出量	56.8	61.4	60.8	—	▲ 1.0
輸入量	53.4	57.4	58.6	—	2.1
期末在庫量	180.0	185.1	185.1	—	▲ 0.02
期末在庫率	34.3%	34.8%	34.4%	—	▲ 0.4

資料：USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」(12 May 2025)

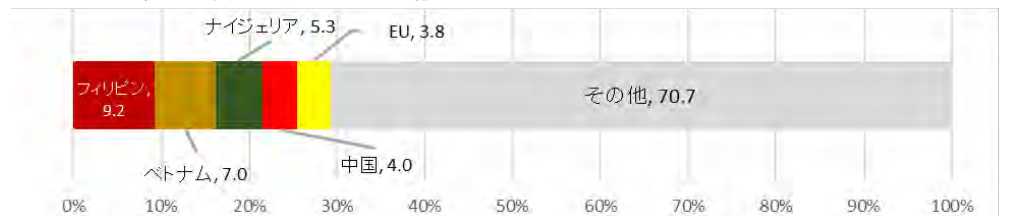
○ 2025/26年度の世界のコメの生産量(538.7百万トン)(単位：%)



○ 2025/26年度の世界のコメの輸出量(60.8百万トン)(単位：%)



○ 2025/26年度の世界のコメの輸入量(58.6百万トン)(単位：%)



（２） 国別のコメの需給動向

< タイ > 2025/26 年度の生産量は、前年度に比べ 0.7%減の見込み

【生育・生産状況】USDA によれば、2025/26 年度の実産量は、収穫面積が前年度から 8 万ヘクタール減少（前年度比 0.7%減）することから、前年度に比べ 0.7%減の 20.4 百万トンの見込み。単収は、過去最高の 2.86 トン/ヘクタールを維持する見込み。

一方、同「Grain and Feed Annual」（2025.4.4）によれば、2025/26 年度の実産量は、乾季米の作付拡大と安定した単収に支えられ、20.7 百万トンの微増と予測している。

タイ農業協同組合農業経済局「農業経済」（2025.4）によれば、2024/25 年度の雨季米（2024 年 5 月～10 月作付け）の作付面積は、前年度（994 万ヘクタール）から僅かに減少し 992 万ヘクタールとなる見込み。各地の農家は、収穫を終えている。2024/25 年度の乾季米（2024 年 11 月～2025 年 4 月作付け）の作付面積は、エルニーニョによる少雨の影響を受けた前年度（163 万ヘクタール）に比べ、雨季中の降雨量が多く、十分な灌漑用水の供給があることから 16%増の 186 万ヘクタールと予測されている。乾季米の栽培が盛んな中部地方を中心に収穫が進んでいる。

アセアン食料安全保障情報システム（2025.4）によれば、乾季米は収穫期を迎え、累積作付面積は 190 万ヘクタールで、政府計画の約 94%に当たる。2024/25 年度の実産量は、3 月に、北部及び中部の一部地域でイネ枯れを引き起こすトビイロウンカが報告されたものの、生育は順調で十分な灌漑用水の供給があることから、前年度に比べ増加する見込み。

【貿易情報・その他】USDA 「Rice Outlook」（2025.5.14）によれば、2025/26 年度の輸出量は、コメ価格の低下及び潤沢な供給量を背景に、前年度から 2.9%増加し、7.2 百万トンの見込み。タイ関税局によれば、2025 年 1～3 月の輸出量は、前年同期比 28%減の 180.5 万トンで、国別には、イラク 30.1 万トン（16.7%）、米国 22.5 万トン（12.5%）、南アフリカ 15.2 万トン（8.4%）の順となっている。政府備蓄の不足に対処するため輸入を拡大していたインドネシア向けの輸出量は、0.22 万トンと大幅に減少し、前年同期比で 97%減となった。

USDA 「Grain and Feed Annual」（2025.4.4）によれば、2025/26 年度の期末在庫量は、政府の大規模備蓄計画を受け、前年度比 18.1%増の 3.9 百万トンの見込み。

コメータイ

夏期の雨季作と冬期の乾季作で行われる。主にインディカ米を栽培。

年 度	2023/24	2024/25 (見込み)	2025/26 (26年 1 月～26年 12 月)		
			予 測 値、() は IGC	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生 産 量	20.0	20.6	20.4 (20.2)	-	▲ 0.7
消 費 量	12.3	12.5	12.7 (12.5)	-	1.2
輸 出 量	9.9	7.0	7.2 (7.6)	-	2.9
輸 入 量	0.1	0.1	0.1 (0.0)	-	-
期末在庫量	2.2	3.3	3.9 (2.8)	-	18.1
期末在庫率	10.0%	17.0%	19.7% (14.0%)	-	2.7
(参考)					
収穫面積(百万ha)	10.65	10.88	10.80 (10.70)	-	▲ 0.7
単収(もみt/ha)	2.85	2.86	2.86 (1.88)	-	-

資料：USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「World Agricultural Production」 (12 May 2025)
IGC 「Grain Market Report」 (17 April 2025) (単収は精米t/ha)

写真 北部チェンライ県メーラオ郡の乾季米の圃場風景



（5月7日撮影）

2 月 19 日に作付けた
もち米 (Hom Nakha)
4 ライ (0.64 ヘクタール)
が収穫期を迎えている。
農家は価格の下落を気にしている。

表 タイのコメの輸出量と輸出先国

（輸出量：万トン、シェア：%）

2023/24年度 (2024年1月～12月)			2023/24年度 (2024年1月～3月)			2024/25年度 (2025年1月～3月)		
国 名	輸出量	シェア	国 名	輸出量	シェア	国 名	輸出量	シェア
インドネシア	133.3	13.4	インドネシア	64.7	25.8	イラク	30.1	16.7
イラク	99.7	10.0	米国	21.9	8.7	米国	22.5	12.5
米国	84.8	8.5	フィリピン	20.9	8.3	南アフリカ	15.2	8.4
南アフリカ	83.3	8.4	イラク	17.5	7.0	中国	11.8	6.6
フィリピン	61.8	6.2	モザンビーク	12.1	4.8	セネガル	9.7	5.4
セネガル	46.2	4.6	セネガル	6.7	2.7	アンゴラ	6.5	3.6
その他	485.4	48.8	その他	106.8	42.6	その他	84.7	46.9
計	994.5	100.0	計	250.6	100.0	計	180.5	100.0

資料：タイ関税局「Electronic Service」をもとに農林水産省で作成

< 米国 > 2025/26 年度の生産量は、前年度に比べ 1.3%減となる見込み

【生育・生産状況】USDAによれば、2025/26年度の生産量は、収穫面積が0.9%減（1.15百万ヘクタール）、単収が0.3%減（8.66トン/ヘクタール）と、前年度比1.3%減の7.0百万トンの見込み。種類別では、長粒種は、南部主要生産州における作付面積の減少により、前年度より3%減の5.3百万トン、中・短粒種は、カリフォルニア州を除く南部生産州の作付面積増を受け1.7百万トンと、前年度より4%増加する見込み。

同「Crop Progress」（2025.5.12）によれば、5月11日現在、主要生産6州の作付進捗率は80%と、前年同期（83%）よりやや遅いものの、過去5年平均（77%）より進捗している。なお、ルイジアナ州及びテキサス州の作付進捗率は、それぞれ96%及び95%と、過去5年平均（92%）を上回り、作付けはほぼ終了している。また、発芽率は64%と、前年同期（68%）よりやや低いが、過去5年平均（54%）は上回っているが、作柄評価は「良から優良」が77%と、前年同期（79%）を下回る。中・短粒種の主要生産州であるカリフォルニア州の作付進捗率は40%と前年同期（29%）より進捗しているが、過去5年平均（52%）を下回る。発芽率は5%と過去5年平均（6%）よりやや低いが、作柄評価は「優良」が100%となっている。

同「Weekly Weather and Crop Bulletin」（2025.5.13）によれば、4月、ミシシッピ・デルタや北東部、南東部では雨天が続き、作物の作付けに遅れが生じたとされている。

【貿易情報・その他】USDA「Rice Outlook」（2025.5.14）によれば、2025/26年度の輸入量は、引き続きタイやインドからの香り米の輸入が続くことが予測され、前年度に比べ2.6%増の1.6百万トンと史上最高の見込み。2025/26年度の輸出量は、前年度比1.0%減の3.0百万トンの見込み。同「Exports Sales Query System」（2025.5）によれば、2024/25年度（2024年8月～2025年4月）の輸出量は228.6万トンで、主な輸出先国は、メキシコ56.3万トン（24.6%）、日本26.6万トン（11.6%）、ハイチ22.1万トン（9.7%）の順。種類別には、長粒種は、輸出量169.1万トンで、主な輸出先国は、メキシコ51.7万トン（国別シェア30.5%）、ハイチ22.1万トン（同13.1%）、ホンジュラス21.2万トン（同12.5%）。中・短粒種は、輸出量59.5万トンで、主な輸出先国は、日本26.6万トン（国別シェア44.7%）、韓国11.4万トン（同19.1%）、ヨルダン6.2万トン（同10.4%）。

2025/26年度の期末在庫量は、輸出量の減少及び輸入量の増加等を受け、前年度に比べ5.6%増加し、1.5百万トンの見込み。

コメー米国

長粒種の生産量が7割を占め、中・短粒種の生産量は3割、その内、長粒種の6割をアーカンソー州が、中・短粒種の7割をカリフォルニア州が占める。

年 度	2023/24	2024/25 (見込み)	2025/26 (25年8月～26年7月)		
			予測値	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	6.9	7.1	7.0	-	▲ 1.3
消費量	4.9	5.4	5.5	-	1.1
輸出量	3.1	3.0	3.0	-	▲ 1.0
輸入量	1.4	1.5	1.6	-	2.6
期末在庫量	1.3	1.4	1.5	-	5.6
期末在庫率	15.8%	17.0%	17.9%	-	0.9
(参考)					
収穫面積(百万ha)	1.16	1.16	1.15	-	▲ 0.9
単収(もみt/ha)	8.56	8.69	8.66	-	▲ 0.3

資料：USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「World Agricultural Production」(12 May 2025)

図 米国ミシシッピ・デルタ、北東部、南東部の降水量

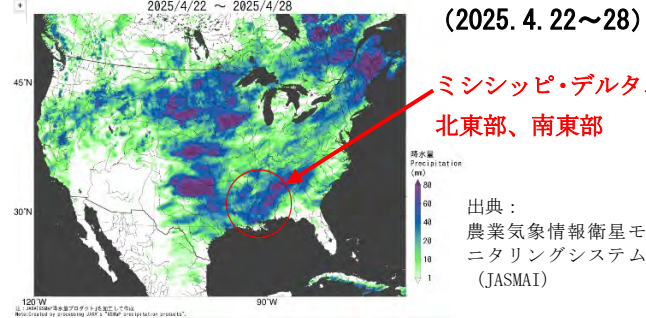


表 米国のコメの輸出量と輸出先国

2023/24年度 (2023年8月～2024年7月)			2023/24年度 (2023年8月～2024年4月)			2024/25年度 (2024年8月～2025年4月)		
国 名	輸出量	シェア	国 名	輸出量	シェア	国 名	輸出量	シェア
メキシコ	93.3	28.0	メキシコ	67.9	27.3	メキシコ	56.3	24.6
ハイチ	36.0	10.8	ハイチ	27.9	11.2	日本	26.6	11.6
日本	29.7	8.9	ベネズエラ	19.6	7.9	ハイチ	22.1	9.7
ベネズエラ	21.7	6.5	日本	19.0	7.7	ホンジュラス	21.2	9.3
ホンジュラス	20.2	6.1	イラク	17.5	7.0	イラク	13.2	5.8
イラク	17.5	5.2	ホンジュラス	14.6	5.9	韓国	11.4	5.0
その他	114.8	34.5	その他	82.1	33.0	その他	77.9	34.1
計	333.2	100.0	計	248.5	100.0	計	228.6	100.0

資料：USDA「Exports Sales Query System」をもとに農林水産省で作成

＜ 中国 ＞ 2025/26 年度の生産量は、前年度に比べ 0.5%増加する見込み

【生育・生産状況】USDA によれば、2025/26 年度の実産量は、農作物の生産性向上との政府計画に沿って、作付面積が安定し単収が向上するとの予測から、前年度比 0.5%増の 146 百万トン（精米ベース）となる見込み。中国政府は、穀物生産を国家戦略上の優先課題とし、単収向上に重点を置いた国内支援プログラムを通じ、国内生産の拡大を継続的に推進している。2024 年の「中央 1 号文件」においても、単収向上への取組みを強調し、今後数年間で、7.1 トン/ヘクタールから約 9 トン/ヘクタールに増加するとしている。

同「Weekly Weather and Crop Bulletin」（2025.5.6）及び（2025.5.13）によれば、中国南部の二期作地域では、作付けが進められており、4 月下旬から 5 月中旬にかけて降雨量が増加したことで、早稲米の順調な生長と灌漑用水の供給に寄与したとされている。

【貿易情報・その他】USDA によれば、2025/26 年度の消費量は、前年度比 0.01%増とほぼ横ばいの 146.0 百万トンとなる見込み。消費量は 2021/22 年度に史上最高の 156.4 百万トンに達したのち、3 年連続で減少している。

2025/26 年度の輸入量は、世界のコメ価格の下落と国内コメ価格の高止まりを要因として、ミャンマー、タイ、ベトナム及び輸出規制を解除したインドといった伝統的なインディカ米供給国からの輸入が増加するとの予測から、前年度比 11.9%増の 2.4 百万トンの見込み。

中国海関統計によれば、2024/25 年度のうち 2024 年 7 月～2025 年 3 月までの輸入量は、141.8 万トンと、前年同期（110.8 万トン）と比べ 28.0%増となっている。国別には、ミャンマー 48.0 万トン（33.9%）、タイ 35.2 万トン（24.8%）、ベトナム 21.1 万トン（14.9%）の順となっている。

USDA 「Rice Outlook」（2025.5.14）によれば、2025/26 年度の輸出量は、価格競争力の高いインドや他のアジア産米との競争と軟調な需要に基づく輸出が継続すると予測されることから、前年度比 5.6%減の 0.9 百万トンの見込み。

2025/26 年度の期末在庫量は、生産量の増加予測を受け、前年度比 1.4%増の 105.0 百万トンの見込み。なお、インドの期末在庫量（42.5 百万トン）と合わせると世界の期末在庫量の約 80%を占める（中国のみでは約 56%）。

コメー中国

中国の主要コメ生産地域は、南部稲作地域（華南、華中、西南高原地域）で、インディカ米とジャポニカ米を栽培。北部稲作地域では、主にジャポニカ米を栽培。

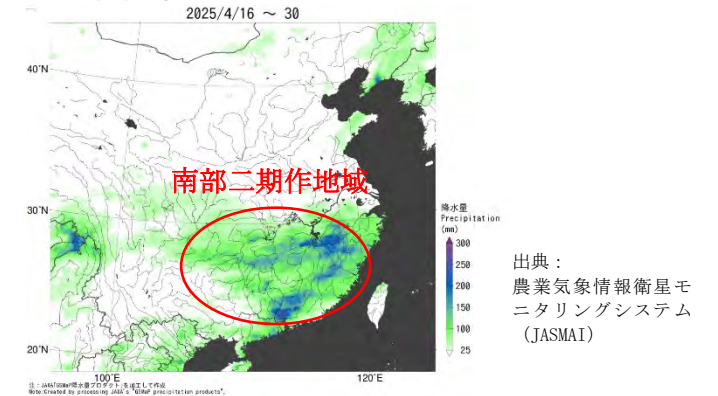
(単位：百万精米トン)						
年 度	2023/24	2024/25 (見込み)	2025/26 (25年 7 月～26年 6 月)			
			予測値、()はIGC	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)	
生 産 量	144.6	145.3	146.0 (146.6)	-	0.5	
消 費 量	148.1	146.0	146.0 (145.4)	-	0.01	
輸 出 量	1.6	0.9	0.9 (1.9)	-	▲ 5.6	
輸 入 量	1.5	2.1	2.4 (2.3)	-	11.9	
期末在庫量	103.0	103.5	105.0 (103.7)	-	1.4	
期末在庫率	68.8%	70.5%	71.5% (70.4%)	-	1.0	
(参考)						
収穫面積(百万ha)	28.95	29.01	29.00 (29.01)	-	▲ 0.03	
単収(もみt/ha)	7.14	7.15	7.19 (5.01)	-	0.6	

資料：USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「World Agricultural Production」 (12 May 2025)
IGC 「Grain Market Report」 (17 April 2025) (単収は精米t/ha)

表 中国のコメの輸入量と輸入先国								
2023/24年度 (2023年7月～2024年6月)			2023/24年度 (2023年7月～2024年3月)			2024/25年度 (2024年7月～2025年3月)		
国名	輸入量	シェア	国名	輸入量	シェア	国名	輸入量	シェア
ベトナム	46.1	30.2	タイ	35.9	32.4	ミャンマー	48.0	33.9
タイ	44.3	29.0	ベトナム	29.4	26.5	タイ	35.2	24.8
ミャンマー	36.4	23.8	ミャンマー	26.7	24.1	ベトナム	21.1	14.9
カンボジア	12.8	8.4	カンボジア	8.0	7.2	インド	15.5	11.0
パキスタン	7.3	4.8	パキスタン	5.2	4.7	パキスタン	13.5	9.5
インド	3.0	2.0	インド	3.0	2.7	カンボジア	4.7	3.3
その他	2.8	1.8	その他	2.5	2.3	その他	3.7	2.6
計	152.7	100	計	110.8	100	計	141.8	100

資料：中国海関統計をもとに農林水産省で作成

図 中国南部地域の降水量（2025. 4. 16～30）



< インド > 2025/26 年度の生産量は、前年度に比べ 0.7%増加する見込み

【生育・生産状況】USDA によれば、2025/26 年度の実産量は、148.0 百万トンと、前年度比で 0.7%増加、過去 5 年平均（134.9 百万トン）と比べ 9.7%増加し、史上最高の見込み。

同「Rice Outlook」（2025.5.14）によれば、10 年連続となる記録的な生産量は、収穫面積が前年度に比べ 50 万ヘクタール減にも関わらず、モンスーンによる平年並みの降雨量が予測され、前年度に比べ 1.9%増の 4.40 もみトン/ヘクタールという史上最高の単収が要因。中国を抜き、世界最大のコメ生産国となった。インド農業・農民福祉省によると、2024/25 年度のカリフ米の実産量は、120.7 百万トンと前年度（111.5 百万トン）と比べ 8.3%増加し、史上最高の見込み。ラビ米の実産量は、15 百万トンと予測され、前年度（12.36 百万トン）と比べ 27.5%増。

【貿易情報・その他】USDA によれば、2025/26 年度の消費量は、前年度比 3.3%増の 125.0 百万トンとなる見込み。同「Rice Outlook」（2025.5.14）によれば、世界第 2 位のコメ消費国であるインドは、大量供給により 4 年連続で消費量増加が見込まれている。その結果、政府は食料安全保障法に基づく公的食料配給制度（PDS）の継続実施が可能となっている。政府は PDS により市場からコメ等を調達し、低所得世帯（8.14 億人以上）に無償又は低価格で配給している。本年度もより多くのコメが国民に供給される見込み。

2025/26 年度の輸出量は、前年度比 2.0%減の 24.0 百万トンの見込み。同「Rice Outlook」（2025.05.14）によれば、インド産コメ価格が他国産米に比べ競争力があり、世界的な安定需要が見込まれることから、世界第 1 位の輸出シェア（39.5%）を維持すると予測されている。

インド輸出入統計によれば、2024 年 4 月～2025 年 2 月の輸出量は 1,813.3 万トンで、国別には、ベナン 210.9 万トン（11.6%）、サウジアラビア 124.4 万トン（6.9%）、コートジボワール 104.6 万トン（5.8%）の順となっている。インド政府は、2022 年 9 月 9 日以降、砕米の輸出禁止や輸出関税・最低輸出価格の設定等の措置を発動・強化してきたが、史上最高の増産予測及び農家・輸出者からの要請を受け、2024 年 9 月に、バスマティ米の最低輸出価格の撤廃、粳米、玄米、パーボイルド米の輸出関税の引き下げ、10 月に非バスマティ米の輸出禁止措置の撤廃を発表し、更に 2025 年 3 月 7 日に、砕米の輸出再開を発表した。

USDA「Grain and Feed Annual」（2025.4.2）によれば、2025/26 年度の期末在庫量は 42.5 百万トンと、政府備蓄米放出等により、前年度に比べ 2.3%減少するものの、政府が望む在庫水準（13.58 百万トン）を大幅に上回る見込み。

インド食品公社（Food Cooperation India）によれば、2025 年 4 月時点の期末在庫量は、38.21 百万トン（精米）と前年同期比で 26.7%増の見込み。

コメーインド

カリフ米：雨季/モンスーン期（5～10 月）に栽培。ラビ米：冬季の 11 月～翌 3 月に栽培。夏季米：3～6 月に栽培。

（単位：百万精米トン）						
年 度	2023/24	2024/25 （見込み）	2025/26（25年10月～26年9月）			
			予測値、（）は IGC		前月予測 からの変更	対前年度 増減率（%）
生 産 量	137.8	147.0	148.0	(148.0)	-	0.7
消 費 量	116.4	121.0	125.0	(124.2)	-	3.3
輸 出 量	14.4	24.5	24.0	(23.5)	-	▲ 2.0
輸 入 量	0.0	0.0	0.0	(0.0)	-	-
期末在庫量	42.0	43.5	42.5	(45.0)	-	▲ 2.3
期末在庫率	32.1%	29.9%	28.5%	(30.4%)	-	▲ 1.4
（参考）						
収穫面積（百万ha）	47.83	51.00	50.50	(50.75)	-	▲ 1.0
単収（もみt/ha）	4.32	4.32	4.40	(2.89)	-	1.9

資料：USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「World Agricultural Production」（12 May 2025）
IGC「Grain Market Report」（17 April 2025）（単収は精米t/ha）

表 インドのコメの輸出量と輸出先国

（輸出量：万トン、シェア：%）

2022/23年度 （2022年4月～2023年2月）			2023/24年度 （2023年4月～2024年2月）			2024/25年度 （2024年4月～2025年2月）		
国 名	輸出量	シェア	国 名	輸出量	シェア	国 名	輸出量	シェア
中国	147.6	7.3	ベナン	114.0	7.7	ベナン	210.9	11.6
ベナン	139.1	6.9	サウジアラビア	112.7	7.6	サウジアラビア	124.4	6.9
コートジボワール	115.0	5.7	ギニア	76.1	5.2	コートジボワール	104.6	5.8
セネガル	113.1	5.6	イラク	73.6	5.0	ギニア	102.2	5.6
サウジアラビア	102.9	5.1	トーゴ	68.1	4.6	トーゴ	85.6	4.7
イラン	100.1	5.0	イラン	65.9	4.5	イラク	82.6	4.6
その他	1,301.7	64.5	その他	965.8	65.4	その他	1,102.9	60.8
計	2,019.7	100.0	計	1,476.1	100.0	計	1,813.3	100.0

資料：インド農業・加工食品輸出振興局（APEEDA）「Agri Xchange」をもとに農林水産省で作成

< ベトナム > 2025/26 年度の生産量は、前年度に比べ 2.4%減少する見込み

【生育・生産状況】USDAによれば、2025/26年度の生産量は、継続的な収穫面積の縮小及び単収の減少により、26.3百万トンと前年度を2.4%下回り、2年連続で減少となる見込み。2016/17年度以降、南部沿岸地域における海水の浸潤やメコン川の水flow減少、肥料価格の高騰、高収益作物等（果物・野菜・養殖）へのシフト等から、収穫面積は近年減少傾向にあり、2025/26年度は6.90百万ヘクタールと前年度に比べ1.4%減少する見込み。

ベトナム総統計局（2025.5.6）によれば、4月20日現在、2024/25年度の乾季米（冬春作）は、全国で296.80万ヘクタールが作付けされ、前年度に比べ1.57万ヘクタール増加した。そのうち、南部（メコンデルタ地域を含む）は、作付面積が191.68万ヘクタールで、前年度に比べ2.36万ヘクタール増。収穫面積は164.40万ヘクタールに達し、作付面積の85.0%を占める。

アセアン食料安全保障情報システム（2025.4）によれば、北部の乾季米（冬春作）は、分けつ期と幼穂形成期にあり、良好な天候と灌漑設備の改善により単収は増加すると予測されている。メコンデルタ地域では、乾季米（冬春作）の収穫期を迎え、単収は7.2トン/ヘクタールに達し、前年同期に比べ0.1トン/ヘクタール増となっている。同地域では、安定した天候の下、雨季米（夏秋作）の作付けも開始されている。

【貿易情報・その他】USDA「Rice Outlook」（2025.5.14）によれば、2025/26年度の輸入量は、カンボジアからの粳米（国内精米用）の大量輸入の継続から、前年度に比べ2.5%増の4.1百万トンと、過去最高となる見込み。

2025/26年度の輸出量は、世界第1位のコメ輸出国であるインドとの競争激化が予測されるものの、前年度からの変更はなく7.9百万トンとなる見込み。タイを抜き、世界第2位のコメ輸出国となっている。ベトナム税関総局によれば、2025年1月～4月の輸出量は342.8万トンと、前年同期（320.2万トン）に比べ7.1%増加。主な輸出先国は、フィリピン148.8万トン（43.4%）、コートジボワール44.0万トン（12.8%）、中国36.2万トン（10.5%）の順。USDA「Grain: World Markets and Trade」（2025.5.12）によれば、ベトナム産米（長粒種、5%碎米混入）の5月9日までの週の価格は、中国の旺盛な需要を反映し、前月4月9日までの週から5ドル/トン上昇し、399ドル/トンとなった。

コメベトナム

北部で二期作、南部で二期作・三期作。主に長粒種、一部で短粒種も栽培。

年 度	2023/24	2024/25 (見込み)	2025/26 (26年 1月～26年12月)			
			予測値、()はIGC		前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
			予測値、()	IGC		
生 産 量	27.2	27.0	26.3	(28.6)	-	▲ 2.4
消 費 量	22.5	22.7	22.8	(23.0)	-	0.4
輸 出 量	9.0	7.9	7.9	(7.8)	-	-
輸 入 量	3.7	4.0	4.1	(2.6)	-	2.5
期末在庫量	3.0	3.4	3.1	(2.6)	-	▲ 7.4
期末在庫率	9.5%	11.1%	10.2%	(8.6%)	-	▲ 0.9
(参考)						
収穫面積(百万ha)	7.11	7.00	6.90	(7.12)	-	▲ 1.4
単収(もみt/ha)	6.12	6.16	6.10	(3.96)	-	▲ 1.0

資料：USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「World Agricultural Production」(12 May 2025)
IGC「Grain Market Report」(17 April 2025)（単収は精米t/ha）

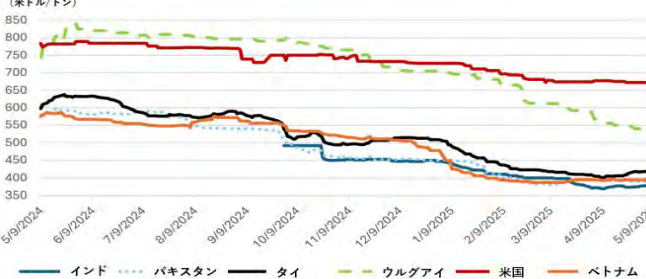
表 ベトナムのコメの輸出量と輸出先国 (輸出量: 万トン, シェア: %)

2023/24年度 (2024年1月～12月)			2023/24年度 (2024年1月～4月)			2024/25年度 (2025年1月～4月)		
国 名	輸出量	シェア	国 名	輸出量	シェア	国 名	輸出量	シェア
フィリピン	422.1	46.6	フィリピン	149.0	46.5	フィリピン	148.8	43.4
インドネシア	125.7	13.9	インドネシア	54.9	17.1	コートジボワール	44.0	12.8
マレーシア	71.9	7.9	マレーシア	20.2	6.3	中国	36.2	10.5
ガーナ	61.3	6.8	中国	16.9	5.3	ガーナ	30.4	8.9
コートジボワール	48.3	5.3	ガーナ	15.6	4.9	マレーシア	13.5	3.9
中国	28.5	3.1	コートジボワール	11.9	3.7	バングラデシュ	10.5	3.1
その他	148.9	16.4	その他	51.6	16.1	その他	59.3	17.3
計	906.8	100.0	計	320.2	100.0	計	342.8	100.0

資料：ベトナム税関総局「月別主要輸出統計データ」をもとに農林水産省で作成

図 長粒種の FOB 価格の推移

(2024年5月9日～2025年5月9日)



資料：USDA「Grain: World Markets and Trade」(2025.5.12) より

Ⅱ 油糧種子 大豆

(1) 国際的な大豆需給の概要（詳細は右表を参照）

<USDA の見通し> 2025/26 年度

生産量 前年度比 前月比

・米国、カナダ、アルゼンチン等で減少するも、ブラジル、パラグアイ、ロシア等で増加し、史上最高の見込み。

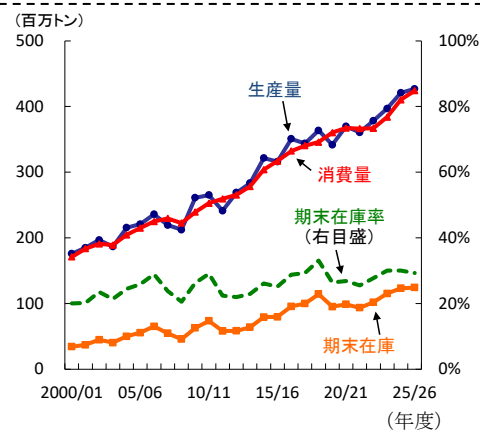
消費量 前年度比 前月比

・ウクライナ、南アフリカ、アラブ首長国連邦等で減少するも、中国、米国、ブラジル等で増加し、史上最高の見込み。

輸出量 前年度比 前月比

・米国、カナダ、ウルグアイ等で減少するも、ブラジル、パラグアイ、アルゼンチン等で増加し、史上最高の見込み。

期末在庫量 前年度比 前月比



資料：USDA「PS&D」(2025.5.12) をもとに農林水産省で作成

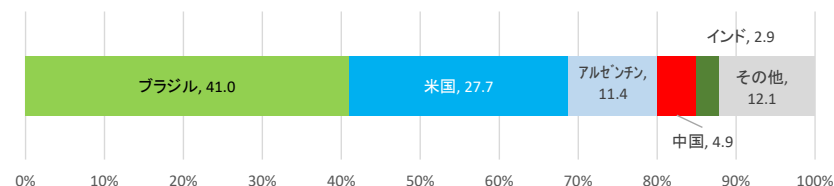
◎ 世界の大豆需給

(単位：百万トン)

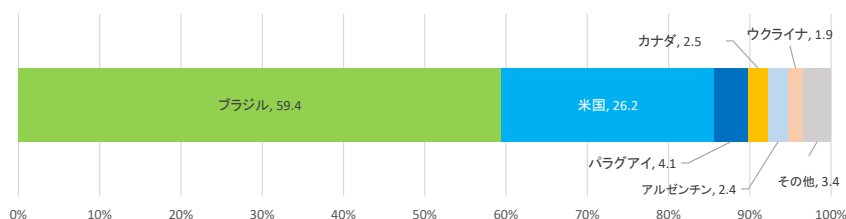
年 度	2023/24	2024/25 (見込み)	2025/26		
			予測値	前月予測から の変更	対前年度 増減率(%)
生産量	396.9	420.9	426.8	-	1.4
消費量	383.9	410.3	424.1	-	3.4
うち搾油用	331.0	354.2	366.5	-	3.5
輸出量	177.7	180.9	188.4	-	4.2
輸入量	178.1	178.2	186.8	-	4.9
期末在庫量	115.3	123.2	124.3	-	0.9
期末在庫率	30.0%	30.0%	29.3%	-	▲ 0.7

資料：USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」(12 May 2025)

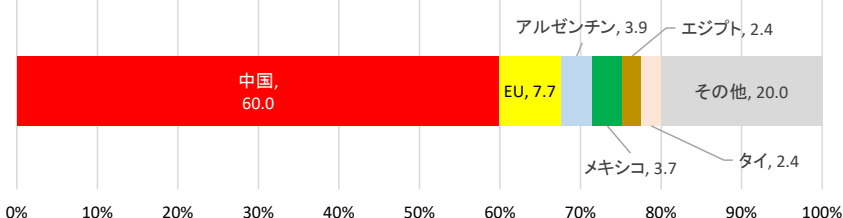
○ 2025/26 年度の世界の大豆の生産量(426.8 百万トン) (単位：%)



○ 2025/26 年度の世界の大豆の輸出量(188.4 百万トン) (単位：%)



○ 2025/26 年度の世界の大豆の輸入量(186.8 百万トン) (単位：%)



(2) 国別の大豆の需給動向

< 米国 > 2025/26 年度の生産量は前年度から 0.6%減の見込み

【生育・生産状況】USDA によれば、2025/26 年度の実産量は、収穫面積の減少を受け、前年度より 0.6%減の 118.1 百万トンの見込み。現在の価格相場はとうもろこしの作付けに有利であるため、多くの農家が大豆からとうもろこしの作付けに切り替えるとみられる。

同「Crop Progress」(2025.5.12)によれば、5月11日現在、作付進捗率は 48%で前年同期(34%)及び過去 5 年平均(37%)を上回っている。また出芽進捗率は 17%と、前年同期(15%)及び過去 5 年平均(11%)を上回っている。

【需要状況】USDA によれば、2025/26 年度の消費量は、搾油用需要の増加を受け、前年度より 2.6%増の 70.8 百万トンと史上最高の見込み。これは、近年のバイオ燃料の国内需要の増加に伴い、搾油工場の建設計画が発表されていることによる。なお、2025/26 年度の大豆油由来のバイオ燃料の国内消費量は、2024/25 年度から 6 %増のおよそ 6.3 百万トンに増加する見込み。

【貿易情報・その他】USDA によれば、2025/26 年度の輸出量は、生産量の増加が見込まれる南米と競合することを受け、前年度より 1.9%減の 49.4 百万トンの見込み。

同「Global Agricultural Trade System」によれば、2024/25 年度のうち 2024 年 9 月～2025 年 4 月の輸出量は 4,346.2 万トンと、前年同期の 3,905.1 万トンより 11.3%増。国別には、中国 2226.0 万トン(51.2%)、メキシコ 349.9 万トン(8.1%)、エジプト 260.7 万トン(6.0%)の順となっている。

USDA によれば、2025/26 年度の期末在庫量は、搾油用消費の増加等を受けて、前年度より 15.7%減の 8.0 百万トンと、過去 5 年平均(8.1 百万トン)を下回る見込み。期末在庫率は、前年度より 1.3 ポイント減の 6.7%となる見込み。

大豆－米国

(概ね 5～6 月に作付けされ、9～11 月に収穫される。)

(単位: 百万トン)

年 度	2023/24	2024/25 (見込み)	2025/26 (25年 9月～26年 8月)		
			予測値	前月予測からの 変更	対前年度 増減率(%)
生 産 量	113.3	118.8	118.1	-	▲ 0.6
消 費 量	65.6	69.0	70.8	-	2.6
うち搾油用	62.2	65.9	67.8	-	2.9
輸 出 量	46.1	50.4	49.4	-	▲ 1.9
輸 入 量	0.6	0.7	0.5	-	▲ 20.6
期末在庫量	9.3	9.5	8.0	-	▲ 15.7
期末在庫率	8.3%	8.0%	6.7%	-	▲ 1.3
(参考)					
収穫面積(百万ha)	33.29	34.82	33.47	-	▲ 3.9
単収(t/ha)	3.40	3.41	3.53	-	3.5

資料: USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「World Agricultural Production」(12 May 2025)

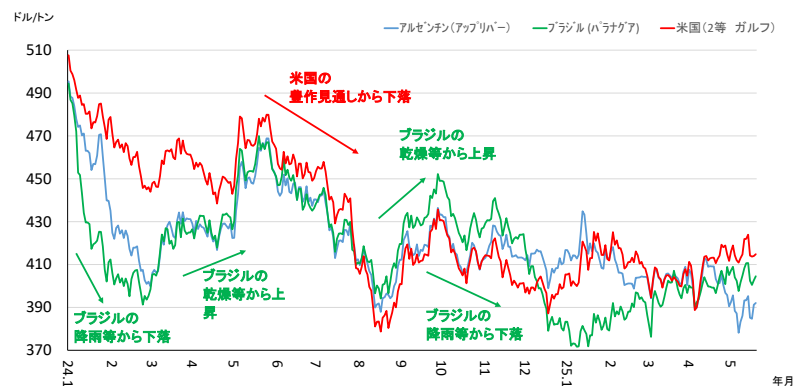
表 米国産大豆の輸出量と輸出先国

(輸出量: 万トン、シェア: %)

2023/24年度 (2023年 9月～2024年 8月)			2023/24年度 (2023年 9月～2024年 4月)			2024/25年度 (2024年 9月～2025年 4月)		
国名	輸出量	シェア	国名	輸出量	シェア	国名	輸出量	シェア
中国	2,455.2	54.8	中国	2,389.1	61.2	中国	2,226.0	51.2
メキシコ	461.0	10.3	メキシコ	344.0	8.8	メキシコ	349.9	8.1
ドイツ	251.3	5.6	ドイツ	159.2	4.1	エジプト	260.7	6.0
インドネシア	227.9	5.1	イタリア	149.6	3.8	ドイツ	207.9	4.8
日本	188.4	4.2	日本	147.4	3.8	イタリア	195.7	4.5
その他	897.2	20.0	その他	715.9	18.3	その他	1,106.0	25.4
合計	4,480.9	100.0	合計	3,905.1	100.0	合計	4,346.2	100.0

資料: IGC のデータをもとに農林水産省にて作成

図 米国、ブラジル、アルゼンチンの大豆輸出価格 (FOB) の推移



資料: USDA「Global Agricultural Trade System」のデータをもとに農林水産省にて作成

＜ ブラジル ＞ 2025/26 年度の生産量は前年度比 3.6%増の見込み

【生育・生産状況】USDA によれば、2025/26 年度の実産量は、収穫面積が史上最高となることから、前年度より 3.6%増の 175.0 百万トンと史上最高の見込み。

ブラジル食料供給公社（CONAB）の月例報告（2025.5.15）によれば、2024/25 年度の実産量は、とうもろこしから収益性が高い大豆に作付けがシフトしたこと等による作付面積の増加（対前年度比 3.2%）及び単収の増加（同 10.5%）から前年度より 14.0%増の 168.3 百万トンの見込み。5 月第 1 週現在、収穫進捗率は 97.7%に達し、主要生産地では収穫がほぼ完了している。なお、リオ・グランデ・ド・スール州では、収穫進捗率が 92%に達したものの、生育期の干ばつの影響を受けて一部未成熟なものも見られ、単収が減少する見込み。

【需要状況】USDA によれば、2025/26 年度の消費量は、搾油用需要の増加を受けて、前年度より 2.0%増の 62.3 百万トンと史上最高の見込み。

【貿易情報・その他】USDA によれば、2025/26 年度の輸出量は、国内生産量の増加や中国等からの堅調な需要等により、前年度から 7.2%増の 112.0 百万トンと史上最高の見込み。

ブラジル貿易統計によれば、2024/25 年度のうち 2024 年 10 月～2025 年 4 月の輸出量は 4,669.6 万トンと前年度と比べ、9.4%減。国別には、中国 3,476.2 万トン（74.4%）、タイ 194.3 万トン（4.2%）、スペイン 171.0 万トン（3.7%）の順となっている。5 月は大豆収穫の終盤を迎え、輸出最盛期となる。

ブラジル政府は、バイオディーゼル混合基準について、植物油の価格高騰によるインフレ懸念を理由に、2025 年 3 月に予定されていた、現行の 14%から 15%への引上げを延期している。

USDA によれば、2025/26 年度の期末在庫量は、生産量の増加を受けて、前年度より 2.6%増の 34.2 百万トンと、過去 5 年平均（31.3 百万トン）を上回る見込み。期末在庫率は、前年度より 0.5 ポイント減の 19.6%となる見込み。

大豆ーブラジル

（概ね 9～12 月に作付けされ、1～4 月に収穫される。）

（単位：百万トン）

年 度	2023/24	2024/25 (見込み)	2025/26 (25年10月～26年9月)		
			予測値、() は CONAB	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生 産 量	154.5	169.0	175.0 (-)	-	3.6
消 費 量	58.3	61.1	62.3 (-)	-	2.0
うち搾油用	54.4	57.0	58.0 (-)	-	1.8
輸 出 量	104.2	104.5	112.0 (-)	-	7.2
輸 入 量	0.9	0.2	0.2 (-)	-	-
期末在庫量	29.8	33.3	34.2 (-)	-	2.6
期末在庫率	18.3%	20.1%	19.6% (-)	-	▲ 0.5

(参考)					
収穫面積(百万ha)	46.15	47.40	48.80 (-)	-	3.0
単収(t/ha)	3.35	3.57	3.59 (-)	-	0.6

資料：USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「World Agricultural Production」(12 May 2025)
CONAB「Graos」(15 May 2025)

表 ブラジル産大豆の輸出量と輸出先国

（輸出量：万トン、シェア：%）

2023/24年度 (2023年10月～2024年9月)			2023/24年度 (2023年10月～2024年4月)			2024/25年度 (2024年10月～2025年4月)		
国名	輸出量	シェア	国名	輸出量	シェア	国名	輸出量	シェア
中国	7,820.2	75.1	中国	3,843.8	74.6	中国	3,476.2	74.4
スペイン	393.4	3.8	タイ	164.5	3.2	タイ	194.3	4.2
タイ	303.3	2.4	トルコ	133.4	2.6	スペイン	171.0	3.7
トルコ	248.4	2.9	スペイン	126.6	2.5	トルコ	91.0	1.9
イラン	180.5	1.7	イラン	96.4	1.9	イラン	80.8	1.7
その他	1,469.8	14.1	その他	789.0	15.3	その他	656.3	14.1
合計	10,415.6	100.0	合計	5,153.8	100.0	合計	4,669.6	100.0

資料：ブラジル貿易統計のデータを基に農林水産省にて作成

写真：マットグロッソ州大豆倉庫(2025. 4. 26 撮影)



マットグロッソ州カンボ・ノーヴォ・ド・パレシス市の大豆生産者の倉庫の様子。

撮影者：Rafael Rohenkohl

＜ カナダ ＞ 2025/26 年度の生産量は前年度比 4.2%減の見込み（AAFC）

【生育・生産状況】AAFC「Outlook for Principal Field Crops」（2025.5.21）によれば、2025/26 年度の実産量は、前月予測からの変更はなく、収穫面積及び単収が前年度より減少することを受け、前年度（7.6 百万トン）から 4.2%減の 7.3 百万トンの見込み。2025/26 年度の作付面積は、大豆価格の低下を受け、農家が他作物に作付けをシフトさせることが見込まれ、前年度から減少するとみられる。

カナダ統計局「Principal field crop areas, 2025」（2025.3.12）によれば、2025/26 年度の州別の作付意向面積は、マニトバ州では前年度から 14.1%増の 65 万ヘクタールと増加するものの、ケベック州では前年度より 4.9%減の 40 万ヘクタール、オンタリオ州では前年度より 7.8%減の 117 万ヘクタールとなる見込み。

オンタリオ州農業食品省「Crop Conditions – Week of May 12, 2025」（2025.5.12）によれば、主要生産地であるオンタリオ州では、大豆作付面積の 3 分の 1 が作付けされている。

【需要状況】AAFC によれば、2025/26 年度の消費量は、前月予測からの変更はなく、飼料用等の需要の減少により、前年度（2.5 百万トン）から 8.7%減の 2.3 百万トンの見込み。

【貿易情報・その他】AAFC によれば、2025/26 年度の輸出量は、前月予測からの変更はなく、前年度（5.4 百万トン）より 1.0%増の 5.5 百万トンと史上 2 番目の見込み。

カナダ統計局によれば、2024/25 年度のうち 2024 年 8 月～2025 年 3 月の輸出量は 451.8 万トンで、前年同期（414.5 万トン）に比べ 9.0%増。国別には、中国 98.4 万トン（21.8%）、イラン 76.5 万トン（16.9%）、アルジェリア 47.1 万トン（10.4%）の順となっている。

AAFC によれば、2025/26 年度の期末在庫量は、前月予測から 0.1 百万トン下方修正されたものの、前年度（0.6 百万トン）から変更はなく、0.6 百万トンの見込み。

大豆－カナダ

（概ね 5～6 月に作付けされ、9～11 月に収穫される。）（単位：百万トン）

年 度	2023/24	2024/25 (見込み)	2025/26（25年8月～26年7月）		
			予測値、()は AAFC	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生 産 量	7.0	7.6	7.0 (7.3)	-	▲ 7.5
消 費 量	2.3	2.4	2.5 (2.3)	-	4.2
うち搾油用	1.7	1.6	1.7 (1.7)	-	9.7
輸 出 量	4.8	5.3	4.8 (5.5)	-	▲ 9.4
輸 入 量	0.3	0.3	0.4 (0.5)	-	20.0
期末在庫量	0.6	0.7	0.8 (0.6)	-	8.2
期末在庫率	7.9%	9.5%	10.8% (7.2%)	-	1.3

(参考)

収穫面積(百万ha)	2.26	2.29	2.25 (2.28)	-	▲ 1.7
単収(t/ha)	3.09	3.30	3.11 (3.18)	-	▲ 5.8

資料：USDA「PS&D」、
「World Agricultural Production」（12 May 2025）
AAFC「Outlook for Principal Field Crops」（21 May 2025）

図 カナダ直近 3 ヶ年の生産量、単収の推移

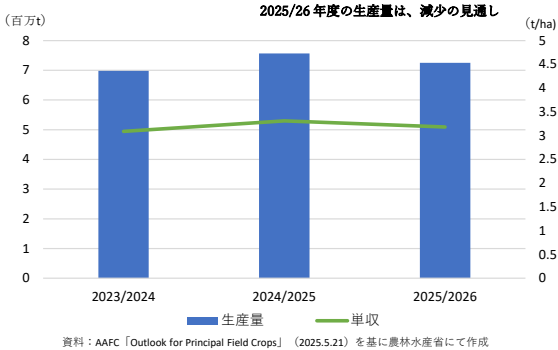


表 カナダ産大豆の輸出量と輸出先国

(輸出量：万トン、シェア：%)

2023/24年度 (2023年8月～2024年7月)			2023/24年度 (2023年8月～2024年3月)			2024/25年度 (2024年8月～2025年3月)		
国名	輸出量	シェア	国名	輸出量	シェア	国名	輸出量	シェア
中国	152.9	31.6	中国	151.2	36.5	中国	98.4	21.8
アルジェリア	58.2	12.0	アルジェリア	54.9	13.2	イラン	76.5	16.9
イラン	52.3	10.8	イラン	52.3	12.6	アルジェリア	47.1	10.4
日本	33.9	7.0	日本	21.3	5.1	米国	27.3	6.0
インドネシア	27.7	5.7	インドネシア	19.6	4.7	バングラデシュ	26.1	5.8
米国	21.7	4.5	イタリア	15.1	3.6	日本	24.2	5.4
その他	136.9	28.3	その他	100.1	24.1	その他	152.2	33.7
合計	483.6	100	合計	414.5	100	合計	451.8	100

資料：カナダ統計局のデータを基に農林水産省にて作成

< 中国 > 2025/26 年度の生産量は前年度比 1.7%増の見込み

【生育・生産状況】USDA によれば、2025/26 年度の生産量は、収穫面積の増加（対前年度比 1.6%増）を受けて前年度より 1.7%増の 21.0 百万トンとなり、史上最高の見込み。なお、例年、5 月は主産地の黒龍江省等で作付期を迎えている。中国中央气象台「全国春耕春播气象服务专报」（2025.5.16）によれば、5 月以降、気温低下及び多雨により、主要生産地の中国東北部の黒龍江省東部及び吉林省東部では、作付進捗が前年度よりおよそ 1 週間遅れている。

【需要状況】USDA によれば、2025/26 年度の消費量は、国内の畜産物の需要増を受けて大豆粕の需要が堅調なことから、前年度より 4.0%増の 133.0 百万トンと史上最高の見込み。ただし、国内の食肉需要は堅調なものの、伸びが鈍化しており、中国国家统计局（2025.1.17）によれば、2024 年の食肉生産量は 9,663 万トンと、前年比で 0.2%増。

【貿易情報・その他】USDA によれば、2025/26 年度の輸入量は、搾油用需要増を受けて、3.7%増の 112.0 百万トンと、2023/24 年度と並び、史上最高の見込み。

中国海関統計によれば、2024/25 年度のうち 2024 年 10 月～2025 年 3 月の輸入量は、前年同期より 2.8%減の 4,029.2 万トン。国別には、米国 1,915.6 万トン（47.5%）、ブラジル 1,695.0 万トン（42.1%）、アルゼンチン 198.1 万トン（4.9%）の順で、米国とブラジルを合わせたシェアがおよそ 9 割となっている。

中国農業農村部「農産品供需形势分析月報 2025 年 3 月号」によれば、搾油工場の収益が良好なことや、大豆の安定した食品需要により 3 月の国内価格は 4,440 元/トンと、前月(4,320 元/トン)から上昇した。

中国国务院関税税則委員会は、4 月 12 日以降、米国の大豆に対して計 135%の追加関税を課していたが、その後の米中共同声明を受け、5 月 14 日から、計 20%の追加関税を課すこととなった（詳細は P.8 小麦－中国を参照）。

USDA によれば、2025/26 年度の期末在庫量は、消費量の増加等を受けて、前年度より 0.2%減の 43.9 百万トンと、過去 5 年平均（34.7 百万トン）を上回り、史上 2 番目の見込み。期末在庫率は、前年度より 1.4 ポイント減の 33.0%となる見込み。

大豆－中国

（概ね 4～6 月に作付けされ、9～10 月に収穫される。）（単位：百万トン）

年 度	2023/24	2024/25 (見込み)	2025/26 (25年10月～26年9月)			
			予測値、()はIGC	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)	
生 産 量	20.8	20.7	21.0 (20.9)	-	1.7	
消 費 量	121.8	127.9	133.0 (131.3)	-	4.0	
うち搾油用	99.0	104.0	108.0 (108.8)	-	3.8	
輸 出 量	0.1	0.1	0.1 (0.1)	-	-	
輸 入 量	112.0	108.0	112.0 (105.8)	-	3.7	
期末在庫量	43.3	44.0	43.9 (43.1)	-	▲ 0.2	
期末在庫率	35.5%	34.3%	33.0% (32.8%)	-	▲ 1.4	
(参考)						
収穫面積(百万ha)	10.47	10.33	10.50 (10.50)	-	1.6	
単収(t/ha)	1.99	2.00	2.00 (1.99)	-	-	

資料：USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「World Agricultural Production」(12 May 2025)
IGC「Grain Market Report」(17 May 2025)

表 中国における大豆の輸入量と輸入先国

2023/24年度 (2023年10月～2024年9月)			2023/24年度 (2023年10月～2024年3月)			2024/25年度 (2024年10月～2025年3月)		
国名	輸入量	シェア	国名	輸入量	シェア	国名	輸入量	シェア
ブラジル	7,732.1	73.8	ブラジル	2,506.9	60.4	米国	1,915.6	47.5
米国	2,091.6	20.0	米国	1,350.7	32.6	ブラジル	1,695.0	42.1
アルゼンチン	267.7	2.6	カナダ	142.4	3.4	アルゼンチン	198.1	4.9
カナダ	151.9	1.5	アルゼンチン	65.7	1.6	ウルグアイ	110.6	2.7
ウルグアイ	102.7	1.0	ロシア	49.6	1.2	カナダ	86.3	2.1
ロシア	79.8	0.8	南アフリカ	14.7	0.4	ロシア	23.4	0.6
その他	48.8	0.5	その他	17.3	0.4	その他	0.2	0.0
合計	10,474.7	100	合計	4,147.4	100	合計	4,029.2	100

資料：中国海関統計のデータを基に農林水産省にて作成

図 中国における大豆の期末在庫量の推移



< アルゼンチン > 2025/26 年度の生産量は前年度比 1.0%減の見込み

【生育・生産状況】USDA によれば、2025/26 年度の実産量は、収穫面積が減少したことを受け、前年度より 1.0%減の 48.5 百万トンの見込み。現在の価格相場はとうもろこしの作付けに有利であるため、多くの農家が大豆からとうもろこしの作付けに切り替えるとみられる。

アルゼンチン農牧漁業庁（SAGyP）の週報（2025.5.15）によれば、5 月上旬、一部主要生産地域では、降雨が続き、既に成熟していた大豆の収穫に遅れが生じていたものの、その後収穫作業が進捗し、5 月 15 日現在、収穫進捗率は 66%と、前年同期（61%）を上回っている。なお、報道（2025.5.19）によると、大豆の主要生産地であるブエノスアイレスにおいて、大雨による洪水が発生し、今後の収穫に遅れが生じるとともに、品質の低下が懸念されている。

【需要状況】USDA によれば、2025/26 年度の消費量は、搾油用需要が増加することから、前年度比 0.8%増の 50.5 百万トンの見込み。

【貿易情報・その他】USDA によれば、2025/26 年度の輸入量は、国内生産量の減少及び搾油用需要の増加に伴い輸入需要が増加することから、前年度より 20.0%増の 7.2 百万トンの見込み。

2025/26 年度の輸出量は、前年度より 7.1%増の 4.5 百万トンとなり、中国向け輸出が引き続き堅調に推移する見通し。

報道（2025.5.8）によると、中国の「中糧集团有限公司（COFCO）」は中国の戦略的食糧備蓄を管理する国有企業「中国儲備糧管理総公司（SINOGRain）」と、アルゼンチンから中国への農産物の供給を拡大し、長期的な協力関係を模索することで合意したと発表した。

アルゼンチン政府は、財政赤字の補填等のため、輸出税を設定している。2021 年 1 月以降、輸出税を大豆に最大 33%、大豆油及び大豆粕に 31%を設定していたが、2025 年 1 月 25 日、1 月 27 日～6 月 30 日まで一時的に大豆を 26%、大豆油及び大豆粕を 24.5%に引き下げると発表した。

USDA によれば、2025/26 年度の期末在庫量は、輸入量の増加を受けて、前年度より 2.8%増の 25.5 百万トンと、過去 5 年平均（22.9 百万トン）を上回る見込み。期末在庫率は前年度より 0.7 ポイント増の 46.3%となる見込み。

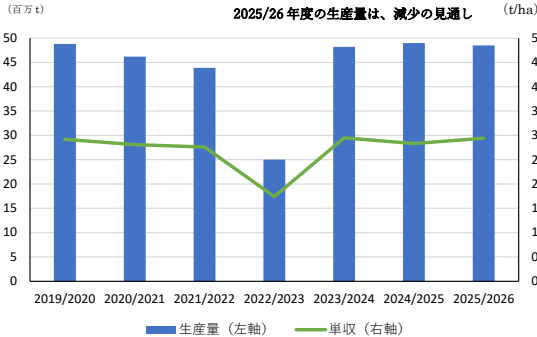
大豆ーアルゼンチン

（早植え大豆は、概ね 10～1 月に作付けされ、3～7 月に収穫され、
遅植え大豆は、概ね 10～1 月に作付けされ、4～7 月に収穫される。）

年 度	2023/24	2024/25 (見込み)	2025/26 (25年10月～26年9月)			
			予測値、()はIGC		前月予測からの変更	
			予測値、()はIGC	前月予測からの変更	対前年度増減率(%)	
生産量	48.2	49.0	48.5 (50.5)	-	▲ 1.0	
消費量	43.8	50.1	50.5 (50.5)	-	0.8	
うち搾油用	36.6	42.6	43.0 (44.0)	-	0.9	
輸 出 量	5.1	4.2	4.5 (4.7)	-	7.1	
輸 入 量	7.8	6.0	7.2 (5.4)	-	20.0	
期末在庫量	24.1	24.8	25.5 (9.7)	-	2.8	
期末在庫率	49.1%	45.6%	46.3% (17.6%)	-	0.7	
(参考)						
収穫面積(百万ha)	16.37	17.30	16.50 (17.55)	-	▲ 4.6	
単収(t/ha)	2.95	2.83	2.94 (2.88)	-	3.9	

資料：USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「World Agricultural Production」(12 May 2025)
IGC「Grain Market Report」(17 April 2025)

図 アルゼンチン産大豆の生産量、単収の推移



資料：USDA「PS&D」(2025.5.12)を基に農林水産省よりにて作成

写真 北部サンタフェ州の大豆圃場風景(2025. 4. 19 撮影)



本圃場の大豆は 10 月中旬に作付けされ、収穫作業が行われている。三粒莢で十分な重量があり、単収も 3.4t/ha を記録した。

撮影者：José Daniel Peloni

(参考1)本レポートに使用されている各国の市場年度について（2025/26年度）

	小麦	とうもろこし	コメ	大豆
米国	25年6月～26年5月	25年9月～26年8月	25年8月～26年7月	25年9月～26年8月
カナダ	25年8月～26年7月			25年8月～26年7月
豪州	25年10月～26年9月		26年3月～27年2月	
EU	25年7月～26年6月	25年10月～26年9月		
中国	25年7月～26年6月	25年10月～26年9月	25年7月～26年6月	25年10月～26年9月
ロシア	25年7月～26年6月	25年10月～26年9月		25年9月～26年8月
ウクライナ	25年7月～26年6月	25年10月～26年9月		
ブラジル		26年3月～27年2月	26年4月～27年3月	25年10月～26年9月
アルゼンチン	25年12月～26年11月	26年3月～27年2月		25年10月～26年9月
タイ			26年1月～12月	
インド	25年4月～26年3月		25年10月～26年9月	
ベトナム			26年1月～12月	

注 市場年度は、おおむね各国で作物が収穫される時期を期首として各国ごとに設定されているため、国、作物によって年度の開始月は異なります。
例えば、2025/26年度は、米国の小麦では2025年6月～2026年5月、ブラジルのとうもろこしでは2026年3月～2027年2月です。
なお、各国別、作物別の市場年度は、米国農務省によります。
<https://apps.fas.usda.gov/psdonline/app/index.html#/app/downloads>（「Reference Data」タブを参照）

(参考2)単位換算表

1 容積→重量

1 Bushel （ブッシェル） （穀物により異なる）	0.027216	メトリックトン	小麦、大豆	米国等
	0.021772	メトリックトン	大麦	
	0.025401	メトリックトン	とうもろこし	
	0.014515	メトリックトン	オーツ	
1 CWT(百ポンド)	0.045359	メトリックトン	コメ	米国等

2 面積

1Acre(エーカー)	0.40469	ヘクタール	米国等
1rai(ライ)	0.16	ヘクタール	タイ
1 亩(ムー)	0.0667	ヘクタール	中国

3 その他

1ガロン	4.536	リットル	英国
1ガロン	3.785	リットル	米国
1LAKH(ラーク)	10万	位取り	インド
1斤	500g	重量	中国
華氏→摂氏：℃＝(° F－32)÷1.8			

(参考3)各国のクロップカレンダー一覧(主要品目毎)

主要生産国のクロップカレンダー(小麦)

※カレンダーの縦幅は世界の生産量に占める各国の割合を示している。

国名	N年												N+1年												2024/2025 (単位：百万トン)		生産量に 占める 輸出量の 割合
	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	生産量 (シェア)	輸出量 (シェア)	
中国	□ Market year 冬小麦 → 収穫 → 播種 → 収穫 → 播種 春小麦 → 播種 → 収穫 → 播種 → 収穫												140 (17.5%)	1 (0.5%)	0.7%												
EU	冬小麦 → 収穫 → 播種 → 収穫 → 播種 春小麦 → 播種 → 収穫 → 播種 → 収穫												122 (15.3%)	27 (12.9%)	22%												
インド	播種 → 収穫 → 播種 → 収穫 → 播種												113 (14.2%)	0.2 (0.1%)	0.2%												
ロシア	冬小麦 → 収穫 → 播種 → 収穫 → 播種 春小麦 → 播種 → 収穫 → 播種 → 収穫												82 (10.2%)	44 (21.1%)	53%												
アメリカ	冬小麦 → 収穫 → 播種 → 収穫 → 播種 春小麦 → 播種 → 収穫 → 播種 → 収穫												54 (6.7%)	22 (10.8%)	42%												
カナダ	冬小麦 → 播種 → 収穫 → 播種 → 収穫 春小麦 → 播種 → 収穫 → 播種 → 収穫												35 (4.4%)	27 (13.1%)	77%												
オーストラリア	播種 → 収穫 → 播種 → 収穫 → 播種												34 (4.3%)	25 (12.1%)	73%												
パキスタン	播種 → 収穫 → 播種 → 収穫 → 播種												31 (3.9%)	1 (0.2%)	2%												

資料：AMIS「Supply and demand balances manual」、USDA「Crop Calendars」、「PS&D」(2025.5)

注：生産量のシェアが3%以上の国のクロップカレンダーを記載している。
冬小麦と春小麦の収穫量の割合は便宜的にデュラム小麦は全て春小麦としている。

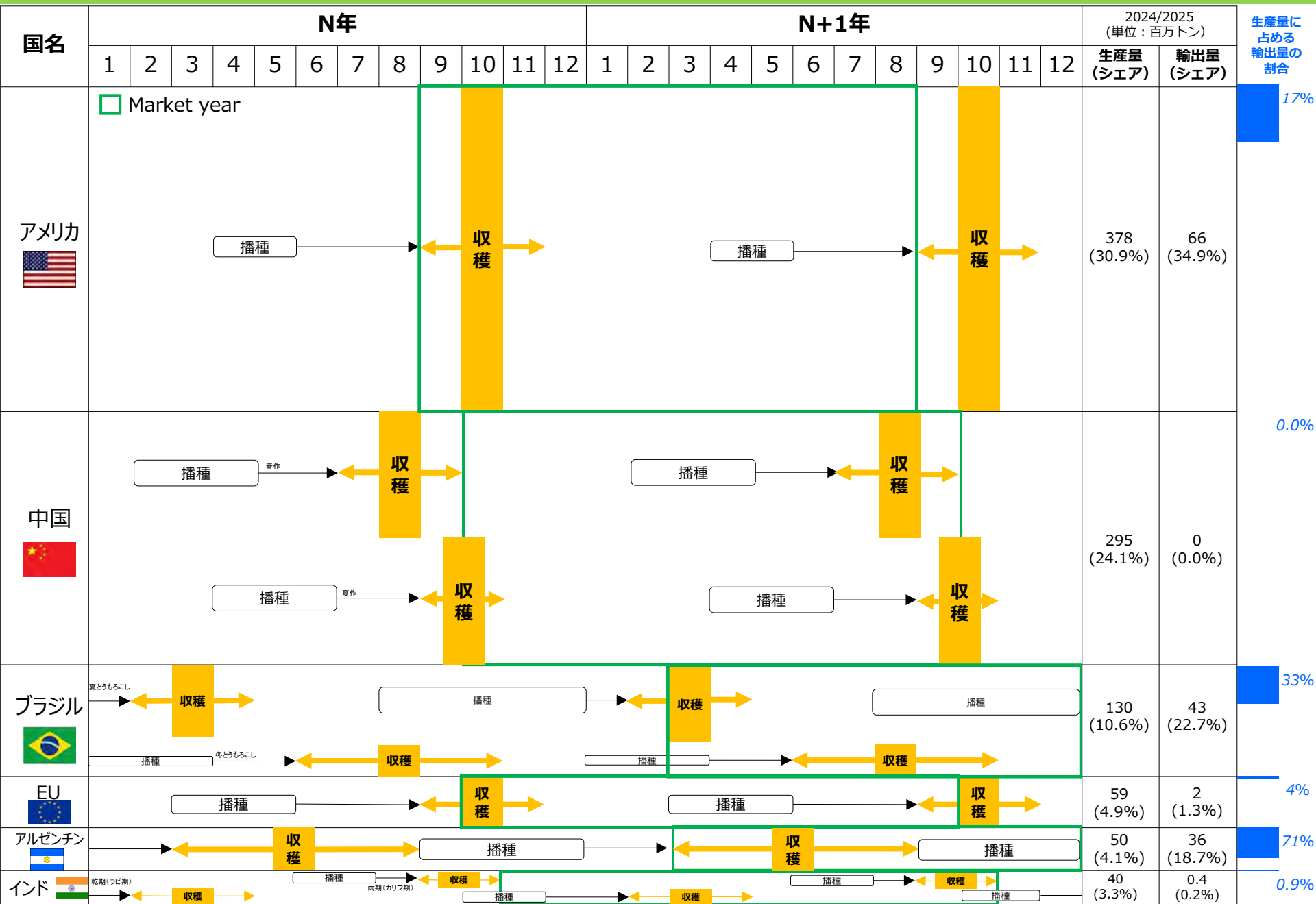
その他：

※カレンダーの縦幅は世界の生産量に占める各国の割合を示している。

資料：AMIS「Supply and demand balances manual」、USDA「Crop Calendar」、PS&D（2025.5） 注：生産量のシェアが3%以上の国のクロップカレンダーを記載している。 その他： 127 (23.6%) 21 (34.4%)

主要生産国のクロップカレンダー(とうもろこし)

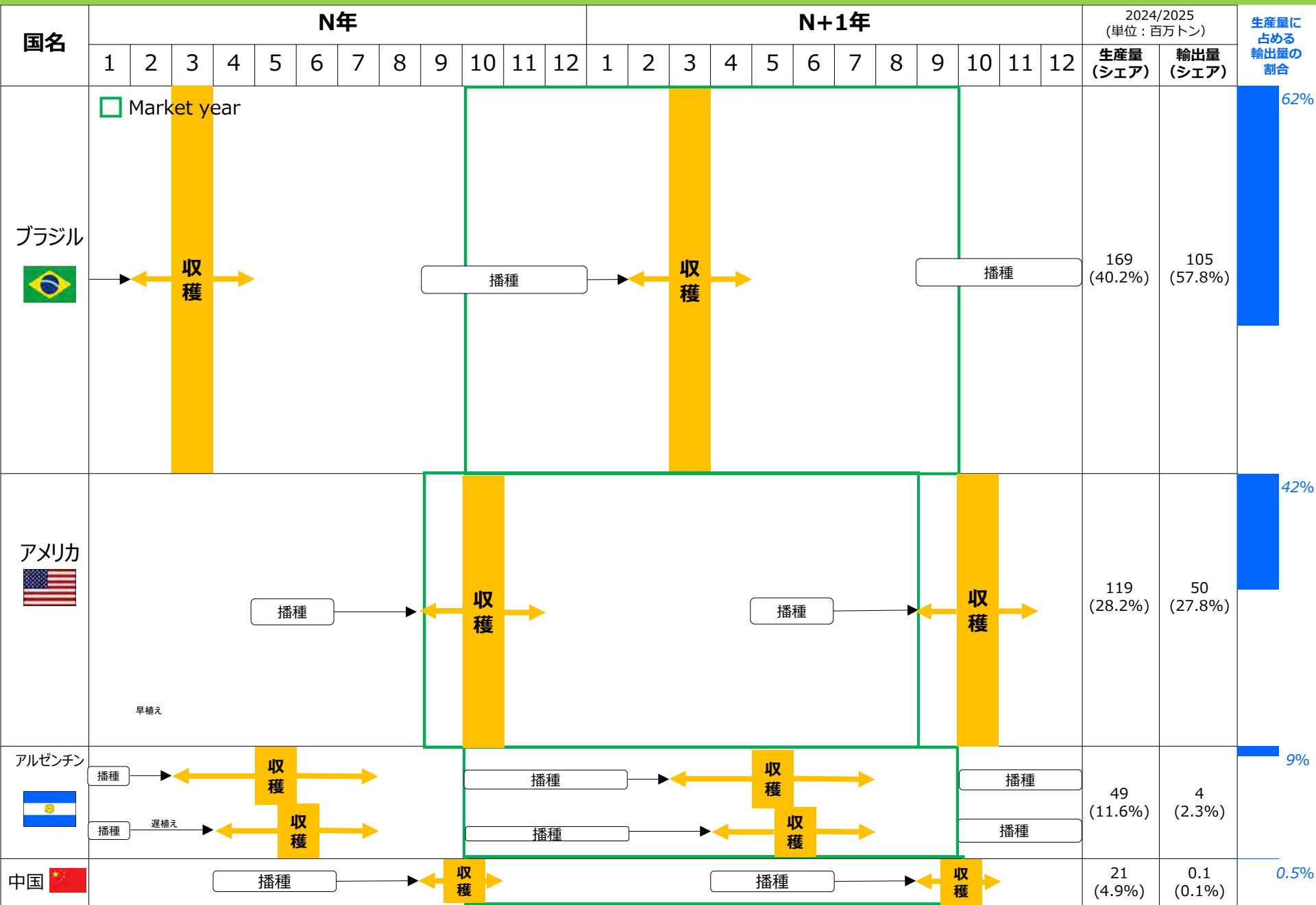
※カレンダーの縦幅は世界の生産量に占める各国の割合を示している。



資料：AMIS「Supply and demand balances manual」、USDA「PS&D」（2025.5）注：生産量のシェアが3%以上の国のクロップカレンダーを記載している。 その他：269 (22.1%) 42 (22.2%)

主要生産国のクロップカレンダー(大豆)

※カレンダーの縦幅は世界の生産量に占める各国の割合を示している。



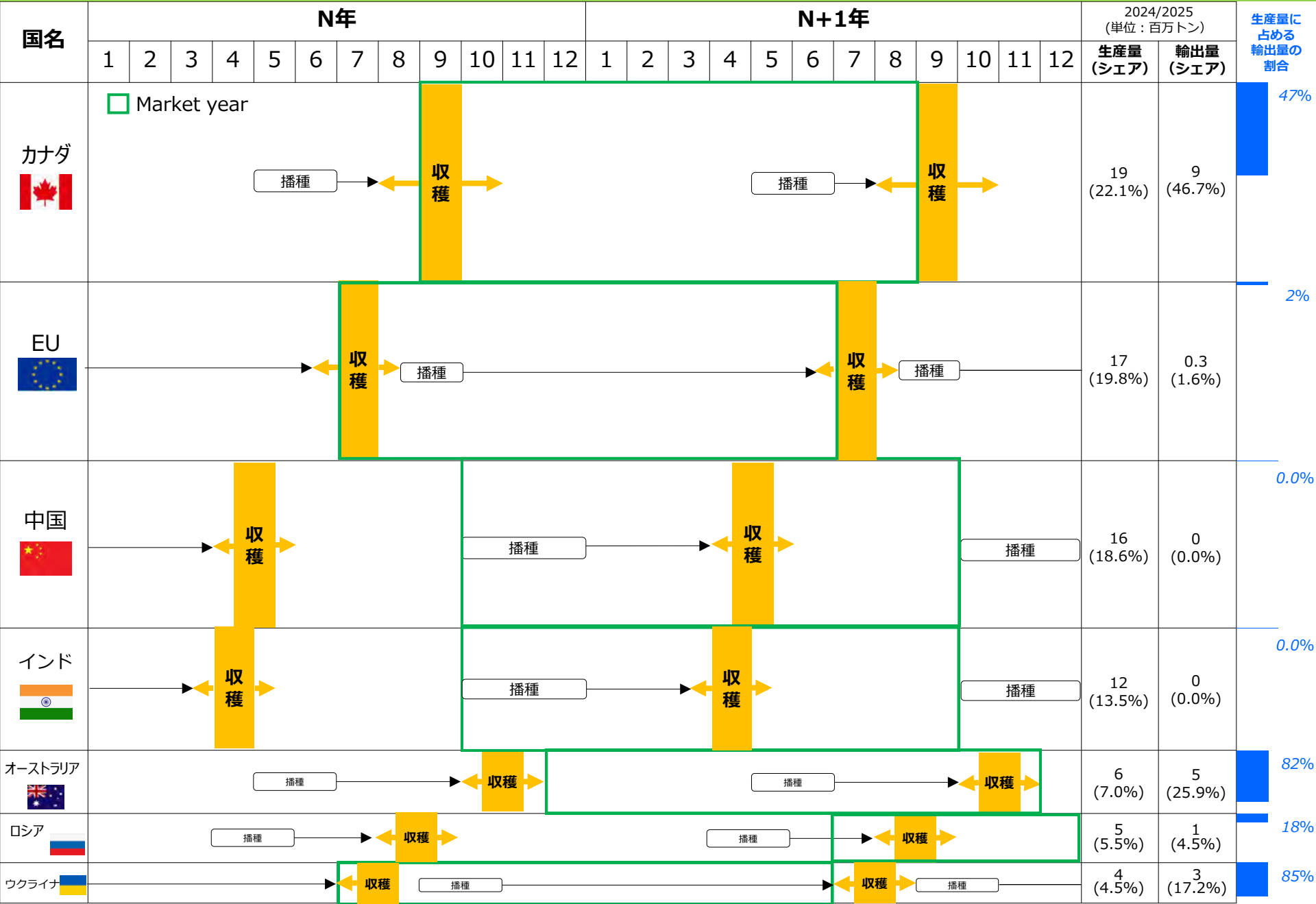
資料：AMIS「Supply and demand balances manual」、USDA「PS&D」（2025.5）注：生産量のシェアが3%以上の国のクロップカレンダーを記載している。 その他：

63
(15.1%)

22
(12.0%)

主要生産国のクロップカレンダー(菜種)

※カレンダーの縦幅は世界の生産量に占める各国の割合を示している。



資料：USDA「Crop Calendar」、「PS&D」（2025.5）

注：生産量のシェアが3%以上の国のクロップカレンダーを記載している。

その他：8
(9.1%) 1
(4.1%)

【利用上の注意】

食料安全保障月報は、国際穀物需給に関し、在外公館からの情報、農林水産省が独自に各国の現地コンサルタント等を通じて入手した情報、公的機関（各国政府機関、FAO、IGC 等）の公表資料、Oil World 等民間の調査会社から購入した資料、その他、商社情報や新聞情報等から入手した情報を農林水産省の担当者において検証、整理、分析したものです。

○ 本月報に記載のない情報は以下を参照願います。

（１） 農林水産省の情報

ア 我が国の食料需給表や食品価格、国内生産等に関する情報

- ・ 食料需給表：<http://www.maff.go.jp/j/zyukyu/fbs/>
- ・ 食品の価格動向：<http://www.maff.go.jp/j/zyukyu/anpo/kouri/index.html>
- ・ 米に関するマンスリーレポート：<http://www.maff.go.jp/j/seisan/keikaku/soukatu/mr.html>

イ 中・長期見通しに関する情報

- ・ 食料需給見通し（農林水産政策研究所）：<http://www.maff.go.jp/primaff/seika/jyukyu.html>

（２） 農林水産関係機関の情報（ALIC の情報サイト）：<https://www.alic.go.jp/>

- ・ 砂糖、でんぷん：<https://www.alic.go.jp/sugar/index.html>
- ・ 野菜：<https://www.alic.go.jp/vegetable/index.html>
- ・ 畜産物：<https://www.alic.go.jp/livestock/index.html>

（３） その他海外の機関（英語及び各国語となります）

ア 国際機関

- ・ 国連食糧農業機関（FAO）：<https://www.fao.org/home/en>
- ・ 国際穀物理事会（IGC）：<https://www.igc.int/en/default.aspx>
- ・ 経済協力開発機構（OECD）（農業分野）：<https://www.oecd.org/agriculture/>
- ・ 農業市場情報システム（AMIS）：<http://www.amis-outlook.org/>

イ 各国の農業関係機関（代表的なものです）

- ・ 米国農務省（USDA）：<https://www.usda.gov/>
- ・ ブラジル食料供給公社（CONAB）：<https://www.gov.br/conab/pt-br>
- ・ カナダ農務農産食品省（AAFC）：<https://agriculture.canada.ca/en/sector/crops/reports-statistics>
- ・ 豪州農業資源経済科学局（ABARES）：<http://www.agriculture.gov.au/abares>

○ 食料安全保障月報で使用している統計数値は、主に米国農務省が 2025 年 5 月中旬までに発表した情報を引用しています。（最新年度 2025/26 年度です）

さらに詳細なデータ等が必要な場合は、米国農務省のホームページを参照願います。

<https://www.usda.gov/about-usda/reports-and-data/agency-reports>

主な参考資料

「World Agricultural Supply and Demand Estimates」

<http://www.usda.gov/oce/commodity/wasde/>

「Grain : World Markets and Trade」

<https://www.fas.usda.gov/data/grain-world-markets-and-trade>

「Oilseeds : World Markets and Trade」

<https://www.fas.usda.gov/data/oilseeds-world-markets-and-trade>

「World Agricultural Production」

<https://www.fas.usda.gov/data/world-agricultural-production>

「PS&D」

<https://apps.fas.usda.gov/psdonline/app/index.html#/app/advQuery>

など

- **データは予測値であり、毎月各種データの更新を受けて改訂されます**ので留意してください。
- 資料原典で表示されるブッシェル及びエーカー等の単位は、それぞれトン及びヘクタールに換算して記載しています。
- 資料原典において現地通貨で表示される金額を円換算するにあたっては、日本銀行国際局・財務大臣公示の基準外国為替相場及び裁定外国為替相場等の換算レートを用いています。
- 市場年度は、おおむね各国で作物が収穫される時期を期首として各国ごとに設定されているため、国、作物によって年度の開始月は異なります。
なお、各国別、作物別の市場年度は、米国農務省によります。
<https://apps.fas.usda.gov/psdonline/app/index.html#/app/downloads>
(注：同サイトの「Reference Data」を参照)
- 期末在庫率の対前年度増減率の欄は、前年度とのポイント差になります。なお、表示単位以下の数値により計算しているため、表上では合わない場合があります。
- 本資料の引用等につきましては、出所（農林水産省発行「食料安全保障月報」）を併記願います。

なお、生産見通し等の予測は、各国国際機関及び各国の農業機関によりそれぞれの分析手法に基づき行われるため、機関によってデータの相違がある場合があります。また、各国の農業機関の公表を受けて、国際機関の見通しが改訂される場合があります。

ロシアが占領しているウクライナのクリミアの生産量については、米国農務省はウクライナとして集計しています。

- 本月報の電子版は下記アドレスでご覧になれます。

農林水産省 食料安全保障月報

http://www.maff.go.jp/j/zyukyu/jki/j_rep/index.html

- 本資料に関するご質問、ご意見等は、下記までお願いします。

連絡先	農林水産省大臣官房政策課食料安全保障室 TEL : 03-6744-2368 (直通)
------------	--

「食料安全保障月報」に関するアンケート

いつも食料安全保障月報（以下、「月報」）を御愛読いただきありがとうございます。
今後のより良い月報の作成に生かすため、皆様の声を是非お聞かせください。

- 1 あなたの所属を教えてください。（選択式）
商社、食品・飼料メーカー、食品卸・小売業、調査会社、自治体、大学・研究機関、大
学生・高校生、その他
- 2 あなたの所属する会社・組織が所在する地域を教えてください。（選択式）
北海道、東北、関東（東京以外）、東京、中部、近畿、中国、四国、九州・沖縄、海外
その他
- 3 月報をどこで知りましたか。（選択式）
口コミ、以前から（海外食料需給レポート時代から）、検索エンジン、農水省 HP、
書籍、その他
- 4 月報を書籍で知った場合、その書名が分かれば教えてください。
- 5 月報で一番関心／参考にしている項目は何ですか。（複数選択可）
概要編（今月の主な動き（穀物等の国際価格の動向）、今月の注目情報、今月のコラム、
その他）
品目別需給編（小麦、とうもろこし、コメ、油糧種子（大豆））
特別分析トピック
- 6 今後重点的に取り上げてほしいテーマは何ですか。（自由記載）
テーマ例：世界的な異常気象（干ばつ、洪水など）の穀物生産への影響
地域別の穀物需給動向（米国、南米、豪州、東南アジア等）
ウクライナ情勢の生産・貿易への影響
中国の需要・輸入動向
世界的な人口増加による食料需要・貿易への影響
中長期（10 年先）、超長期（30 年先）的な食料需給見通し
- 7 今後月報に期待することはありますか。（自由記載）

ご回答は以下 URL または右の QR コードよりアクセス願います。

https://www.contactus.maff.go.jp/j/form/kanbo/anpo/anpo_geppou_ankeeto.html

